

# リアホナ

主イエス・キリスト



ジョン・ラスキン「エルサレムの旧市」

### 「わたしの父の家」アル・ラウンス画

紀元33年ごろ、ゲッセマネの園から眺める神殿とアトニヤ要塞はこのように見えたことでしょう。エルサレムの旧市内を囲む城壁や、野花とオリーブの樹木で覆われた丘陵の斜面も描かれています。

## 特別号をお読みになる皆様へ

**聖**典を開いて主イエス・キリストの生涯と務めについて読むとき、わたしたちは、主が示された愛の模範がどれほど大きなものであったかを実感します。主は人々を癒し、祝福されました。御自身の務めや教え、偉大な贖いの犠牲を通し、希望を与え、癒し、赦しながら、人間の弱さを憐れみ、その気持ちを大切にされました。

救い主、すなわち神の御子は生きておられます。主はわたしたちの思いを知り、わたしたちを愛しておられます。わ

たしたちを哀れみ、祝福することを望んでおられます。これこそがこの特別号の伝えるメッセージです。今月号では、生ける預言者と使徒が、キリストがどのような御方で何を与えてくださるかについて教えています。また、ごく普通の会員が、主のもとに来て、主から学び、主に従うというキリストの招きに従ったことで得た祝福について証しています。

これらのメッセージを祈るような気持ちで研究し、心にとどめ、ほかの人にも紹介していただければ幸いです。

——編集者一同



表紙  
表紙——「幼子を祝福されるイエス」の一部。  
カール・ヘンリック・ブロック画。  
裏表紙——テッポウユリの写真/マシュー・ライアー



### メッセージ

#### 大管長会メッセージ

#### 4 わたしたちはイエス・キリストについて証します

ゴードン・B・ヒンクレー大管長  
将来何が起ころうとも、世の贖い主は確固として揺るがずに立っておられます。

#### 家庭訪問メッセージ

訪問先の姉妹たちの必要に最も合った記事を選び、紹介してください。



### 特集記事

#### 8 小羊は生きておられる——末日の預言者たちの証

末日聖徒イエス・キリスト教会の15人の歴代大管長全員が、救い主について証しています。

#### 12 イエス・キリストとはどのような御方でしょうか

ポイド・K・バックー会長  
イエス・キリストはわたしたちの主、わたしたちの贖い主、御父に対するわたしたちの弁護者であられます。主は御自分の血をもってわたしたちを贖っていただきました。

#### 20 わたしは道である

デビッド・A・エドワーズ  
命のパン、世の光、まことのぶどうの木、良い羊飼ひ。「わたしは……である」と語ったとき、イエスは御自分がどのような存在で、わたしたちのために何をするかを教えられました。



58

## 24 イエス・キリストを信じる信仰

ラッセル・M・ネルソン長老

イエス・キリストを信じる信仰は、この世の生活に祝福をもたらすだけでなく、わたしたちの永遠の救いと昇栄に不可欠です。

## 31 エミリオの信仰

ラモン・ラミレス

エミリオの病状は日増しに悪化し、医師たちにもなすすべがありませんでした。しかし、救い主に対するこの若者の信仰がすべてを変えたのです。

## 32 イエス・キリストの贖罪

ジェフリー・R・ホランド長老

肉における神の独り子の贖罪は、キリスト教の教義上、きわめて大切な基礎を成しており、この世が享受した神の愛の中でも最も大きな表れです。

## 39 贖いの効力

匿名

失意のどん底にいたアレックスは、いつでも祈って助けを求められることを思い出しました。

## 42 生けるキリスト

末日聖徒イエス・キリスト教会の使徒たちによる証

現代の使徒たちの言葉を、救い主の生涯と教導の業を描いた絵画とともに紹介します。

## 48 キリストのもとに来なさい

ヘンリー・B・アイリング管長

「キリストのもとに来なさい」という言葉は、あなたが人に伝えることのできる最も重要な招きの言葉、そしてだれでもが受け入れることのできる最も重要な招きの言葉です。



32

## 53 わたしは救われていたのでしょうか

シャルロット・グッドマン・マキューアン

皆の前でイエス・キリストを自分の救い主として受け入れるよう勧められたとき、わたしはどうしてよいのか分かりませんでした。すでに自分がイエス・キリストを受け入れていたということに悟ったのは後になってからでした。

## 54 わたしたちは信じています

末日聖徒はイエス・キリストについて何を信じているのでしょうか。

## 58 キリストの証人になる

D・トッド・クリストファーソン長老

わたしたちは、ほかの人々、とりわけ、自分の子供たちがキリストのもとに来よう、積極的に手助けすることができます。

## 64 賛美歌によって礼拝する

賛美歌を通して、わたしたちは感謝の気持ちを表し、賛美し、回復された救い主の福音を学び、主の贖いを覚え、主に従う決意をすることができます。

## 68 分かりやすくて貴い真理

救い主についての教義を、聖書および末日の預言者と聖文から紹介します。



救い主についてさらに詳しくお知りになりたい場合、あるいは今月号をインターネットでご覧になりたい場合は <http://www.lds.org> にアクセスしてください。様々な言語で閲覧することができます。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:ゲアリー・J・コールマン, 菊地良彦, ジェラルド・N・ランド, W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケープ

主任編集者:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐:ジェニファー・L・グリーンウッド

副編集長:ライアン・カー, アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:クリスティーン・バンズ, リンダ・ステール・クーパー, デビッド・A・エドワーズ, ラリー・ポーター・ガント, キャリー・カステン, ジェニファー・マディー, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ショシュア・J・パーキー, キンバリー・リード, リチャード・M・ロム・ニードン・L・サール, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワートル

主任秘書:ローレル・トイスチャー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・キャンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロヨ, コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーテッド・トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, エリック・P・ジョンソン, デニス・カービー, ギニー・J・ニコルソン, ランドール・J・ビクストン

印刷ディレクター:クレーグ・K・セジウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙\*でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アリ(ニア)語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, ウルドゥー語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリヤン語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブアン語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, ビスラマ語, ヒンディー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2008 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本  
「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

**For Readers in the United States and Canada:**

March 2008 no. 3 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



24

**今月号の活用法**

イエス・キリストの様々な称号を理解する。聖文を通して、イエスは多くの名前でも知られています。今月号ではそのうちの幾つかを採り上げています。主の称号を知り、その一つ一つがあなた自身の生活にどのような意味を持つかを理解するとき、主の愛をどのように感じますか。

救い主について証する。「キリストの証人になる」(58ページ)を読み、主の証人になるための方法について、またその方法をどのように実践するかを考えます。救い主について証することにより、あなたの信仰はどのように強められますか。

福音を教え、学ぶ。末日聖徒イエス・キリスト教会では、家庭や教会で福音を教えるための様々な資料を用意しています。詳しくは <http://www.ldsatalog.com> にアクセスするか、日本の教会配送センターまでお問い合わせください。



75

**通常記事**

74 ポスター

75 末日聖徒の声  
イエス・キリストの約束を通して希望を感じた人々の証

80 イエスさまのように  
救い主の模範に従う子供たちのお話

**今月号に採り上げられているテーマ**

証, 4, 8, 20, 42, 58	謙遜, 12
贖い, 12, 32, 39, 64	幸福, 48
イエス・キリストの称号, 4, 12, 20, 42, 68	死, 75
イエス・キリストの恵み, 32, 53, 54, 68	使徒, 42
イエス・キリストの模範, 48, 58, 68, 74, 80	従順, 58, 64
イエス・キリストを信じる信仰, 4, 8, 24, 31, 48, 54, 68, 74, 75	スミス, ジョセフ, 54, 68
癒し, 31	聖餐, 39
援助, 75	聖文, 54, 68
音楽, 64, 75	聖約, 48
改宗・改心, 39, 48	選択の自由, 12
感謝, 64	創造, 12, 24
犠牲, 32	墮落, 32
悔い改め, 12, 39	伝道活動, 58, 80
	バプテスマ, 39, 48, 53
	復活, 32, 54
	復活祭, 75
	奉仕, 75, 80
	預言者, 8, 68

# わたしたちは イエス・キリストについて あかし 証します



ゴードン・B・ヒンクレー大管長

**今**から約2,000年前、人類の贖い主がユダヤのベツレヘムでお生まれになりました。この御方はまだ幼子であったときに、エルサレムの神殿に連れて行かれました。そこで、マリヤとヨセフは、世の救い主になるよう定められていたその小さな幼子についてシメオンとアンナが語ったすばらしい預言を聞きました。

この御方はガリラヤのナザレで幼年時代の大半を過ごし、12歳のときに再び神殿に連れて行かれました。そこでマリヤとヨセフは、この御方が教師たちと語り合っていたのを見ました。「教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた。」(ジョセフ・スミス訳ルカ2:46)

イエスは成長して青年となり、「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛されました(ルカ2:52)。そして、ヨルダン川でヨハネからバプテスマをお受けになりました。「すべての正しいことを成就する」ためです(マタイ3:15)。公に務めを始める前に、40日40夜、断食し、サタンの誘惑に耐え、その後、人々を教え、癒し、祝福されました。

## 大いなるエホバ

イエスは実に旧約の大いなるエホバであり、天におられる御父の王宮を出て、御自身を低くして最もつましい環境の下に生まれる幼子としてこの世に降って来られたのです。主の生誕は何世紀も前にイザヤにより預言されていました。イザヤの預言の言葉は次のとおりです。「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。主権は彼の肩にあり、その名は『靈妙、助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』ととなえられる。」(欽定訳イザヤ9:6から和訳)

わたしたちが厳粛に証を述べるこのイエス・キリストは、黙示者ヨハネが述べているように、「忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者」です。イエス・キリストは、「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、王とし、祭司として」くださいました。この御方に「世々限りなく栄光と権力がとが」ありますように(欽定訳黙示1:5-6から和訳)。

## 世の救い主

イエス・キリストは、過去も現在も全能者の御子です。地上を歩んだ人の中でただ一人、完全な御方です。イエス・キリストは病人を癒し、足の不自由な人を歩けるようにし、目の見えな

キリストは  
わたしたちの  
信仰の中心です。  
主は、  
地上で御自身の民を  
治めるために  
再臨されます。  
わたしたちの王、主、  
教師であり、  
御父の右に立っておられる  
生けるキリストです。



主<sup>は</sup>務めを始める前に、  
40日40夜、断食し、  
サタンの誘惑に耐え、  
その後、人々を教え、  
癒<sup>いや</sup>し、祝福されました。  
主の生涯のすばらしさ、  
主の死に伴う威光、  
人類への  
主の賜物<sup>たまもの</sup>の普遍性を  
完全に理解できる人は  
いません。



い人を見えるようにし、耳の聞こえない人を聞こえるようにされました。また、死者をよみがえらせられました。そして何より、イエス・キリストは贖罪<sup>しよくざい</sup>という行為のために御自分の命をささげられたのです。その贖罪の重要性はわたしたちの理解を超えるものです。

ルカはこの苦しみが非常に大きく、「その汗が血のしたたりのように地に落ちた」と記録しています(ルカ22:44)。そのときの霊的な苦しみの肉体への現れがモルモン書と教義と聖約にも記されています(モーサヤ3:7;教義と聖約19:18参照)。ゲツセマネでの苦しみと、ゲツセマネからわずか数百メートルのカルバリの十字架上での苦しみは、ベニヤミン王が言う

ように、肉体と霊の両方の「試練……苦痛や飢え、渇き、疲労……人にとっては死ぬ以外に耐えようのないもの」でした(モーサヤ3:7)。

イエス・キリストは、ゲツセマネで苦しまれた後、捕らえられ、裁かれ、罪を宣告され、十字架上で言語に絶する苦痛を受けて亡くなり、その後、ヨセフの墓に葬られ、勝利の復活を遂げられました。2,000年前につましい環境の下に生まれ、聖地のほこりの道を歩んだ御方が、全能の主、王の王、万人に救いをもたらす御方とされたのです。主の生涯のすばらしさ、主の死に伴う威光、人類への主の賜物<sup>たまもの</sup>の普遍性を完全に理解できる人はいません。しかしながら、わたしたちは主がお亡くなりになったとき



に百卒長が語った言葉を借りてはっきりと宣言します。「まことに、この人は神の子であった。」(マルコ15:39)

### わたしたちの生ける主

旧世界における契約の書である聖書には、このことが証として述べられています。また、もう一つの声があります。それは新世界における契約の書であるモルモン書です。その中で御父は復活された御子を紹介し、次のように宣言しておられます。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。」(3ニーファイ11:7) エルサレムから昇天されたわたしたちの救い主は、このように御父により紹介されたときから、御自身の「他の羊」(ヨハネ10:16)の間で務めを始められたのです。モルモン書の中で終始述べられているメッセージは、イエス・キリストが神の御子であられ、人類の罪を贖ってくださった主の愛により、神のすべての息子や娘は永遠の祝福にあずかれるということです。モルモン書の預言者は次のように述べています。

「わたしたちは子孫と同胞<sup>はらから</sup>に、キリストを信じ、神と和解するように説き勧めるために、熱心に記録し続けようと努めている。それは、わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。

わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦し<sup>ゆる</sup>を求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25:23, 26)

これらすべてに付け加えて、近代の預言者たちは次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』」(教義と聖約76:22) 教義と聖約の中で、主は御自分の神聖な役割について明白に証しておられます。「わたしはアルパでありオメガであり、主なるキリストである。すなわち、わたしは初めであり終わりである者、世の贖い主である。」(教義と聖約19:1)

イエス・キリストはわたしたちの教師であり、良い羊飼いであられるだけでなく、すばらしい模範です。主は次のように命じておられます。「もしあなたが完全になりたいと思うなら、……わたしに従ってきなさい。」(マタイ19:21)

### 隅のかしら石

イエス・キリストは教会の「隅のかしら石」です。「末日聖徒

イエス・キリスト教会」という名のとおり、教会は主の名を冠しています。わたしたちを救うことができる名は、主の名を別にしては、だれにも与えられていません(使徒4:12参照)。キリストはわたしたちの救いの源であり、永遠の命を与えてくださる御方です(ヘブル5:9参照)。過去、現在、未来において、主は比類なき御方です。神が、その愛される御子という賜物を下さったことに感謝します。そして御子は、わたしたちが生きられるように、御自分の命を与えてくださいました。主はわたしたちの信仰と主の教会の揺るぎない隅のかしら石です。

### わたしたちの信仰の中心

わたしたちは、将来起こることのすべてを知っているわけではありません。また、わたしたちは不安定な世界に住んでいます。すばらしいことを成し遂げる人も、失望する人もいるでしょう。喜びに満たされ、健康や豊かな生活に恵まれる人もいる一方で、病気や幾つもの悲しい出来事に見舞われる人もいます。将来のことはわたしたちには分からないのです。しかし、ただ一つ分かっていることがあります。それは、将来何が起ころうとも、世の贖い主である神の御子は、夜空の北極星のように、わたしたちの永遠の命の錨<sup>いかり</sup>として、確固として揺るがずに立っておられるということです。御子はわたしたちの救いの岩です。わたしたちの力、慰めであり、わたしたちの信仰のまさに中心です。

順境にあっても逆境にあっても、主に頼るなら、主は必ずわたしたちに確信を与え、ほほえみかけてくださるでしょう。

主はわたしたちの礼拝の中心です。生ける神の御子であり、御父の長子、肉における独り子です。「眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえった」御方です(1コリント15:20)。そして主は、「地上でその民を治めるために」再臨されます(教義と聖約76:63。ミカ4:7;黙示11:15も参照)。

かつて地上を歩んだ人で、これほど偉大な御方はほかにいません。これほどの犠牲をささげ、これほどの祝福を与えてくださった方はほかにいません。キリストは世の救い主、贖い主です。わたしは主を信じています。主が神の御子であることを、一点の疑いもなく、また他の見解に何ら譲歩することもなく宣言します。わたしは主を愛しています。イエス・キリストの名を敬虔<sup>けいけん</sup>と畏敬<sup>いけい</sup>の念をもって語ります。キリストはわたしたちの王、主、教師であり、御父の右に立っておられる生けるキリストです。主は生きておられます。主は確かに生きておられます。輝かしくすばらしい御方であり、生ける神の生ける御子なのです。■

# 小羊は生きておられる

## 末日の預言者たちの証<sup>あかし</sup>

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』」(教義と聖約76:22)

「小羊は生きておられる。」そう証したのは、救い主イエス・キリストの預言者ジョセフ・スミスです。ジョセフ・スミスに続いて預言者、聖見者、啓示者として支持された末日聖徒イエス・キリスト教会の歴代の大管長は皆、同じ確信をもって、救い主の實在、神性、贖罪、そして復活について証しています。

### ゴードン・B・ヒンクレー大管長



「わたしは自分がこの教会の頭<sup>かしら</sup>ではないことを承知しています。主イエス・キリストが教会の頭です。わたしの使命、第一の責任、そして最大の榮譽は、主が確かに生きておられることを厳肅に証することです。イエス・キリストは神の御子であられるにもかかわらず、御自身を低くして、苦しみと争いと苦痛に満ちたこの世に来られ、人々の心を善に向け、永遠の命に至る道を

教え、全人類の罪のために犠牲として御自身をささげられました。主は『王の王、主の主であり、主は世々限りなく統治される』のです(ヘンデル『メサイア』)。……主は生きておられて、御父の右に立っておられることをわたしは厳肅に証します。』<sup>1</sup>

### ハワード・W・ハンター大管長 (1907 - 1995年)



「わたしは……神が生きておられ、イエスがキリストであられることを固く信じている人々の一員であることを感謝しています。皆さんに証します。ベツレヘムでかいばおけにお生まれになった幼子<sup>おさなご</sup>の物語は昔の神話ではありません。神の御子イエスはマリヤから生まれて死すべき世に確かに来られたのです。イエスは人々の間で生活されました。十字架上で亡くなり、復活されました。現在イエスは実際に、紛

れもなく生きておられます。イエスは人格を備えた一人の御方であり、世の救い主であられます。』<sup>2</sup>

### エズラ・タフト・ベンソン大管長 (1899 - 1994年)



「時折、『モルモンはクリスチャンなのですか』と聞かれることがあります。わたしたちは、イエス・キリストが神の御子<sup>みこ</sup>であられることを宣言しています。主イエスがわたしたちの救いの唯一の源であられると考えています。わたしたちは主の教えに従って生活しようと努力し、主が『王の王、主の主』として再びこの地上に来て、統べ治められるその日を心待ちにしています。わたしたちはモルモン書の預言者の言葉を借りて、今の世に次のように伝えるものです。『全能の主であるキリストの御名<sup>みな</sup>のほか、またその御名を通じてなければ、どのような名も道も方法



も、人の子らに救いをもたらすことはできない。』(モーサヤ3:17)」<sup>3</sup>

### スペンサー・W・キンボール大管長 (1895-1985年)



「わたしの知る限りにおいて、わたしたちは他のいかなる団体よりも[イエス・キリスト]をあがめています。わたしたちにとってイエスは神の御子である

ばかりでなく、神でもあられます。わたしたちはイエス・キリストにより統治されています。……

主についてどれほど多くを語っても、それでもなお、十分ではありません。

主は大工、ナザレ人、ガリラヤ人であるばかりでなく、イエス・キリストであり、この地の神であり、神の御子であり、さ

らに最も大切なことですが、イエスはわたしたちの救い主、<sup>あがな</sup>贖い主であられます。……

わたし自身の証を添えます。わたしはイエス・キリストが生ける神の御子であり、世の罪のために十字架におかかりになったことを知っています。

イエスはわたしの友、わたしの救い主、わたしの主、わたしの神です。」<sup>4</sup>

### ハロルド・B・リー大管長 (1899-1973年)



「ある夜、長い時間をかけて研究し深く考え、それから数日間、霊的な備えをした後に、目で見るとはるかに力強い証を得ました。それによって

わたしはいかなる疑問をも挟むことな

く証できます。すなわち、イエスがキリストであり、生ける神の御子であること、イエスは生きて、亡くなり、そしてよみがえり、<sup>こんいち</sup>今日、諸天にあって管理し、この教会の諸事を導いておられることを全身全霊で知っています。この教会が御子の名を冠しているのは、御子の教えを説いているからです。わたしはこのことを謹んで証し、わたしの証として皆さんにお伝えします。」<sup>5</sup>

### ジョセフ・フィールディング・スミス大管長

(1876-1972年)



「救いはキリストの内にあります。キリストが御自身の血を流すことにより無窮で永遠の贖罪を成し遂げられたために、救いはもたら

されるのです。キリストは神の御子であって、わたしたちが墮落と呼ぶもののゆえに生じた肉体と霊の死から人を贖うためにこの世に来られました。

すべての人は死すべき体にあつてなした行いに応じて裁かれるため、イエスの慈しみと恵みによって、墓から出て来ます。……

わたしは主が生きておられること、上は天に、下は地において治めておられること、そして主の目的はことごとく果たされることを確信しています。イエスはわたしたちの主であり、神であります。そして自らジョセフ・スミスに告げて言われたように、『主は神であり、主のほかに救い主はおられない』のです(教義と聖約76:1)。』<sup>6</sup>

### デビッド・O・マッケイ大管長 (1873-1970年)



「あの忘れられない裏切りの夜の晩餐の後で、主と、ほかの使徒たちとともに卓に着いていたトマスがこう尋ねました。『どうしてその道がわかるで

しょう。』キリストの聖なる答えはこうでした。『わたしは道であり、真理であり、命である。……』(ヨハネ14:5-6) 確かにそうです。主はわたしたちの慰めの源、生命の息吹、そして救いの源であります。神との関係を知りたいと願う人は、イエス・キリストのもとに行きます。人の霊と体の不滅について知りたいと望む人は、救い主の復活によってそれがどのようなものであるか知ることができます。……

……[主は]かつてこの地上を歩まれた唯一完全な御方[です。] イエス・キリストは、気高さの最高の模範、神の性質を備えた御方、完全な愛、贖い

主、救い主、永遠の御父の汚れなき御子、光であり、命であり、道である御方です。』<sup>7</sup>

### ジョージ・アルバート・スミス大管長 (1870-1951年)



「救い主が亡くなられたのはわたしたちが生きるためでした。主は死と墓に打ち勝ち、御自身の教えに従うすべての人に栄えある復活の望みをお与えになりました。』<sup>8</sup>

「わたしたちが主の神聖な使命を信じていることを世の多くの人々が知らないことに気づいたため、わたしは幾度か機会をとらえて話してきました。すなわち、末日聖徒ほどイエス・キリストの神聖な使命をよく理解し、キリストが神の御子であられることを心から信じ、キリストが現在、御父の右で栄光の冠を受けておられることを確信している民は世界中を探してもほかにいません。』<sup>9</sup>

### ヒーバー・J・グラント大管長 (1856-1945年)



「全世界の教会員とあらゆる地に住む平和を愛する人々に、わたしたちは申し上げます。見よ、このガラヤの人は、単なる偉大な教師でも傑出した指導者でもなく、平和の君、救いの源であり、この地上における文字どおりまことの世の救い主です。

……イエスは世の贖い主であり、人類の救い主であつて、人類を贖うために命を捨てるといふ神から任じられた使命を果たすために地上に来られました。イエス・キリストは文字どおり神の御子で

あり、肉における独り子です。イエス・キリストはわたしたちの贖い主であられ、わたしたちは主を礼拝します。』<sup>10</sup>

### ジョセフ・F・スミス大管長 (1838-1918年)



「神の聖なる御霊は耳や目を通してでなく、わたしの霊、すなわちわたしの生きている永遠の部分に語られ、イエスがキリストであり、生ける神の御子であられることを明らかにされました。わたしは贖い主が生きておられることを知っていることと証します。さらに、わたしは将来、地上で贖い主にお会いし、現在あられるがままの主にお会いすることを知っています。……主はわたしに以上のことを明らかにされました。主は疑いの余地がなくなるまで、わたしの霊を証でいっぱい満たされました。』<sup>11</sup>

「世界が造られる前から天に住み、統治し、地を創造し、自ら創造したものを完成し、救うために時の中間に降りて来た御方が、この時代にあつて人々に御姿を現されました。』<sup>12</sup>

### ロレンゾ・スノー大管長 (1814-1901年)



「世界が造られる前から天に住み、統治し、地を創造し、自ら創造したものを完成し、救うために時の中間に降りて来た御方が、この時代にあつて人々に御姿を現されました。』<sup>12</sup>

「イエスはキリストであり、生ける神の御子であります。主は、墓からよみがえった後に古代の使徒たちに御自身を現したように、ジョセフ・スミスに御姿を現し、人類が救いを得られる唯一の天の真理をジョセフに知らせられました。わたしたちは神の啓示によって、すなわち聖霊の現れによってこれ

らのことを確信しており、全世界に向けて証するものです。』<sup>13</sup>

### ウィルフォード・ウッドラフ大管長 (1807-1898年)



「キリストが地上に來られた目的は人類を永遠の死から贖うために御自身を犠牲としてささげることです。……主は初めからすべてのことにおいて御父の御心に厳密に従い、与えられた苦い杯からお飲みになりました。こうして、光と栄光、誉れ、不死不滅、永遠の命が、慈愛、すなわち信仰や希望よりも大いなるものである慈愛とともにもたらされました。贖いによって神の小羊は人のために、[人]が自分では成し遂げられないことを行ってくださったのです。……」

主イエス・キリストのほか、御父の指示を受け、人を救って永遠の命を与える力を持つ御方はいません。』<sup>14</sup>

### ジョン・テラー大管長 (1808-1887年)



「確かに、喜びの油を友よりも多く注がれた主は、人と悪魔の力、それに地と地獄が手を結んだ力と格闘し、制圧なさいました。また神会のより高い力に支えられ、主は死と地獄と墓を征服し、神の御子、まことの永遠の父、メシヤ、平和の君、贖い主、世の救い主として勝利を収められました。神の御子、また人の子として行うように御父が授けておられた贖罪にかかわる業を終え、完成されたのです。』<sup>15</sup>

### ブリガム・ヤング大管長 (1801-1877年)



「わたしはイエスがキリストであり、世の救い主、贖い主であることを証します。わたしは主の言葉に従うことにより主の約束を成就してきました。主についてわたしが得ている知識は、この世の知恵から得ることはできませんし、わたしから取り去ることもできません。……」

わたしたちの主イエス・キリスト、すなわち世と世にかかわる万物を贖われた救い主は、肉における御父の独り子であります。……イエスはあらゆる人のために死を味わい、わたしたちの最初の両親が招いた負債を支払ってくださいました。』<sup>16</sup>

### 預言者ジョセフ・スミス (1805-1844年)



「天からの声がわたしたちに証した福音、すなわち喜びのおとずれはこれである。

『彼、すなわちイエスは、世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に來た。

御父からイエスの力の下に置かれて、彼により造られたすべての者が、彼によって救われるためである。』(教義と聖約76:40-42) ■

### 注

1. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 285-286
2. *The Teachings of Howard W. Hunter*, クラウド・J・ウィリアムズ編(1997年), 4
3. *The Teachings of Ezra Taft Benson* (1988年), 10
4. *The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編(1982年), 7。『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』23, 25も参照
5. *The Teachings of Harold B. Lee*, クラウド・J・ウィリアムズ編(1996年), 637
6. 「主は生けりと知る」『聖徒の道』1972年5月号, 194, 195参照
7. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』3-4, 5参照
8. “Testimony of Elder George Albert Smith,” *Liahona: The Elders’ Journal*, 1915年2月2日付, 502
9. “Divine Calling of Prophet Joseph Smith Reviewed in Connection with Mission of Redeemer of World,” *Deseret News*, 1924年12月27日付, 第3項, 6
10. 『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』223参照
11. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』7
12. *Journal History*, 1884年4月5日, 9
13. *Deseret News*, 1877年1月31日付, 834
14. 『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』69-70, 74
15. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』43-44
16. *Discourses of Brigham Young*, ジョン・A・ウイツォー選(1941年), 26



# イエス・キリストとは どのような御方でしょうか

十二使徒定員会会長代理  
ボイド・K・パッカー会長

**ピ**リポ・カイザリヤで十二使徒とともに  
おられたとき、イエスは次のようにお  
尋ねになりました。「あなたがたは  
わたしをだれと言うか。」使徒の長であったシ  
モン・ペテロが答えました。「あなたこそ、生け  
る神の子キリストです。」(マタイ 16: 15 - 16)  
後にペテロは、イエスが「天地が造られる前か  
ら、予任されていた」ことを証しています(欽定  
約 1 ペテロ 1: 20 から和訳)。主は「初めに父  
とともに」おられました。主は「長子で」あられ  
ます(教義と聖約 93: 21)。

御父の計画、すなわち救いと幸福の計画(ア  
ルマ 34: 9 参照)が提示されたとき(アルマ 42:  
5, 8 参照)、計画を受け入れたすべての人に贖  
いと憐れみをもたらすために、だれかが贖罪の  
業を行うように求められました(アルマ 34:  
16; 39: 18; 42: 15 参照)。御父は次のように  
お尋ねになりました。「わたしはだれを遣わそ  
うか。」イエスとして知られることになる御方が、  
自らの選により、臆することなく進んで次のよ  
うにお答えになりました。「わたしがここに  
います。わたしをお遣わしてください。」  
(アブラハム 3: 27) 「父よ、あ  
なたの御心が行われ、栄光は  
とこしえにあなたのものでありま  
すように。」(モーセ 4: 2)

その準備として、地球が創造

されました。「子によって、わたしは[地球]を創造  
した。子とは、わたしの独り子のことである」と、  
御父は宣言しておられます(モーセ 1: 33。エペ  
ソ 3: 9; ヒラマン 14: 12; モーセ 2: 1 も参照)。

## イエス・キリストの称号

主は、旧約聖書の預言者たちにはエホバと  
して知られていました(アブラハム 1: 16; 出エ  
ジプト 6: 3 [訳注——「主という名」の箇所が欽  
定訳聖書では「エホバというわたしの名前」と  
なっている]参照)。預言者たちは主の来臨に  
ついて示されました。「神の小羊、まことに永遠  
の父なる神の御子を見なさい。」(1 ニーファイ  
11: 21。ヨハネ 1: 14 も参照) 主の母親は、次  
のように告げられました。「その子をイエスと名  
づけなさい。彼は……いと高き者の子と、とな  
えられるでしょう。」(ルカ 1: 31 - 32)

多くの称号や名前が、主の神聖な使命と務  
めをよく表しています。主は自ら次のように教  
えられました。「わたしは世の光であり命であ  
る。わたしはアルパでありオメガであり、初め  
であり終わりである。」(3 ニーファイ 9: 18) 「わ  
たしは……父に対するあなたがたの弁護者……  
である。」(教義と聖約 29: 5。教義と聖約 110:  
14 も参照) 「わたしはよい羊飼である。」(ヨハ  
ネ 10: 11) 「わたしはメシヤであり、シオンの王  
であり、……天の岩である。」(モーセ 7: 53) 「わ  
たしが命のパンである。わたしに来る者は決  
して飢えることがなく、……かわくことがない。」  
(ヨハネ 6: 35) 「わたしはまことのぶどうの木、



イエス・キリストは  
わたしたちの主、  
わたしたちの贖い主、  
メシヤ、シオンの王、  
天の岩であられます。  
主は御自分の血をもって  
わたしたちを  
贖ってくださいました。

「クリスタス」ベルテル・トルビレンセン作。  
地球の写真 / © CORBIS IMAGES



わたしの父は農夫である。」(ヨハネ15:1)「わたしはよみがえりであり、命である。」(ヨハネ11:25)「わたしは……輝く明けの明星である。」(黙示22:16)「あなたがたの贖い主、わたしは有るという大いなる者、……イエス・キリスト[である]。」(教義と聖約29:1)

主は仲保者(1テモテ2:5参照)、救い主(ルカ2:11参照)、贖い主(教義と聖約18:47参照)、教会の頭(エペソ5:23参照)、教会の隅のかしら石(エペソ2:20参照)であられます。終わりの日に、神は「福音によ[り]……キリスト・イエスによって人々……をさばかれる」で

しょう(ローマ2:16。モルモン3:20も参照)。

「神はそのひとり子を賜<sup>たま</sup>わったほどに、この世を愛して下さった。」(ヨハネ3:16)「したがって、贖いは聖なるメシヤによって、またメシヤを通じてもたらされる。それは、メシヤが恵みと真理に満ちておられるからである。」(2ニーファイ2:6)

預言者ジョセフ・スミスは、度々次のような質問を受けました。「あなたの宗教の基本原則は何ですか。」

「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証で



す。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。』<sup>1</sup>

### イエス・キリストの謙虚さ

十字架上で亡くなる前に捕らえられたとき、主はゲツセマネから出て来ておられました。ユダによる裏切りの瞬間、ペテロは大祭司の僕マルコスに向かって剣を抜きましたが、イエスは次のように言われました。

「あなたの剣をもとの所におさめなさい。……」

それとも、わたしが父に願って、天の使たちを十二軍団以上も、今つかわしていただくことができないと、あなたは思うのか。」(マタイ 26: 52 - 53)

あらゆるののしりと虐待、<sup>むち</sup>鞭打ち、そして十字架上の死という最後の苦しみの間、主は無言のまま服従し続けられました。しかし、まさにキリスト教の教義の真髄を明らかにする、一瞬のきわめて劇的な場面においては例外でした。その瞬間は裁判の間に訪れました。今や恐れを覚えていたピラトは、イエスに次のように言いました。「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのか。」(ヨハネ 19: 10)

主が次のように語られたときの静かな威厳は、ただ想像するしかありません。「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。」(ヨハネ 19: 11) その後に起きたことは、十字架の刑を課す力がピラトにあったからではなく、主がそれを受け入れる意思を持っておられたから起きたのです。

主は次のように言われました。「わたしが……命を捨てるのは、それを再び得るためである。

だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受け取る力もある。」(ヨハネ 10: 17 - 18)

### イエス・キリストの贖罪

主が十字架上で亡くなる前にも後にも、多くの人が英雄的な無私の行いのうちに進んで自分の命をささげてきました。しかしそれらの人々の苦痛はどれも、キリストが堪え忍ばれた苦痛に匹敵するものではありませんでした。主の上には、すべての人類の背き、すべての人類の罪の重荷がのしかかっていました。そして贖罪は、成し遂げられるか否かまだ確定

していない状況にありました。主が進んで行われる業によってのみ、憐れみと正義を和解させ、永遠の律法を維持することができ、死すべき人間が贖われるために不可欠な執り成しを遂げることができたのでした。

主は自らの選により、全人類の身代わりとしてあらゆる悪事に対して罰をお受けになりました。蛮行、不道徳、邪悪、腐敗、悪癖に対して、また殺すことや、苦痛と恐怖を与えることに対して、すなわち、この地上でそれまでに行われたすべての悪と、その後に行われるすべての悪に対して、罰をお受けになったのです。そのような選をするに当たって、主はあの悪しき者、すなわち肉にとどめておかれることも死すべき者としての苦痛を受けることもない者のすさまじい力と向き合われました。それがゲツセマネでした。

贖罪がどのようにして行われたのか、わたしたちには分かりません。あの清い御方の光の前に悪が離れ去り、恥じて隠れた瞬間を見ていた人は一人もいません。すべての悪をもってしても、あの光を消すことはできませんでした。贖罪の業が成し遂げられたとき、罪の代価は支払われていました。悔い改めるすべての人に対して、死も地獄も拘束力を持たなくなりました。人はついに自由となりました。その結果、かつて生を受けたすべての人は、あの光に従うことで贖われることを選べるようになったのです。

この無限の犠牲により、すなわちこの「キリストの贖罪により、全人類は福音の律法と儀式に従うことによって救われ得る」のです(信仰箇条 1: 3)。

「わたしは  
ひつじかい  
よい羊飼である。」  
(ヨハネ 10: 11)



### 聖文の中の「贖罪」

英語の atonement (アトーンメント、「贖罪」という語は、実際には at-one-ment という3つの語であり、一体になること、神と一つになること、和解、調停、償いを意味します。

しかし、atonement という語が、英語の新約聖書にはたった1回しか出て来ないということを知っているでしょうか。たった1回です。パウロのローマ人への手紙から引用します。

「わたしたちのためにキリストが死んで下さった……」

……わたしたちが……御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。

そればかりではなく、わたしたちは、今や和解(訳注——英文では atonement)を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。」(ローマ 5: 8,

## 10 - 11. 強調付加)

英語の新約聖書の中で *atonement* という語が出て来るのはその1回だけです。すべての言葉の中でよりによって、*atonement* がです。旧約聖書でモーセの律法に関連して幾度も用いられていたのに、知られていない言葉ではありませんでした。しかし新約聖書では1回しか用いられていないのです。驚くべきことではないでしょうか。

そのことに関する説明を一つだけ知っています。モルモン書を見てみましょう。ニーファイは次のように証しています。かつて聖書には「主の完全な福音が載っていた。この主については、十二使徒が証をして……いる。」「[それらの言葉]が小羊の十二使徒の手によってユダヤ人から異邦人に伝わってから、あなたには、ほかのあらゆる教会にも増して大きな忌まわしい教会が設立されるのが見える。見よ、その教会の者たちは、分かりやすく大変貴い多くの部分を小羊の福音から取り去り、また主の多くの聖約も取り去ってしまったからである。」(1ニーファイ 13: 24, 26)

ヤコブは、大きな忌まわしい教会を次のような言葉で定義しました。「『そのために、シオンに挑む者は、ユダヤ人も異邦人も、束縛された者も自由な者も、男も女もすべて滅びる。これらの者は全地の淫婦だからである。わたしに味方しない者は、わたしに反対する者だからである。』わたしたちの神はこう言われる。」(2ニーファイ 10: 16)

ニーファイはまた次のように言いました。「非常に多くの人がつまずき、まことにサタンがその人々を大いに支配する力を持つほどになる……。それは、……分かりやすくて貴い多くの部分が、その書物から取り去られてしまったため……である。」(1ニーファイ 13: 29) それからニーファイは、それらの貴い部分が回復されることを預言しました(1ニーファイ 13: 34 - 35参照)。

そして貴い部分は回復されました。英語のモルモン書には、*atone* (「贖う」) という語が様々な語形や時制で39回出て来ます。アルマから1節だけ引用します。「さて、憐れみの計画は、贖罪 (*atonement*) が行われなければ成し遂げることができなかつた。したがって、神は憐れみの計画を成し遂げるため、正義の要求を満たすため、また御自分が完全に公正な神、憐れみ深い神であり続けるために、御自分で世の罪の贖いをされる (*atoneth*) のである。」(アルマ 42: 15. 強調付加)

新約聖書では1回だけですが、モルモン書では39回です。

モルモン書が確かにイエス・キリストについてのもう一つの証であるということを示す、これ以上の証拠があるでしょうか。

それだけではありません。*atone*, *atoneth*, *atonement* という語は、英語の教義と聖約には5回、高価な真珠には2回出て来ます。並外れて重要な意味を持つ語が、英語の標準聖典全体で47回にわたって言及されているのです。まだすべてではありません。そのほかに何百もの節が、贖罪についての説明を補っています。

## 選択の自由

主は贖罪という代価を負っていただきましたが、強いられてではありませんでした。選択の自由はきわめて重要な原則だからです。贖いの計画では、選択の自由が尊ばれなければなりません。初めから、つまりエデンの園のときからそうでした。

「主はエノク言われた。『これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。わたしは彼らを創造した日に、彼らに知識を与えた。また、エデンの園で人に選択の自由を与えた。』」(モーセ7: 32)

エデンではほかにも様々なことが起こりましたが、とにかくアダムはその究極の試しの瞬間に、一つの選択をしました。主はアダムとエバに増えて地を満たすように命じ、また善悪を知る木からは取って食べないように命じた後、次のように言われました。「それでも、あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。しかし、わたしがそれを禁じたことを覚えておきなさい。あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬからである。」(モーセ3: 17)

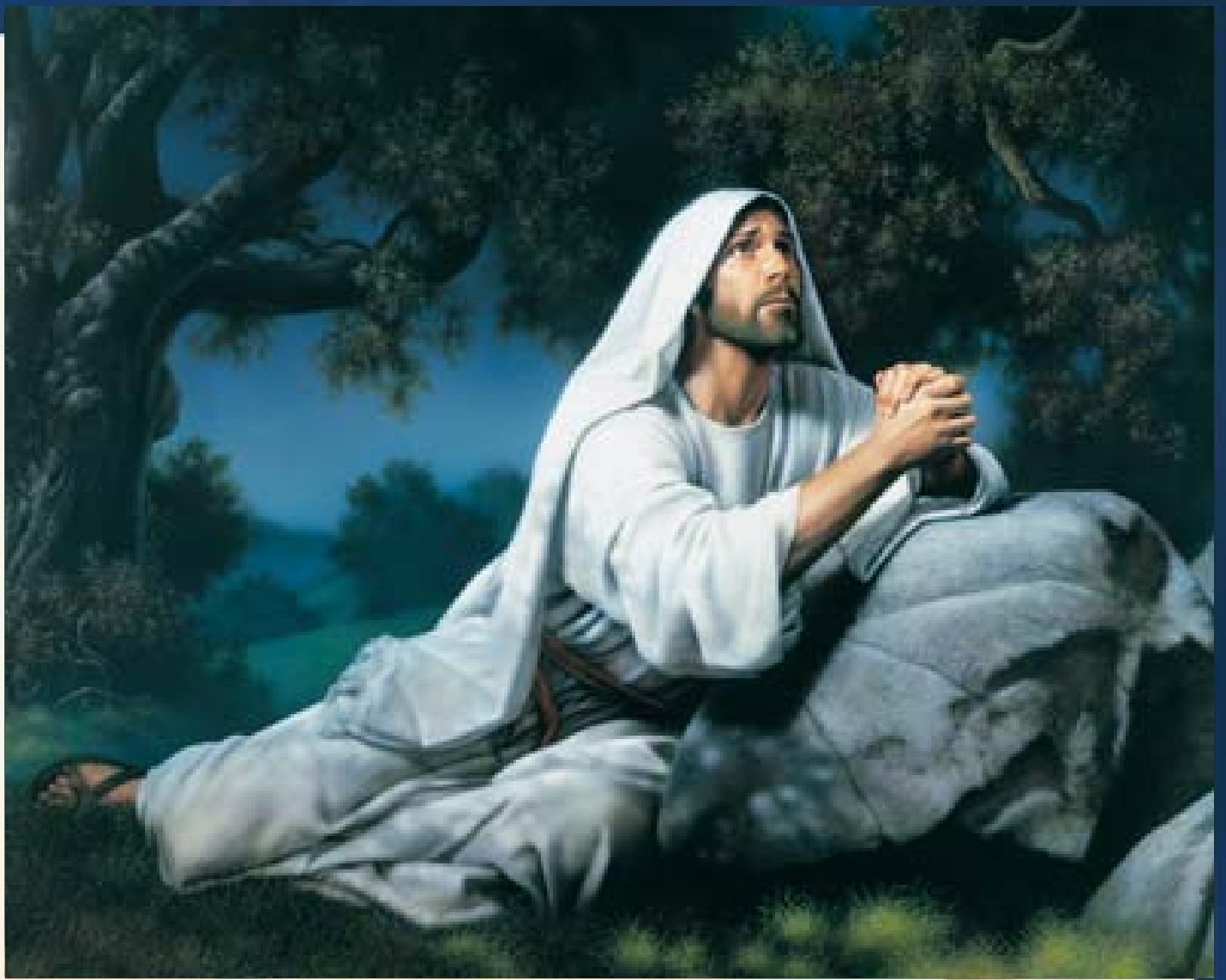
人を強制的に死すべき状態に移すことには、あまりに大きな問題がありました。それは贖いの計画にとって不可欠な律法に反することでした。計画では、神の霊の子供たち一人一人に死すべき体を与えられ、一人一人が試しを受けると定められていました。アダムはそうでなければならぬことを理解して、選択しました。

「アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」(2ニーファイ2: 25)

アダムとエバは、自分たちが命じられていたように増えて地を満たすために、意を決して行動しました。彼らの肉体がほかの何物とも異なる創造物として神の形に造られたことは、計画にとってきわめて重要でした。また、もし死すべき状態が存在すべきであり、計画が先に進む必要があったのであれば、続いて起

「わたしは  
父に対する  
あなたがたの  
弁護者である。」  
(教義と聖約110:4)





左—写真／マシュー・ライアー。右—父と子、サムエル・デュイ画。ユタ州アメリカンフォーク、アルタス・ファイン・アートの厚紙により複製

こった彼らの墮落は不可欠なものでした。

### 贖罪の必要性

ニーファイは、「無限の贖罪」がなされなかったならばわたしたちの肉体と霊にどのようなことが起こるかについて、次のように述べました。「わたしたちの霊は、〔悪魔〕のようになっていたに違いない。」(2ニーファイ9:7-10参照)

わたしは絶対にという言葉をめったに用いません。この言葉が適切であることがめったにないからです。しかし今、2度用います。

墮落のゆえに、復活して肉体の死に打ち勝つためには、贖罪が絶対に不可欠でした。

人が自らを罪から清め、第二の死、すなわちわたしたちの天の御父から離れることを意味する霊の死に打ち勝つためには、贖罪が絶対に不可欠でした。清くない者は神のもとに行くことができないと、聖文で8度にわたって告げら

れているからです(1ニーファイ10:21;15:34;アルマ7:21;11:37;40:26;ヒラマン8:25;3ニーファイ27:19;モーセ6:57参照)。

「あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである」(モーセ3:17)という聖文の言葉は、アダムとエバとその子孫を、死すべき世のあらゆる危険にさらすことになりました。死すべき世において、人は自由に選び、それぞれの選択が結果を生じます。アダムの行った選択は正義の律法を始動させました。そして正義の律法は、不従順に対する罰が死となるよう要求しました。

しかし裁判の場で語られた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない」(ヨハネ19:11)という言葉は、憐れみにも同様に力があることを示していました。負債を支払って人を解放するために、一人の贖い主が遣わされました。それが贖いの計画でした。





「わたしは平安をあなたのために残して行く」(ヨハネ14:27) ウォルター・レノン画。教会歴史美術博物館の厚意による掲載。杯の絵/ウィリアム・F・ホイッタカー。パンの写真/ステイブ・バンダーソン。聖餐の写真/ジョン・ルック



アルマの息子コリアントンは、罪には罰が伴わなければならないこと、罰が存在する必要があることを、公正でないと思いました。ある深遠な教えの中でアルマは息子に、そしてわたしたちに、贖いの計画を教えています。アルマは贖罪について語り、次のように言いました。「さて、罰がなければ、人は悔い改めをすることができなかった。」(アルマ42:16)

もしある人が、罰という代価を支払ってようやく悔い改めに至るとしたら、それは割安な代価です。結果というものは、たとえ痛みを伴うものであったとしても、わたしたちを守ってくれます。指が火に触れたときに子供が上げる痛みの叫びといった簡単なものからも、そのことを学べます。痛みがなければ、その子供は大やけどを負うかもしれないのです。

### 悔い改めの祝福

わたしはためらうことなく認めます。悔い改めのない世界では、わたしは平安も、幸福も安全も見いだすことはないでしょう。もし自分の過ちを消し去る方法がまったくなかったならば、わたしはどうすればよいか分かりません。その苦しみは、わたしに耐えられる以上のものでしょう。皆さんは別かもしませんが、わた

しには耐えられないでしょう。

贖罪は成し遂げられました。もしわたしたちが悔い改めさえすれば、贖罪はいつでも背きと霊の死からの救し<sup>ゆる</sup>を与えてくれます。悔い改めは、すべての背きと罪の結果を免れるための必須条件です。悔い改めは、獄の錠を内側から開けることのできる鍵<sup>かぎ</sup>です。わたしたちはその鍵を自分の手の内に持っており、それを用いる選択の自由を与えられています。

自由は何と貴いもののでしょうか。選択の自由は何と価値のあるもののでしょうか。

ルシフェルは、罪とその結果について欺きながら、巧妙な方法でわたしたちの選択を操ろうとします。ルシフェルとその使いたちは、ふさわしくない者、邪悪な者となるように誘惑します。しかしわたしたち自身の同意がなければ、ルシフェルはわたしたちを完全に滅ぼすことはできません。永遠にわたってできませんし、そのあらゆる力をもってしてもできません。贖罪なしに選択の自由だけが人に与えられていたならば、それは破滅を招く贈り物となっていたでしょう。

### 神の形に創造された

創世記、モーセ書、アブラハム書の中で、またモルモン書の中で、そしてエンダウメントにお

いて、わたしたちは人の死すべき体がほかの何物とも異なる創造物として神の形に造られたことを教えられています。創造が異なる方法で行われていたならば、墮落はあり得なかったでしょう。

もし人が単なる動物であったならば、何にも責任を負うことなく自由であるのが論理的だと言えます。

学識のある人々の中に、人の起源を見いだすために動物や石といったより下等な創造物に目を向ける人々がいることを、わたしは承知しています。彼らは自分自身の内側を見てそこに霊を見いだすということをしません。事物を時間で、すなわち何万年単位や何百万年単位で測ることに熟練し、人間と呼ばれるこの動物はすべて偶然に生じたのだと言います。そのように行うのは自由です。彼らには選択の自由があるからです。

しかしわたしたちにも選択の自由があります。わたしたちは人よりも大いなる存在に目を向け、宇宙の中に神の手の業を見ます。また、銘記すべき出来事とそれらが起きた時代によって、また果てしなく長い歲月によって、神権時代によって、そして永遠によって物事を測ります。自分たちには分からない多くの事柄については、信仰によって受け入れます。

わたしたちはこのことを知っています。すべては「世界が造られる前」に計画されました(教義と聖約38:1。教義と聖約49:17;76:13,39;93:7;アブラハム3:22-25も参照)。創造から最後の、結末の光景に至るまでのもろもろの出来事は、偶然に基づくものではありません。選択に基づくものなのです。そのように計画されたのです。

わたしたちはこのことを、この簡潔な真理を知っています。創造と墮落がなかったならば、贖罪も、わたしたちのために執り成しをしてくださる贖い主も必要なかったでしょう。そうであれば、キリストは存在する必要がありませんでした。

### 贖罪の象徴

ゲツセマネとゴルゴタにおいて、救い主の血が流されました。その何世紀も前に、将来起こることの象徴および予型として、過越の儀式が紹介されていました。過越は、とこしえに守るべき儀式でした(出エジプト12章参照)。

死の災いがエジプトに宣告されたとき、イスラエル人の各家族は1頭の子羊、すなわち、最初に生まれた、雄の、傷のない

子羊を取るように命じられました。この過越の子羊はどの骨も折らずにほふられ、その血は家の戸口に印を付けるのに用いられました。死の天使はそのような印の付いた家を過ぎ越し、中にいる人々を殺すことがないであろう、と主は約束されました。彼らは子羊の血によって救われたのです。

主が十字架上で亡くなられた後、犠牲の律法はもう血を流すことを要求しなくなりました。パウロがヘブル人に教えたように、「ただ一度……罪のために一つの永遠のいけにえ」がささげられたからです(ヘブル10:10,12)。それから後、犠牲とされるべきものは、打ち砕かれた心と悔いる霊、すなわち悔い改めでした。

そして、過越<sup>せいさん</sup>としてとこしえに祝われます。聖餐において、わたしたちはバプテスマの聖約を新たにし、神の小羊の体と、わたしたちのために流された小羊の血の記念を受けます。

この象徴が知恵の言葉の中で再び出て来るということは、決して小さなことではありません。知恵の言葉に従うこの時代の聖徒たちは健康と知識の大いなる宝を得るであろう、という約束のほかに、次のようにあります。「主なるわたしは彼らに一つの約束を与える。すなわち、滅ぼす天使はイスラエルの子らを過ぎ越したように彼らを過ぎ越して、彼らを殺すことはない。」(教義と聖約89:21)

わたしには贖罪に対する自分の気持ちを冷静に語ることはできません。心からの感謝と恩義の念が湧き起こってきます。わたしの心は、贖罪をもたらしくださった主、すなわち、

キリスト、わたしたちの贖い主、わたしがその証人である御方を追い求めます。わたしは主について証します。その御方は

わたしたちの主、わたしたちの贖い主、御父に対するわたしたちの弁護者であられます。主は御自分の血をもってわたしたちを贖ってくださいました。

わたしはキリストの贖罪について、へりくだりつつ主張します。わたしはひざまずいて御父と御子を礼拝することを恥ずかしとは思いません。なぜなら、わたしには**選択の自由**があるからであり、わたしはこのように行うことを選ぶからです。■

### 注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』49-50

「わたしが  
命のパンである。  
わたしに来る者は  
決して  
飢えることがな[い]。」  
(ヨハネ6:35)



# わたしは 道である

救い主は、「わたしは……である」と語ったとき、大切な教えを説かれました。

デビッド・A・エドワーズ

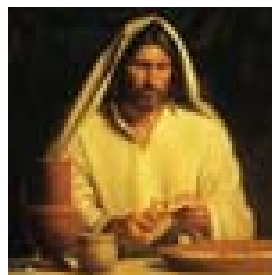
教会機関誌

**聖**文を読んでいて、繰り返される一定のパターンに突然気づき、忘れ難い経験をすることが時折あります。例えば、ヨハネによる福音書の中で、イエスが「わたしは……である」という表現を何度も使われていることに気づいたことがあるでしょうか。イエスはこのような表現を使って御自分を何かにと見え、御自分がどのような存在か、また人のためにどのようなことをするかをお教えになりました。そうした表現をよく研究してみるなら、救い主について多くのことを学べるでしょう。

## 命のパン

「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。……わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。」(ヨハネ6:35, 51)

過越の祭は、イスラエルがエジプトから解放されたことを記念するもので、このとき人々は種入れぬパンを食べます。この祭が近づいたころ、イエスは5,000人に食物を与えるという奇跡を行われました。食べ物を与えてくださったという理由で、多くの人々がこの奇跡を見て主に従いました。そこでイエスは、「永遠の命に至る朽ちない」食べ物を求めるようにと教えられました(ヨハネ6:27)。その後、マナについて

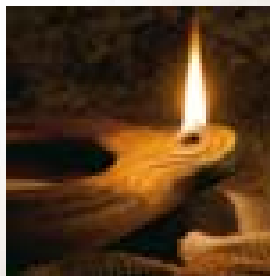


教え、マナが荒れ野にいたイスラエルの民のために、天から与えられた食物であったことを思い出させられました。さらに、「わたしが命のパンである」と宣言することによって、天の御父が主を通して霊的な養いを与えられること、また自らもたらした永遠の命の約束について、お伝えになりました。

後年、過越の祭の時期に、イエスは御自分の体を象徴するためにパンを使って、聖餐の一部とされました。毎週聖餐式でパンを頂くとき、わたしたちはイエス・キリストを思い起こします。主の犠牲や復活、また主の御霊を伴侶とすることによって常に霊的な養いが与えられるという約束を思い起こすのです。

## 世の光

「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであらう。」(ヨハネ8:12)  
仮庵の祭のときには、イエスは御自分を世の光と呼ばれました。この祭の間は、毎晩、神殿に明かりをともします。世に送られる神の光を象徴するためです。ヨハネは、イエスこそ「すべての人を照らすことの光」であると宣言しました(ヨハネ1:9)。そして、主は預言者ジョセフ・スミスを通して、キリストの光とは「あなたがたの目を明らかにする者によって来るものであり、これはあなたがたの理解を活気づける光と同じである。……万物に命を与える光であり、





万物が治められる律法」であると啓示されました(教義と聖約88:11, 13)。

わたしたちの思いと霊はイエス・キリストを通して照らされています。主の光はわたしたちを導き、善と悪を見分けられるように助け、永遠の命へと続く道を示しているのです。

### ぶどうの木

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ15:5)

イエスは御自身をぶどうの木にたとえられました。この木は地に根を張って木全体を支えているだけでなく、そこから伸びているすべての枝の隅々にまで栄養を行き渡らせ、実をならせます。イエス・キリストはわたしたちの希望の錨<sup>いかり</sup>であり、霊的に養われ、成長するための源でもあられます。主を通して、義になった生活をし、善い業をなすのに必要な力が得られます。

また主は、教会の基であり、福音の宣べ伝え世界中に広めるのに必要な権能の源であられます。

### 良い羊飼

「わたしはよい羊飼<sup>ひつじかい</sup>であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。」(ヨハネ10:14)

羊飼のおもな責任は、羊を食物や水のある場所へ導き、再び囲いに安全に連れ戻すことです。また、野生の動物や羊どろぼうといった危険から羊を守ります。自分の群れを知っている羊飼いは、1匹でも羊がいなくなればすぐに気づき、探し

に行きます。羊は羊飼いの言うことに聞き従い、すっかり信頼しています。

良い羊飼であるイエスは、わたしたちが道に迷うときには、死と罪という危険から守り、安全な牧草地である救いと永遠の命へと導かれます。

### 「わたしは、いる」

「イエスは彼らに言われた、『よくよくあなたがたに言っておく。アブラハムの生れる前<sup>うま</sup>からわたしは、いるのである。』」(ヨハネ8:58)

「わたしは、いるのである」という簡潔な表現で、イエスはすべてを語られたと言えるでしょう。これによって、主は御自身が世界の創造主であり、旧約の神エホバであることを宣言されました。エホバという名前は文字どおり、「わたしは有る」という意味だからです(出エジプト3:14参照。訳注——聖文の「わたしは、いるのである」と「わたしは有る」に当たる英文は、ともに“I am”。「エホバ」[Yehovah]の語源はヘブライ語ヤハウエ[Yahveh]で、「独立して存在する者」「永遠なる者」の意)。

イエスは神の御子であり、メシヤであり、わたしたちを罪と死から救ってくださる救い主です。神の独り子であり、罪のない唯一の御方である主がわたしたちのために成し遂げてくださったことによって、

わたしたちは永遠の命を受け、なるべき自分になることができます。■



# 「あなたがたはわたしをだれと言うか」

救い主が弟子たちにこのように尋ねられたとき、ペテロは答えました。「あなたこそ、生ける神の子キリストです。」(マタイ 16: 15 - 16 参照)

以下に掲載するのは、世界中の青少年やヤングアダルトから寄せられた、この問いかけに対する答えです。

イエス・キリストはわたしのために多くのことをしてくださいました。家族と福音を与えてくださり、勉強に関しても助けてくださいました。わたしは今、幾つかの奨学金を受けていますが、この祝福も主から頂いたものだ<sup>と</sup>確信しています。いかに生きるべきかを教えるために主が地上に来てくださらなかったら、わたしたちは天の御父のもとに戻れなくなっていたことでしょう。

**ホンジュラス、ブライアン・N (13歳)**

救い主の苦しみと死、そして贖罪<sup>しよくざい</sup>によって、わたしたちは復活し、霊的にも肉体的にも贖<sup>あがな</sup>われます。わたしはそう確信しています。信仰と悔い改めによって、自分の罪を赦されることを学びました。

**フィリピン、ジョアン・O (19歳)**

遠い昔、一人の御方が地上を歩られました。その御方の行いと言葉はわたしを含め、数え切れないほど多くの人々の人生を変えました。その御方こそ、イエス・キリストです。主の贖罪の犠牲によって、わたしの生活は日々影響を受け続けています。主の傷を通して、わたしたちの傷が癒<sup>いや</sup>されるということを知るのは、何と素晴らしいことでしょう。わたしはイエスがキリストであられることをはっきりと知っているので、主の限りない愛をまだ感じたことのない世の人々に福音を伝えるために、専任宣教師になる準備をしています。主はわたしの魂の救い主であり、贖い主です。

**クロアチア、クリスチャン・M (24歳)**

イエス・キリストはわたしたちのために、ほかのだれにもできないことをしてくださ



いました。アロン神権を受けられたことはわたしにとってすばらしい経験でした。それは主がわたしに望んでおられることだと確かに分かっていたからです。わたしは主の模範に従ってきました。主がこれからもわたしを導き、道を示してくださることを知っています。

**メキシコ、リムハイ・G (17歳)**

母の死後、生きることを重荷に感じるようになりました。やがてわたしは、ビショップに相談し、助言を求めることにしました。期待したとおりの話をしてもらったわけはありませんが、それからわたしの生活は変わりました。ビショップは、祈り、聖文を読み、救い主がわたしのためにすぐそばにいてくださると信じることによって天の御父に頼るように勧めてくださいました。そして、心から御父を信頼するなら、重荷が軽くなるの

を感じるだろう、と教えてくれました。それから2年半たった今、わたしはこう確信しています。神の独り子であり罪のない唯一の御方である救い主がわたしたちのために成し遂げてくださったことのおかげで、すべての人が平安を得られるようになったのです。

**アメリカ、アリゾナ州、ホイトニー・W (19歳)**

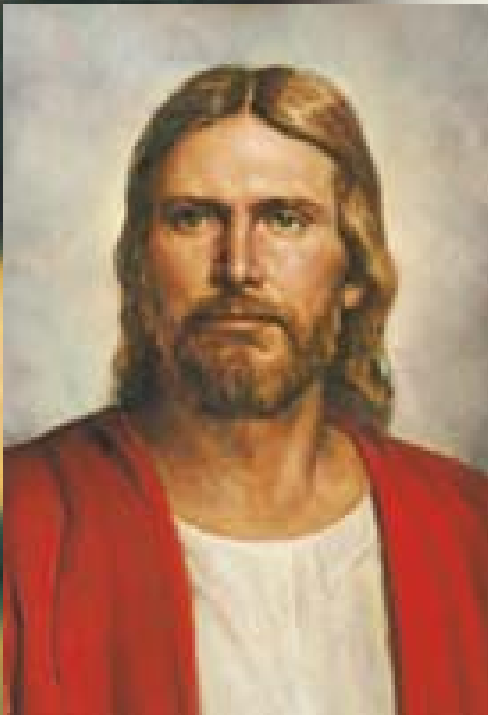
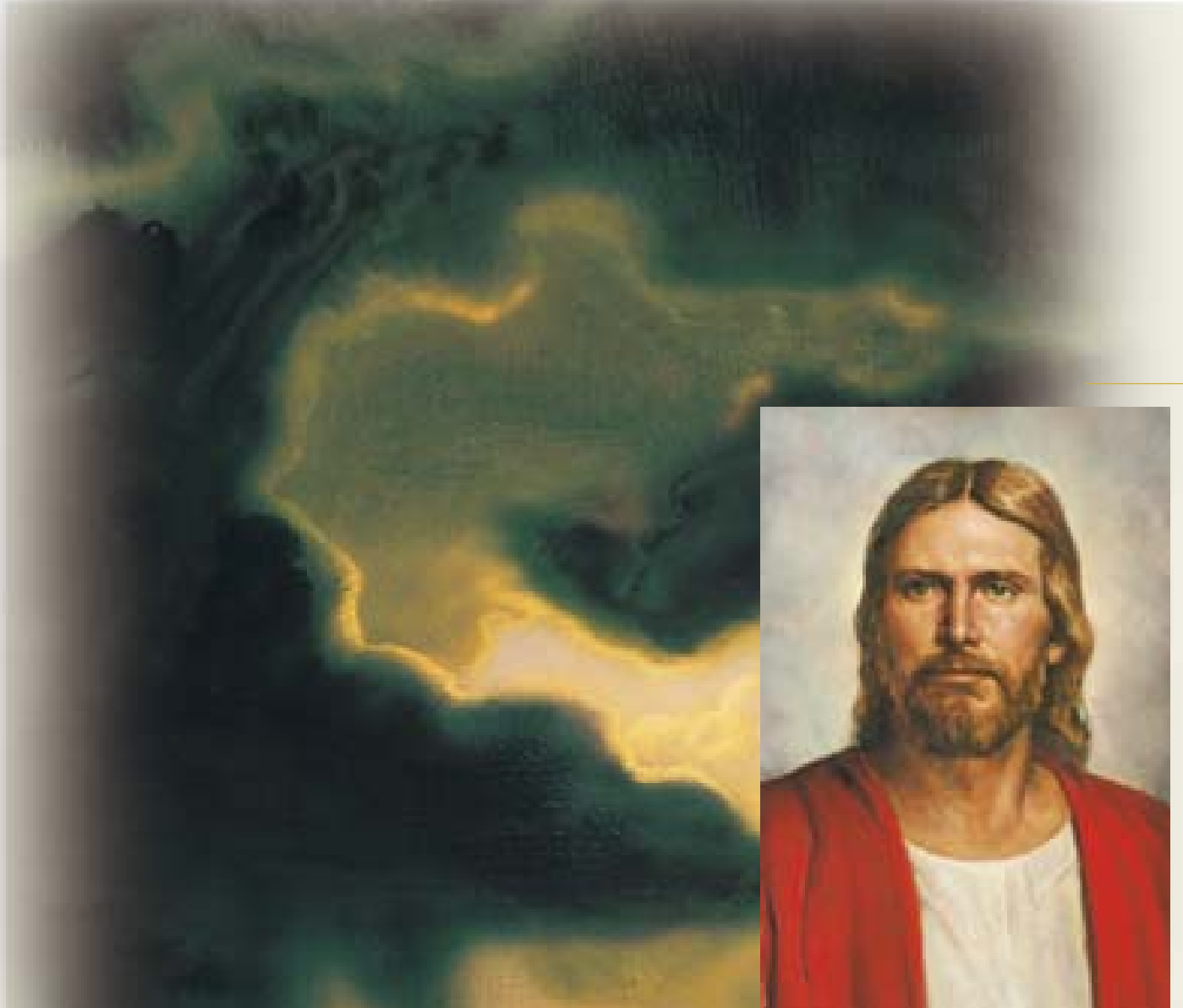
わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。主はわたしを愛しておられ、わたしのために命をささげてくださいました。主はわたしの友です。主の教えによって、どうしたら主のようになるかを学ぶことができます。主は公平で、親切で、完全で、慈愛にあふれた御方です。すべての人のためにゲツセマネで苦しめられました。主が、生けるキリスト、わたしの救い主、わたしの岩、わたしの主であられることを知っています。

**メキシコ、クラウドディア・R (25歳)**

教会の中で育ち、初等協会に通う中で、わたしは幼いころからイエス・キリストについて学んできました。そのとき以来、わたしの証<sup>あかし</sup>はどんどん強くなりました。今は伝道に出て、毎日福音を伝え、イエス・キリストについて証する機会を楽しんでいます。

救い主と、救い主がわたしのためにしてくださいましたすべてのことについて考えると、もっと主に近づきたいと感じます。子供のときに学んだことを、自分の生活に当てはめ、生かしています。人が救い主イエス・キリストの愛を感じられるように助けることが大好きです。この証は、口先だけのものではなく、心からのものです。

**トンガ、スサーナ・V (21歳)**



# イエス・キリストを 信じる信仰

## 十二使徒定員会

ラッセル・M・ネルソン長老

**医**者になるためにわたしが歩んだ長い道のりは、ほんの始まりにすぎませんでした。その後何年もの間、病院で働き、研究し、専門分野の訓練や資格試験を受けなくてはなりません。さらに、長年の間、人々を教えたり奉仕の務めを果たしたりしながら、日々進歩する心臓切開手術の難しい技能を身に付けるという険しい道りが続きました。このすべての経験を通して、わたしは人体の構造と機能に深い畏敬の念を抱くようになり、人体の創造は神の業であると確信するに至りました。

### 人体の驚異

人体がどのように形成されるかについて考えてみましょう。それは父親と母親からそれぞれ来る二つの生殖細胞の結合に始まります。結合したこの二つの細胞には、新しい生命のすべての遺伝情報が組み込まれていて、肉眼では見えない小さな組織に保存されています。それぞれの親から来た23の染色体が結合して、新しい細胞になります。この染色体に含まれる無数の遺伝子が、やがて生まれてくる人の

体の特質を決めるのです。細胞の結合からおよそ22日後に、小さな心臓が動き始めます。26日目には、血液が循環し始めます。細胞は増殖し、分裂します。そして、ある部分は目に、別の部分は耳や指になって、身の周りの素晴らしいものを見たり聞いたり感じたりできるようになります。

それぞれの器官が、驚嘆すべき被造物です。目には自動焦点レンズがあります。神経と筋肉が二つの目の動きを調整して、一つの立体画像を生み出します。耳は音波を聞き取れる形に変換し、脳で知覚されるようにします。

心臓は、血液の流れる方向を制御する4つの精巧な弁を備えています。これらの弁は、1日に10万回、1年で3,600万回以上、開閉します。病気で変質しないかぎり、ほぼ無限にこの負担に耐えられるのです。いかなる人工素材を用いても、故障なしに、これほど頻繁に、これほど長期間にわたって収縮させることはできません。成人の心臓は毎日2,000ガロン(約7,570リットル)のタンクを満たす血液を送り出します。心臓の上部には電気的な信号を出す場所があって、独自の経路を通して電気刺激を伝え、無数の筋繊維の動きを調整しています。

人体の予備機能について考えてみましょう。対になっている器官はすべて、緊急時の予備機



主を信じる  
いきいきとした  
信仰を持つ人は、  
完全な改心をし、  
主の神聖な業に  
全力を尽くします。

## 主の戒めに従って生活する

イエス・キリストは真の道であり、命のパンです。人類の益となり糧となるよう、万物を美しく創造されました。イエス・キリストは神の創造物の中で最も偉大な御方です。肉にあっては独り子であり、霊にあっては長子です。イエス・キリストを通して御父はすべての人に対する大いなる愛を示してくださいました。

わたしはこれまでの生活の中で、イエス・キリストを信じる信仰、そして中でも、主の最も崇高な行いである神聖な贖い<sup>あがな</sup>を信じる信仰を通して、とても多くの祝福を受けてきました。主の戒めに従うことにより、主に対して感じている愛を示そうと努めています。

こうして今わたしは妻とともに専任宣教師となり、イエス・キリストの代理として主のために奉仕しています。イエス・キリストの福音を宣べ伝え、キリストのもとへ来て、キリストを自分の救い主として受け入れるよう人々に勧めることは、すばらしい喜びです。

アルゼンチン、フィオリノ・ベラルド

能を持っていることとなります。脳や心臓、肝臓のような単独の器官には、2通りの経路で血液が供給されています。これにより、一方の経路が絶たれても、器官は守られるのです。

人体の自己防衛能力について考えてみましょう。人体は自らを危害から守るために、痛みを感じます。何かに感染すると、抗体を生成します。抗体は当面の敵と戦うだけでなく、将来の感染に対する抵抗力も高めます。

人体に回復力があることについて考えてください。折れた骨は修復し、元のように強くなります。皮膚の傷は自然に治ります。内出血をしても自然に止血します。人体は古くなった細胞を新たな細胞で更新します。

人体は、重要な成分を自ら調節します。必須の元素や化学成分は、絶えず調整されています。そして、温度変化の幅が激しい環境でも、体温は狭い範囲内に注意深くコントロールされています。

わたしは長年の経験を通して、癒<sup>いや</sup>しはその祝福にかかわるすべての法則すなわち律法に従うときにのみ起こるということを知りました。<sup>1</sup> 人体の構造と機能は律法に支配されています。聖文にもそう書かれています。「すべての王国に一つの律法が与えられており、すべての律法に一定の限界と条件がある。」<sup>2</sup>

多くの分野の科学者たちも、法則と秩序が現れている類似した現象を観察しています。例えば、潮の満ち干<sup>ひ</sup>や月の相、天空における星の位置は予測が可能です。そのような法則と

秩序がすべての創造の基盤になっています。こうした法則は、発見し、定義することができますし、その結果を計測することもできます。そのような秩序は至高の創造主の存在を証<sup>あかし</sup>しています。<sup>3</sup>

他方、信仰の問題は計測することができません。しかし、神を信じる信仰と、宇宙の法則や秩序との相関関係は、聖文に明らかにされています。

「神は万物に、その時と時期に応じて運行する律法を与えた。

そして、それらの軌道、すなわち地球とすべての惑星を含む

## 信仰とは何でしょうか

アルマはこのように教えています。「もし信仰があれば、あなたがたはまだ見ていない真実のことを待ち望むのである。」(アルマ32:21) 信仰は行動と力の原則です。人はいつでも価値ある目標に向かって努力するときには信仰を働かせます。まだ目で見ることのできない物事に対する望みを表すのです。

人はイエス・キリストに対する信仰が動機となってイエス・キリストの完全な模範に従いたいと思うようになります(ヨハネ14:12参照)。信仰によって人は善い行いをします。戒めを守り、自分の犯した罪を悔い改めます(ヤ

コブの手紙2:18;1ニーファイ3:7;アルマ34:17参照)。イエス・キリストに信仰を持つとは、イエス・キリストに完全に頼る、その無限の力、英知、愛に信頼を置くということを意味します。イエス・キリストの教えを信じるということも含まれます。また自分にはすべてのことが理解できなくても、イエス・キリストは理解しておられると信じることを意味します。

救いへと導く信仰は、主イエス・キリストを中心に置くものでなければなりません(使徒4:10-12;モーサヤ3:17参照)。(1)主が実在の御方だという確信、(2)主の属性に関する正しい理解、(3)自分は主の御心<sup>みこころ</sup>に添った生活を送ろうと努力しているという自覚があるときに、キリストに対する信仰を働かせることができます。

『真理を守る』『信仰』の項、110-111参照




天と地の軌道は定まっている。……

見よ、これらはすべて王国であり、またこれらのどれでも、あるいは最も小さいものでも見た者は、尊厳と力をもって進む神を見たのである。」<sup>4</sup>

### 創造の神聖さ

聖文には、天地と地上の万物は神の創造物であると明言されています。<sup>5</sup> また聖文は、神と御子イエス・キリストが共同で天地創造を行われたことについて、より理解するのを助けてくれます。聖書の冒頭には、「はじめに神は天と地とを創造された」<sup>6</sup>、「神は自分のかたち



に人を創造された。すなわち、……男と女とに創造された」<sup>7</sup>と書かれています。アブラハム書は「神々は降って行って、御自分の形に人を組織し、神々の形に人を形造り、男と女に形造られた」<sup>8</sup>と教えています。

聖文には、天の御父が抱いておられた、御自分の愛子とすべての人に対する思いが記されています。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」<sup>9</sup>

ヨハネによる福音書は、このような宣言で始まります。

「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

この言は初めに神と共にあった。

すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。」<sup>10</sup>

この聖句の意味は、「神の言」<sup>11</sup>とはイエス・キリスト、すなわち、神御自身の使いとしてこの宇宙を統治される御方であり、すべての命あるものの創造主であるということです。

天の御父は次のように述べ、モーセにこの事実を確認されました。

「わたしの力の言葉によって、わたしはこれらのもの〔地球とその面に住む者〕を創造した。わたしの力の言葉とは、恵みと真理に満ちている独り子のことである。

無数の世界を、わたしは創造した。また、わたし自身に目的があってこれらを創造した。子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。」<sup>12</sup>

ほかにも多くの聖文が、天の御父の指示のもとでイエス・キリストが創造主となられたことを確認しています。最も説得力のある聖句の一つは、キリスト御自身の次のような証です。「見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは天地とそこにある万物を創造した。わたしは初めから父とともにいた。」<sup>14</sup>

### イエス・キリストを信じるいきいきとした信仰

その概念を受け入れるには、いきいきとした信仰が必要です。信仰は個人の証の基盤です。

予 測が可能な  
潮の満ち干や  
月の相、  
天空における  
星の位置など、  
法則と秩序が  
すべての創造の  
基盤になっています。  
そのような秩序は  
至高の創造主の  
存在を証しています。

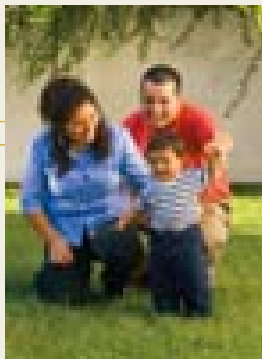
福音の第一の原則は、主イエス・キリストを信じる信仰から始まります。<sup>15</sup> パウロはこのように述べています。「信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである。」<sup>16</sup> また、「信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより……キリストの愛を〔理解し、〕知」<sup>17</sup>るように切に求めています。さらに、パウロは「信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達」<sup>18</sup> するよう熱心に勧めています。

モルモン書はこう教えています。「わたしたちは信仰により、キリストによって生かされている。……わたしたちはキリストのことを話し、キ

リストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」<sup>19</sup>

キリストを信じる信仰から受ける祝福についても、モルモン書に明示されています。「あな

**主**を信じる  
いきいきとした  
信仰を持つ人は、  
改心し、心の中に  
大きな変化が生じ、  
この世的な  
考え方から離れ、  
神の教えに従う考え方を  
するようになります。



たがたはこれからもキリストを確固として信じ、完全な希望の輝きを持ち、神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。そして、キリストの言葉をよく味わいながら力強く進み、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、御父は『あなたがたは永遠の命を受ける』と言われる。』<sup>20</sup> この永遠の命は「神のあらゆる賜物の中で最も大なるもの」<sup>21</sup> です。



主を信じるいきいきとした信仰を持つ人は、完全な改心をし、主の神聖な業に全力を尽くします。聖約の子となり、主の子供になるのです。聖文はそのようにはっきりと述べています。「さて、あなたがたが交わした聖約のために、あなたがたはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子および娘と呼ばれる。見よ、それは、今日キリストが霊的にあなた



あなたがたを子としてもうけられたからである。あなたがたは、キリストの御名を信じて心が改まったと言う。だから、あなたがたはキリストから生まれ、キリストの息子および娘となったのである。』<sup>22</sup>

主を信じるいきいきとした信仰を持つ人は改心します。そして、心の中に大きな変化が生じます。<sup>23</sup> この世的な考えから離れ、神の教えに従う考え方をするようになります。そして、「十分に固い決意をもって」<sup>24</sup> 悔い改めるようになります。アルマはさらにこう述べています。「悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの民に宣べ伝えなさい。謙遜になるように、また柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。』<sup>25</sup>

モルモン書は、一つには、ユダヤ人と異邦人にイエスがキリストであり、永遠の神であられることを確信させるためにあります。<sup>26</sup> モルモン書を読み、この書物が真実かどうか信仰をもって問う人々は、それが真実の書物であるという証を得ます。また、「イエス・キリストが世の救い主であられ、ジョセフ・スミスがこの終わりの時代の主の啓示者であり、主の預言者であることを……知る」<sup>27</sup> でしょう。

主を信じるいきいきとした信仰を持つ人は改心します。そして、心の中に大きな変化が生じます。<sup>23</sup> この世的な考えから離れ、神の教えに従う考え方をするようになります。そして、「十分に固い決意をもって」<sup>24</sup> 悔い改めるようになります。アルマはさらにこう述べています。「悔い改めと主イエス・キリストを信じる信仰についてこの民に宣べ伝えなさい。謙遜になるように、また柔和で心のへりくだった者になるように教えなさい。主イエス・キリストを信じる信仰をもって、悪魔のあらゆる誘惑に立ち向かうように教えなさい。』<sup>25</sup>

## 心の中の大きな変化

わたしは、看護学校を卒業すると小児病院の集中治療室で働くようになりました。自分の能力を伸ばすために知識を得、経験を積みたと思います。でも、それが肉体的にも精神的にもこれほど大変だとは想像していませんでした。親が自分の子供に取り返しのつかないような傷を負わせるほど、世の中があまりにも悪くなっている理由が理解できませんでした。それに、神が子供たちを死ぬままにされている理由も分かりませんでした。その病院で1年間働くと、わたしは身も心も疲れ果ててしまいました。

その後、わたしの家族が末日聖徒の宣教師の話を聞いていることが分かりました。わたしの勤務時間は長いので、宣教師のレッスンがあるときに家にいることはできませんでした。間もなく妹と母がバプテスマを受けました。わたしは心の中に疑問や未解決の問題を抱えたまま、独り取り残されたような気持ちでした。家族はわたしが宣教師に会えるように手配しようとしてくれましたが、わたしは会いたくありませんでした。でも、一度、ジョンソン姉妹とマーチャック姉妹が訪ねて来たとき、会話に加わりました。二人はその次に来たとき、霊的なレッスンをしてくれました。そして、長い間悩んでいた疑問への答えを見つけることができました。間もなくわたしはバプテスマと確認の儀式を受けました。

わたしは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になってから、イエス・キリストを信じる信仰によって支えられてきたように思います。祈りの力を何度も経験し、暗闇から光へ出たように感じました。教会員として6年たち、イエス・キリストがわたしの救い主だという確信が得られました。そして、イエス・キリストのおかげで、今わたしは天の御父を身近に感じられるようになりました。

### ロシア、ナデジュダ・クスネツォワ

## 救いと昇栄に不可欠な、イエス・キリストを信じる信仰

イエス・キリストを信じる信仰は、この世の生活に祝福をもたらすだけでなく、わたしたちの永遠の救いと昇栄に不可欠です。聖文にはこのようにはっきりと宣言されています。「すべての人は悔い改めてイエス・キリストの名を信じ、イエス・キリストの名によって御父を礼拝し、またイエス・キリストの名を信じて最後まで堪え忍ばなければならない。そうしなければ、神の王国に救われぬ。』<sup>28</sup> また、主は「生ける神の子キリストを信じる信仰」<sup>29</sup> を持つよう子供たちに教えるのは、親の

責任であると述べておられます。

イエスがキリストであり、生ける神の御子であられることを証します。イエスはわたしたちの創造主、救い主、<sup>あがな</sup>贖い主<sup>30</sup>、御父に対する弁護者<sup>31</sup>、解放者<sup>32</sup>、旧約聖書のエホバ<sup>33</sup>です。また、約束のインマヌエル<sup>34</sup>、油注がれたメシヤ<sup>35</sup>、わたしたちのすばらしい手本<sup>36</sup>です。そして、主の主、王の王<sup>37</sup>として地を治めるために、いつか戻って来られます。やがて、わたしたちは裁きの日に主の前に立つこととなります<sup>38</sup>。イエス・キリストを信じる各人の信仰が受け入れられるように、わたしたち一人一人のために祈ります。■

#### 注

1. まさにその概念は次のような主の言葉によって確立された。「神から祝福を受けるときは、それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:21)
2. 教義と聖約88:38
3. アルマ30:44参照
4. 教義と聖約88:42-43, 47
5. コロサイ1:16;モーサヤ4:2, 9;5:15;アルマ18:28;22:10;モーセ3:5参照
6. 創世1:1
7. 創世1:27
8. アブラハム4:27
9. ヨハネ3:16
10. ヨハネ1:1-3
11. ギリシャ語の *Logos* (「言葉」を意味する)は、キリストを表すもう一つの名前である。
12. モーセ1:32-33, 強調付加
13. エベソ3:9;モーサヤ3:8-11;ヒラマン14:12;モルモン9:8-14参照
14. 3ニーファイ9:15。主はさらにこう宣言された。「見よ、わたしは生ける神の子イエス・キリスト、天と地を創造した者、<sup>くろやみ</sup>暗闇の中に隠れることのできない光である。」(教義と聖約14:9)
15. 信仰簡条1:4参照
16. ヘブル11:1
17. エベソ3:17-19
18. エベソ4:11-13。ガラテヤ3:26-29も参照
19. 2ニーファイ25:25-26
20. 2ニーファイ31:20。エノス1:8;モーサヤ3:12も参照
21. 教義と聖約14:7
22. モーサヤ5:7
23. アルマ5:12-14参照
24. 2ニーファイ31:13。モルモン書ヤコブ6:5;モーサヤ7:33;3ニーファイ10:6;12:24;18:32も参照
25. アルマ37:33。モルモン9:37;モロナイ7:25-26, 33-34, 38-39も参照
26. モルモン書タイトルページ参照
27. モルモン書序文
28. 教義と聖約20:29
29. 教義と聖約68:25。モーセ6:57-62も参照
30. イザヤ49:26;60:16;1ニーファイ21:26;2ニーファイ6:18参照

## 子供の信仰

あるとき、当時8歳だった息子と一緒に、30分から40分くらい歩いてステーキ大会へ行くことにしました。20分たつと、どちらの方向へ行ったらよいか分からなくなってしまいました。いつもおしゃべりが好きな息子のエルソンは、学校や家で起きたことについて、いろいろ話していました。わたしは、少し黙っていてちょうだい、と言いました。迷子になったようなので、考える必要があるから、と説明しました。

息子が信仰を表したのは、そのときでした。祈ろうと提案してくれたのです。わたしは大人の思慮分別から(それに集会の開始時間が迫っていたために少しいらいらしていました)、祈りたければ祈るようにと答えました。でも、わたしは考える方を選びました。「主に頼る必要のないこともある。教会に行く道を見つけることもそうだわ」とわたしは自分に言い聞かせました。

エルソンはわたしの考えを読み取ったかのように、次のように言って、謙虚になる教訓を与えてくれました。「どうしてわざわざ苦労するの?」その後、息子は静かになりました。心の中で祈っていたのです。数分後、わたしたちは礼拝堂に着きました。息子が祈りの答えをもたらったことがはっきりと分かりました。

末日聖徒として、わたしたちはイエス・キリストの教会の会員となる祝福を受けています。息子はまだ子供でしたが、信仰と祈りの原則を実行する方法を知っており、イエス・キリストの教えを実践する模範を示してくれました。それに気づいたとき、<sup>あかし</sup>回復された福音が真実であるというわたしの証は強められました。

#### ブラジル、エルソン・カルロス・フェレイラ

31. 教義と聖約29:5;110:4参照
32. サムエル下22:2;教義と聖約138:23参照
33. 教義と聖約110:3参照
34. イザヤ7:14参照
35. 2ニーファイ25:14-19参照
36. ヨハネ13:15;3ニーファイ27:21参照
37. 黙示17:14;19:16参照
38. 黙示20:12;1ニーファイ15:33;2ニーファイ9:22, 44;28:23;アルマ5:15;3ニーファイ27:14;モルモン3:20;9:8-14参照



# エミリオの信仰

一人の執事が、  
「癒される信仰を持つこと」の意味を  
ビショップであるわたしに教えてくれました。

ラモン・ラミレス

2、3か月前、わたしのワードに通う執事のエミリオが突然、ひどく体調を崩しました。医師たちは病名を突き止めることができません。エミリオも母親もおびえていました。日増しに衰弱し、容態は悪くなる一方だったからです。母親に連れられて何度か病院で診てもらいましたが、良くなる兆しは見えませんでした。

神権の祝福を受けさせようと、母親はエミリオを教会に連れて行きました。長老定員会の会員の一人と、エミリオのビショップであるわたしが祝福をする特権を得ました。祝福を受けたエミリオは久しぶりにぐっすり眠ることができました。

しかし数日後、エミリオの容態が再び悪化し、また病院に戻っていると知らされました。わたしは別の兄弟とともに病院へ急ぎました。そこで病室にいるエミリオと面会し、話をすることができました。病状の悪化でさぞかし落ち込んでいたのだらうと思っていたので、それから起こったことにわたしは深く感動しました。

わたしたちはイエス・キリストについて話し合いました。わたしは、救い主が御心のままにどんなことにも打ち勝つ力をお持ちであることを説明しましたが、エミリオの返事は深く心を打つものでした。「ビショップ、試練がもう一度やって来ただけです。ぼくにはイエス・キリストへの信仰があります。だからこの試練はすぐに終わると信じています。」わたしたちはエミリオの頭に手を置き、もう一度祝福を与えました。

その夜を境に、エミリオは信じられないほどの回復を見せ、完治しました。日常生活に戻り、教会にも支障なく来ることができるようになりました。

エミリオは信仰を働かせていました。救い主が地上でなさったのと同じような奇跡を起こしていただくために必要な信仰を働かせていたのです。わたしにとってエミリオは、「ある人には、癒される信仰を持つことが許される」という主の言葉にある「癒される信仰を持つ」人の模範です(教義と聖約46:19)。

日々の生活で神権を行使する特権があること、また、わたしたちを愛してくださる天の御父がおられることと、御子に対する信仰を通してこの末日において奇跡を経験できることを知るのには素晴らしいことです。■

# イエス・キリスト の贖罪



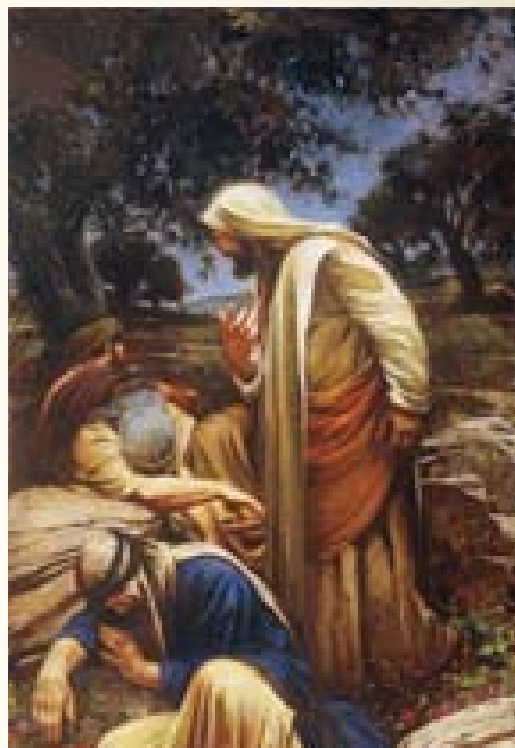
神の独り子の贖罪は、  
キリストを信じる  
すべての者にとって  
教義上きわめて大切な  
基礎を成しており、  
この世に示された  
神の愛のうち  
最も大なるものです。

十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホルランド長老

## ゲツセマネの園で

**後** に十二使徒定員会で働いたオーソン・F・ホイットニー長老 (1855 - 1931 年) は、宣教師として奉仕していた青年時代に、ある夢を見ました。……

「ある晩、わたしは夢を見ました。……夢の中でわたしはゲツセマネの園にいて、救い主の苦しみを見たのです。……わたしはすぐそばの木の陰に立っていました。……右手の小さな門からイエスがペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴って入って来られました。イエスは3人の使徒をそこへ残し、ひざまずいて祈るようにおっしゃると、反対側に歩いて行き、ひざまずいて祈られました。……『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにはなく、





みこころのままに  
なさして下さい。』

祈っている間にイエスは涙を流されました。その涙は主の顔を伝った後、わたしの方へ〔流れて来ました〕。その光景にとっても心を打たれて、イエスの深い悲しみに純粹に同情し、わたしも泣きました。わたしの胸は主への思いでいっぱいでした。心からイエスを愛し、イエスと一緒にいられるなら、ほかに何も要らないと思いました。

それからイエスは立ち上がると、使徒たちがひざまずいている所へ行かれました。彼らは待っているわずかな間に眠り込んでいました。イエスは彼らを優しく揺り動かして目覚めさせると、いささかの怒りも非難の感情もなく、穏やかに叱責する様子で、一時も一緒に目を覚ましていたことができないのかと尋ねられました。……

イエスは先ほどの場所に帰って祈り、再び使徒たちのもとへ来られると、彼らはまたもや眠っていました。再び彼らを

起こし、いさめると、また戻って祈られました。このことが3度繰り返される間、わたしはイエスの容貌ようぼうを、その顔や姿、動作を目に焼きつけることができました。イエスは気品のある、堂々とした御方でした。……紛れもなく神であり、なおかつ幼子おさなごのような柔和さと謙遜さを備えた御方でした。

突然、場面が変わったようでした。……先ほどとは異なり、すでに十字架の刑の後であり、救い主は3人の使徒とともに左手に立っておられました。まさに出立して、天に昇ろうとしておられるところでした。わたしはもう耐えられなくなり、木の陰から飛び出して、主の足もとにひれ伏し、主のひざの辺りに取りすがって、一緒に連れて行ってくださるようお願いしました。

セレンジャー・アドベント教会の屋敷に於ける「わたしの涙は主の顔を伝った後、わたしの方へ〔流れて来ました〕」の情景を写した。挿絵は、オランダの画家、ハリー・ファン・アーンターレン画。背景は、オランダの画家、ハリー・ファン・アーンターレン画。挿絵は、オランダの画家、ハリー・ファン・アーンターレン画。



この世に2種類の死が入り込んだことにより、イエス・キリストの贖罪しよくざいがどうしても必要になりました。

身をかがめてわたしを起し、抱き締めてくださったあのときの主の思いやりあふれる優しい仕草を忘れることができません。その夢は非常に鮮明であり、



夢なのか現実なのか区別がつかないほどで、主に寄りかかったわたしは主の胸の温かさを感じました。そして主は言われました。「いいえ、息子よ。これらの者は自分の務めを終えたので、わたしと一緒に行くことができます。しかしあなたはここに残って務めを果たさなければなりません。』わたしはなおも主にしがみついて、主の顔を瞬まばたきもせずに見上げていました。——というのは主がわたしよりも背が高かったからです。わたしは必死で願い求めました。『では、この世を去るときには、あなたのみもとへ行けると約束してください。』すると主は優しくほほえみながら、答えられました。『それはまったくあなた次第です。』目を覚ますと、わたしはむせび泣いていました。すでに朝でした。』<sup>1</sup>

#### なぜ贖罪が必要なのか

救い主の愛にあふれた犠牲を描写しているこの私的で胸に残る経験は、イエス・キリストの贖罪の大切さを述べる冒頭の言葉として適切に思われます。肉における神の独り子の贖罪は、キリスト教の教

義上きわめて大切な基礎を成しており、この世が享受した神の愛の中でも最も大きな表れです。末日聖徒イエス・キリスト教会における贖罪の重要性は幾ら強調しても強調しすぎることはありません。なぜなら、回復された福音のほかの原則、戒め、効力はこの最も重要な出来事に関連して意味を成しているからです。<sup>2</sup>

アダムの墮落の影響から全人類を解き放ち、悔い改めを条件として個人の罪を贖うため、神の独り子は、予任されていたとはいえ、御自分の意志で命を差し出し、霊の苦しみを受けられました。

英語の Atonement (贖罪) の持つ文字どおりの意味は、そのつづりから容易に分かるように、一つになること(at-one-ment)、つまり離れ、疎遠であったものを一つに集めることです。アダムとエバが善悪を知る木の実を取って食べたとき、この世に2種類の死が入り込みました。アダムのこの背き、すなわち墮落のために、イエス・キリストの贖罪がどうしても必要になりました。<sup>3</sup> 肉体の死は霊と肉体を分離し、霊の死は霊と体とともに神から引き離します。墮落の結果、この世に生まれるすべての人は、この2種類の死を受けることになりました。けれども、この墮落は天の御父の聖なる計画において根幹を成すことを忘れてはなりません。墮落がなければ、死すべき体を持つ子供たちがアダムとエバに生まれることはありませんでしたし、反対のものや成長、道徳的な選択の自由、そして復活と贖罪と永遠の命の喜びを経験する人類家族も存在することはありませんでした。<sup>4</sup>

この墮落と、それを償う贖罪が必要であることについて、前世で開かれた天上の会議で説明がありました。父なる神が管理されたこの会議には、人類家族が皆出席しました。キリストが全人類の選択の自由を尊重したうえで、罪を贖うと申し出ら

## 主のもとで生活する

主が手を差し伸べてくださったのは5年ほど前のことでした。それからわたしの生活は福音によって変わりました。主の贖罪のおかげで、わたしは過去の誤った選択から贖われ、心に赦しの奇跡を感じることができました。

もしわたしたちがふさわしければ、イエス・キリストは日々そばにいてくださり、力づけてくださいます。罪をぬぐい去り、忘れてくださるだけでなく、生活においても職場においても、主の光はわたしたちを照らしてくれます。

主はわたしたちの救い主であり、神の御子です。主の愛は無限です。主の望んでおられるように生活するなら、わたしたちは主の愛を人に伝えるでしょう。そして、主と天の御父のもとに帰って永遠に生活する希望を持つことができます。

フランス、マリー・モンジュシャン

れたのは、この前世の会議においてでした。このときキリストは、愛に基づく贖罪がもたらす栄光をすべて御父に帰すことを申し出られたのです。<sup>5</sup>

このキリストの無窮の贖罪が可能だったのは、次の理由があったからです。(1)キリストはこの地上に住んだ人の中で罪のない唯一の御方でした。このため、罪の結果として被る霊の死にさらされることはありませんでした。(2)キリストは御父の独り子であって、神の特質を有しておられました。このため肉体の死に打ち勝つ力を持っておられました。<sup>6</sup> (3)キリストは前世の会議においてその務めに予任されるために必要な謙虚さと進んで従う心を持つ唯一の御方であったことが明らかでした。<sup>7</sup>

## キリストの贖罪のもたらす賜物

贖罪のもたらす賜物のうち、幾つかは万人に及び、無限であり、無条件に与えられます。これらの賜物にはアダムの最初の背きの代価を支払って、いかなる人もそれに対して責任を問われることのないようにすることが含まれています。<sup>8</sup> もう一つ万人に及ぶ賜物は、現在、過去、未来にわたって地上に生を受けるすべての男女、子供が死からよみがえることです。

キリストの贖罪のもたらす恵みには、このほかに、条件付きのものがあります。そうした恵みを享受できるかどうかは、神の戒めを熱心に守るかどうかにかかっています。例えば、全人類は自分で努力しなくてもアダムの罪からは無条件で赦されていますが、自分の犯した罪を赦されるには、キリストを信じる信仰を持ち、悔い改め、主の名によってバプテスマを受け、聖霊の賜物を受けて、キリストの





**肉**体の復活は  
キリストが  
死に勝利を  
収められた結果として  
惜しみなく万人に  
与えられる賜物です。  
それは  
キリストの恵みによって  
無条件で与えられる  
祝福の一つです。

教会の会員として確認され、人生の残る旅路を忠実に堪え忍んで歩まなければなりません。個々が立ち向かわなければならぬこの課題について、キリストはこのように言われました。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。」<sup>9</sup>

さらに、肉体の復活はキリストが死に勝利を収められた結果として無条件で万人が授かる恵みですが、どのような体(すなわち、体に与えられる「栄光の階級」)に復活するかは、いつ復活するかということと同様に、この世におけるそれぞれの忠実さと密接に結びついています。一例を挙げると、使徒パウロはキリストにあらゆる面で従順



だった人々が「まず最初によみがえ」<sup>10</sup>ることを明らかにしています。近代の啓示は、復活する時期が人によって異なり<sup>11</sup>、栄光の最高の階級はイエス・キリストの福音の原則と儀式に従う人々だけに約束されることを明らかにしています。<sup>12</sup>

もちろん、キリストの恵みによらなければ、無条件か条件付きかを問わず、贖罪の祝福を受けることはできません。贖罪の無条件の祝福の方が労せずして与えられるものであることは明らかです。しかし条件付きの祝福の方は、従順でありさえすれば自分の力だけで完全に得られる、というものではありません。人は忠実な生活を送り、神の戒めを守ることによって、さらに様々な特権を得ることができます。けれども、それはなお主から惜しみなく与えられるのであって、自分の力に手を入れるものではないのです。モルモン書は「聖なるメシヤの功徳と憐れみと恵みによらなければ、だれも神の御前に住める者がいない」とはっきり宣言しています。<sup>13</sup>

「復活のハリーマンダイン」画、キリストの埋葬の一部、カル・ヘンリック・プロック画  
デッドマーク、ヒレリスのクレタスポート城内にある国立歴史博物館の原意により掲載 写真/シモン・ルック



神はこれと同じ恵みによって、幼子や知的障がいを持つ人、生きていた間にイエス・キリストの福音を聞くことのなかった人などを救われます。こうした人たちはキリストの贖罪の普遍的な力によって贖われ、死後、霊たちが復活を待つ霊界において、完全な福音を受ける機会を得ます。<sup>14</sup>

### 苦難と勝利

罪のない御方であったキリストは、ホイトニー長老が夢の中で見たように、贖罪の要求を満たすため、まずゲツセマネの園へ入り、霊の苦しみを受けられました。それはキリストにしか耐えられないものでした。主は「恐れおののき、また悩みはじめて」、ペテロ、ヤコブ、ヨハネに言われました。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。」<sup>15</sup> なぜでしょうか。それは、主が「すべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、アダムの家族に属する、生けるものすべての苦痛を」受けられたからです。<sup>16</sup> 主は「数々の試練〔を経験し〕、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労〔を経験された〕が、それは、人にとっては死ぬ以外に

## 復活を待ち望む

愛する妻が天の御父のもとへ戻って行ったとき、わたしたち家族は、彼女のための墓地を手配する必要がありました。その過程で、墓石に「安息の地」と刻もうとしたところ、反対に遭いました。その言葉が墓地の管理規則に反すると言われたのです。

それから事態はうまく収拾せず、やっかいなことになりました。結局、墓地を所有している教会の牧師から、刻もうとしている言葉について尋ねられました。わたしは救い主の次の言葉を引用して、<sup>あかし</sup>肉体の文字どおりの復活を信じていることを証しました。「墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえ……るであろう。」(ヨハネ5:28-29) この墓はわたしたちにとって復活までの神聖な安息の地であると証したのです。

すると、牧師はすばらしい提案をしてくれました。「では墓石に『ボーンとリーマンの家族は復活を待ち望んでここに憩う』と刻ませましょう。」そして、そのようになりました。わたしの証が石に刻まれたのです。

ルドルフ・リーマン、ドイツ

耐えようのないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほどだからである。」<sup>17</sup>

イエスは「肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」この苦痛を身に受け、あらゆる男女、子供を贖われました。<sup>18</sup> キリストは「すべてのことを悟って、万物の中にあり、万物を貫いてあり、真理の光と」なるために、死すべき人が皆経験するあらゆる種類の病氣、弱さ、絶望を含む「万物の下に身を落と」されたのです。<sup>19</sup>

贖罪に伴う極限までの孤独とこの上ない苦痛は、ゲツセマネで始まり、ローマの兵士たちなどから受けたひどい虐待の後に、頂点に達しました。キリストは十字架上で叫び、「『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」<sup>20</sup> その苦痛の

さなかに、自然界も激しく身を震わせました。「太陽は光を失い、全地は暗く」になりました。<sup>21</sup> 「すると見よ、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。また地震があり、岩が裂け」<sup>22</sup>、多くの人が「万物の神が苦しみに耐えておられる」<sup>23</sup>と叫びました。耐え難い苦しみを耐え抜いたと思われたとき、イエスは



言われました。「すべてが終わった。」<sup>24</sup>  
「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます。」<sup>25</sup> この出来事をつぶさに見たローマの百卒長が「まことに、この人は神の子であった」<sup>26</sup> と告白したように、人は皆いつか、どこかでそう告白することを求められます。

一人の御方の自発的で憐れみにあふれる犠牲が、正義の無窮で永遠の要求を満たし、あらゆる人の背きと過ちを贖いました。そしてこの御方は、この贖いによって全人類を御自身の憐れみ深い腕に包み込みました。これは、思慮深い男女にとって「人間の理解力の及ばない」<sup>27</sup> ことです。けれども、これは真実なのです。

ジョン・テラー大管長(1808 - 1887年)はこう述べています。「主は人にとっては理解も説明も不可能なある方法により、全世界の罪の重荷に耐えられました。アダムだけではなく子孫すべての重荷を負われたのです。そして、そうすることにより主は、信じる人々や神の律法に従う人々のみならず、責任の取れる年齢まで成長する前に亡くなった人々や律法なくして亡くなった人々、すなわち人類家族の半数以上の人々にも天の王国を開かれたのです。」<sup>28</sup>

ホイトニー長老がこの大いなる恵みとこれを与えてくださった御方に対して次のように感じたのと同じ思いをわたしたちも抱くことができるよう願っています。「その〔賜物〕にとっても心を打たれて、イエスの深い悲しみに純粹に同情し、わたしも泣きました。わたしの胸は主への思いでいっぱいでした。心からイエスを愛し、イエスと一緒にいられるなら、ほかに何も要らないと思いました。」キリストはわたしたちの身代わりとしての贖罪を成し遂げられたことにより、このような願いをかなえるために御自身がなすべきことをすでに果たされました。あとはまったくわたしたち次第なのです。■

## 救い主の

## あわ 憐れみに満ちた抱擁 ほう よう

わたしはずっと挫折感を抱き、自分は良い人でなかったと感じながら半生を過ごしてきました。けれどもイエス・キリストの福音はそのような気持ちを癒してくれることが分かったのです。

贖罪を成し遂げられた救い主は、わたしの不安や恐れを理解し、聖霊を通して慰めてくださいます。主はわたしの弱点を御存じであり、克服できるよう助けてくださいます。主がわたしを独りにされたことはありません。常に力づけ、心を広げてくださるのです。

世の標準からすればわたしは取るに足りない者かもしれません。けれども、最善を尽くしてイエス・キリストの教えに従うとき、自分が大切にされ、価値を認められ、愛されていることを実感します。

スーザン・ラント、合衆国ユタ州



## 注

1. "The Divinity of Jesus Christ," *Improvement Era*, 1926年1月号, 224 - 225. 『リアホナ』2003年12月号, 16も参照。句読点、その他の表記は標準的な用法に修正
2. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』49参照
3. 創世2:9; 3章参照
4. 2ニーファイ2:22 - 27; モーセ5:11参照
5. 黙示13:8; モーセ4:1 - 2; アブラハム3:22 - 27参照
6. ヨハネ5:26 - 29; 2ニーファイ9:5 - 12; アルマ34:9 - 14参照
7. ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』21 - 22参照
8. 信仰箇条1:2参照
9. 教義と聖約19:16 - 17
10. 1テサロニケ4:16
11. 教義と聖約76:50 - 113参照。1コリント15:40 - 42と比較
12. 教義と聖約76:50 - 70; 88:4, 27 - 29; 132:21 - 24参照
13. 2ニーファイ2:8
14. アルマ40:11; 教義と聖約138章参照。ルカ23:43; ヨハネ5:25と比較
15. マルコ14:33 - 34
16. 2ニーファイ9:21
17. モーサヤ3:7
18. アルマ7:12
19. 教義と聖約88:6
20. マタイ27:46
21. ルカ23:44 - 45
22. マタイ27:51
23. 1ニーファイ19:12
24. ヨハネ19:30
25. ルカ23:46
26. マタイ27:54
27. ジェームズ・E・タルメージ, *The Articles of Faith*, 第12版(1924年), 77
28. *The Mediation and Atonement* (1882年), 148 - 149. 表記は標準的な用法に修正





あ が な

# 贖いの効力

主が息子のために  
計画をお持ちであることを知りながら、  
わたしは誤った道を選んだ息子が  
立ち直れるかどうか確信を持ってませんでした。

匿名

**わ**たしは1992年にオランダで末日聖徒イエス・キリスト教会に入りました。しかし夫は教会に加わらず、子供のアレックス(仮名)とペトラ(仮名)のバプテスマも許してはくれませんでした。それでも、わたしたちは3人で教会に通い、いつも家庭の夕べを開いていました。

数年の間は何事もなく過ぎました。しかしアレックスが13歳になると、もう教会には行きたくないし、家庭の夕べにも出たくないと言い出したのです。年齢が上がるにつれ事態はこじれる一方でした。酒やたばこに手を出したばかりか、自分の行動についてうそをつくようになったため、アレックスと心

を通わせることが難しくなりました。わたしは悲しくてたまらず、幾度も涙を流しました。そして何度も祈り、息子を助けてくださるよう必死に天の御父に願い求めました。

そしてある晩、神殿で静かに座っていると、ある光景が思い浮かびました。一人の青年が聖餐(せいさん)を配っているのです。主の贖いが現実のものであり、贖いには力があるということの主が思い起こさせてくださっているようでした。息子を愛して支え続けるようにと励まされた思いがしました。

しかし、実際の状況は時がたつにつれてさらに厳しくなりました。夫との離婚後、アレックスがひどく落ち込んでしまったのです。息子は助けを必要としていましたが、わたしからの助けは望まず、話しかけようとしても耳を貸そうとしませんでした。

ある晩、支部会長から連絡がありました。アレックスと話をするために我が家を訪問したいというのです。息子はいらだてていましたが、話をしたいという希望は受け入れてくれました。話が終わると、アレックスは伝道に出るように勧めた支部会長に腹を立てて言いました。「ほんとうに神から召され

ているんだったら、伝道の話なんかしないはずだ。ふさわしくないことは知っているはずなんだから。なんでわざわざ伝道を勧めに来るんだ。」その夜、わたしは主が計画をお持ちであることを知りました。

その計画が思いも寄らない形で動きだしたのは、地元の警察署から電話があったときでした。アレックスが逮捕されたのです。再婚した夫と二人で真夜中にコートを羽織り、警察からアレックスを引き取って来ました。大声でしっかりつけたりはしませんでした。実のところ、夫もわたしもほとんど何も言わなかったのです。

家に帰ると、アレックスは何があったかを話してくれました。友人と二人でスクーターを盗んだのです。自分がしたことを心から後悔していました。これほどまで悲しみに沈んだ息子を見るのは初めてでした。

この逮捕が転機となり、アレックスは自分の行動が招く結果と、人生がどんな方向に向かっていったのかを自覚し始めました。そしてその日から、わたしたちに数多くの祝福がもたらされるようになったのです。

翌日、アレックスは、自宅に電話するよう警察官に頼んだのは自分が愛されていることがよく分かっていたからだと話してくれました。また、どれほどわたしたちを傷つけたかに気づき、わたしたちが取り乱さなかったことに感謝していました。

アレックスには助けの手を差し伸べてくれる教会員の友人がいました。その中の一人は教会の活動に招待してくれました。モルモン書をプレゼントして、読むように勧めてくれた友達もいます。わたしは、識字障害という試練を抱えながらも時折モルモン書を読んでいるアレックスの姿を目にしました。

祝福は次から次へとやって来ました。今度は、教会に行くことにしたのでスーツを買ってほしいと言うのです。最初はクリスマスにだけ行くのかと思いましたが、その後も教会に通い続ける姿にはほんとうに驚きました。

次の祝福は、現実にはあり得ないと思うほど素晴らしいものでした。アレックスがバプテスマを受けると宣言したのです。わたしの助けはまったく要りませんでした。友人と、福音を伝えてくれた宣教師の力を借りて、すべて自分で準備したのです。バプテスマの当日、白い衣をまとうて神聖な聖約を結ぶ息子を見るのは、夢のような出来事でした。

後になって改宗談を聞いたとき、息子が経験した痛みと悲しみが大変なものだったということ、またそれらを通して、息子がひざまずいて助けを求めるほど謙虚になっていたことが分かりました。アレックスはこう話していました。「ある晩、背負っている重荷に押しつぶされそうになったとき、いつでも

祈って助けを求めることができると思い出させてくれた親友の言葉が頭に浮かびました。その日、ほくは試してみることにしました。ほかに選択肢は残っていませんでした。母から祈りの方法を教えられていたので、ほくはひざまずいて目を閉じました。助けを求めて懇願し始めると、たとえようもなくすばらしい気持ちに包まれました。あの気持ちは一生忘れません。キリストの純粋な愛を感じたのです。抱えていた問題が取り去られたと感じました。もう絶望感にさいなまれることもありません。祝福され、イエス・キリストへの証<sup>あかし</sup>を得ることができました。心が変わり、イエス・キリストに従いたいと願うようになったのです。」

バプテスマと確認の儀式を受け、神権の聖任を終えたアレックスは、救い主の犠牲の神聖な象徴である聖餐を配るよう依頼されました。そのとき、何年も前に神殿で見た光景が目の前で実現したのです。わたしは静かに、そのとき経験していることを天の御父に感謝しました。わたしにとって神聖な瞬間でした。





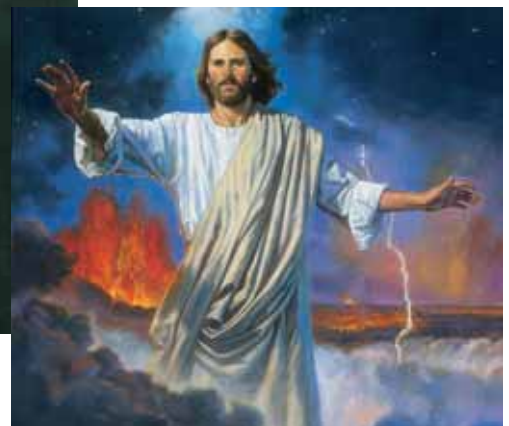
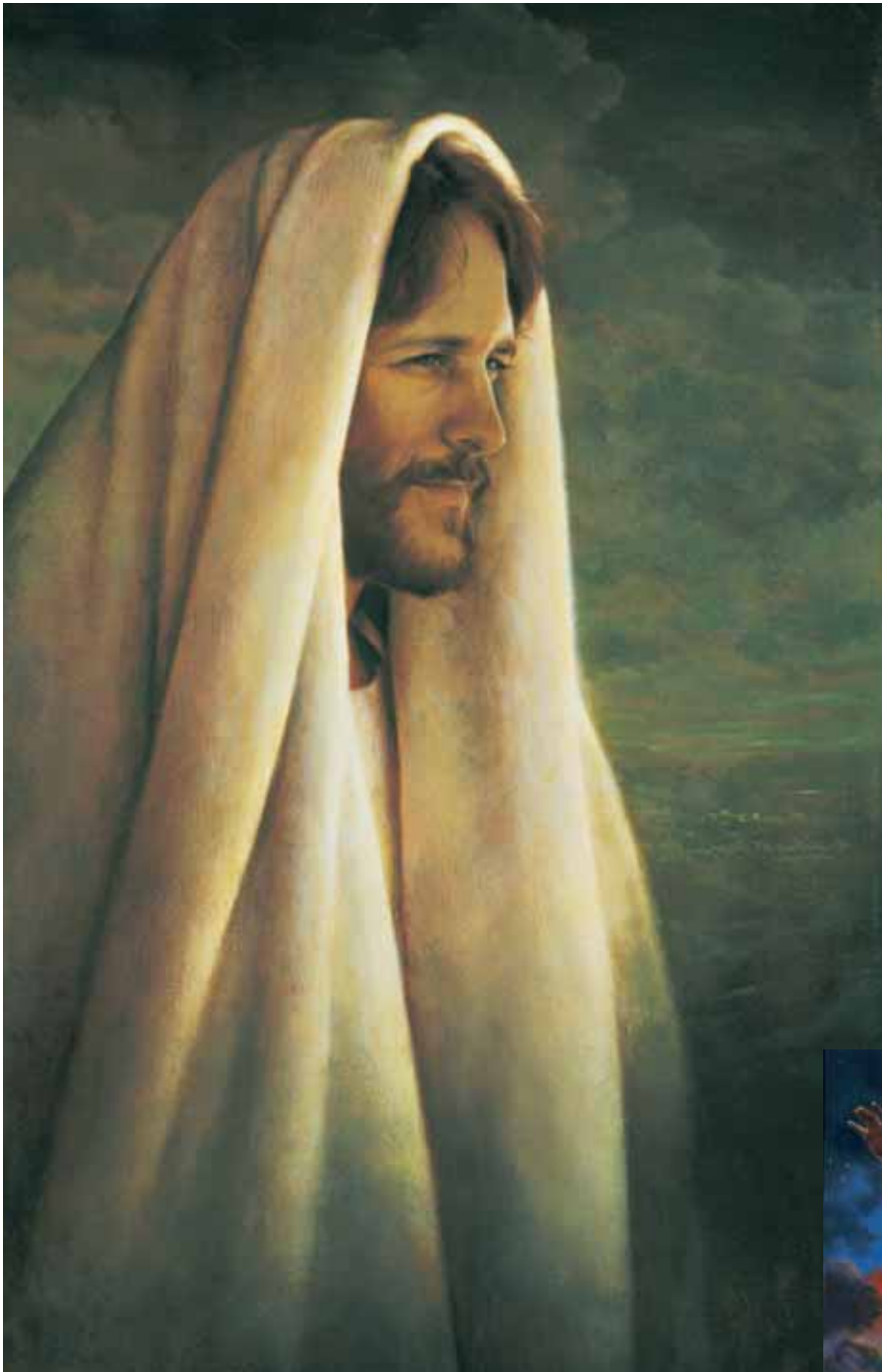
ここでこの話を終えてもハッピーエンドかと思いますが、うれしいことにまだ続きがあります。それからわたしは主の贖いが息子の人生に効力を及ぼし続けるのを見てきました。靈感を受けたあの支部会長のことを覚えているでしょうか。息子は証をはぐくみ続け、あのときに支部会長から勧められたことを実現したのです。アレックスは専任宣教師として奉仕し、最近帰還しました。主から手を差し伸べていただいたように、2年間、人々を助け、手を差し伸べてきたのです。

わたしはアレックスの母親であることに感謝しています。しかし、何よりも感謝しているのは、イエス・キリストの贖いが、わたしたち全員の人生で効力を発揮してくれるということです。■

神権の聖任を終えた  
アレックスは  
聖餐せいさんを配るよう  
依頼されました。  
そのとき、  
何年も前に  
神殿で見た光景が  
目の前で  
実現したのです。

# 生けるキリ

末日聖徒イエス・キリ



# スト

## スト教会の使徒たちによる証あかし



左から時計回りに 「優しき癒し手」グレッグ・オルセン画；  
「街中から集る人々」ジェームズ・ティソ画；  
「イエスにバプテスマを施すヨハネ」ハリー・アンダーソン画；  
「キリストの天地創造」ロバート・T・パレット画

2000年前のイエス・キリストの降誕を祝うに当たり、わたしたちはイエス・キリストのたくいまれな生涯が現実のものであり、この御方の偉大な贖いの犠牲が無限の力を有することを証します。これまでに地上に生を受けた人々およびこれから生を受けるすべての人々に対して、この御方以上に深遠な影響を及ぼしてきた人物は存在しません。

イエス・キリストは旧約の大いなるエホバであり、新約のメシヤでした。御父の指示の下に、イエス・キリストは地球を創造されました。「すべてのものは、これによってできた。できたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった」のです(ヨハネ1:3)。イエス・キリストは罪がなかったにもかかわらず、すべての義を成就するためにバプテスマをお受けになりました。イエス・キリストは「よい働きをしながら……巡回」されましたが(使徒10:38)、そのためにさげすまれました。イエス・キリストの福音は平和と善意のメッセージでした。イエス・キリストはすべての人々に、御自身が示す模範に従うよう熱心に勧められました。イエス・キリストは病人を癒し、目の不自由な人々の目を見えるようにし、死人をよみがえらせながら、パレスチナの道を歩まれました。また、永遠の真理と、前世が実際に存在すること、この世での人生の目的、および神の息子や娘が持つ来世における可能性についてお教えになりました。

イエス・キリストは、御自分の偉大な贖いの犠牲を思い起こすためのものとして、聖餐をお定めになりました。イエス・キリストは捕らえられ、偽りの訴えによってとがめられ、暴徒の意に応じて有罪とされ、カルバリの十字架上での死刑を宣告されました。そして、全人類の罪を贖うために命をささげられました。イエス・キリスト御自身が、地上に生を受ける

すべての人々のための偉大な身代わりの贈り物とられたのです。

わたしたちは、全人類の歴史の中心であるイエス・キリストの生涯が、ベツレヘムで始まったのでもなければカルバリで終わったのでもないことを厳かに証します。イエス・キリストは御父の長子、肉における独り子、世の救い主でした。

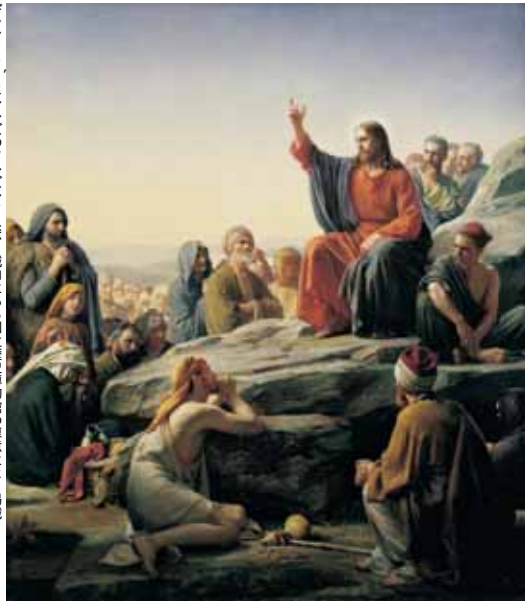
イエス・キリストは「眠っている者の初穂として」墓からよみがえられました(1コリント 15: 20)。そして復活された主として、地上での生涯において愛した人々のもとをお訪ねになりました。また、古代アメリカの「他の羊」の間でもお教えになりました(ヨハネ 10: 16)。現代においては、御父とともに少年ジョセフ・スミスに御姿を現されました。こうして、長い間約束されてきた「時の満ちる」神権時代が到来したのです(エペソ 1: 10)。

生けるキリストについて、預言者ジョセフはこのように記しています。「その目は燃える炎のようであり、その頭髪は清らかな雪のように白く、その顔は太陽の輝きに勝って光り輝いていた。また、その声、すなわちエホバの声は大水の奔流のとどろきのようで、このように言われた。

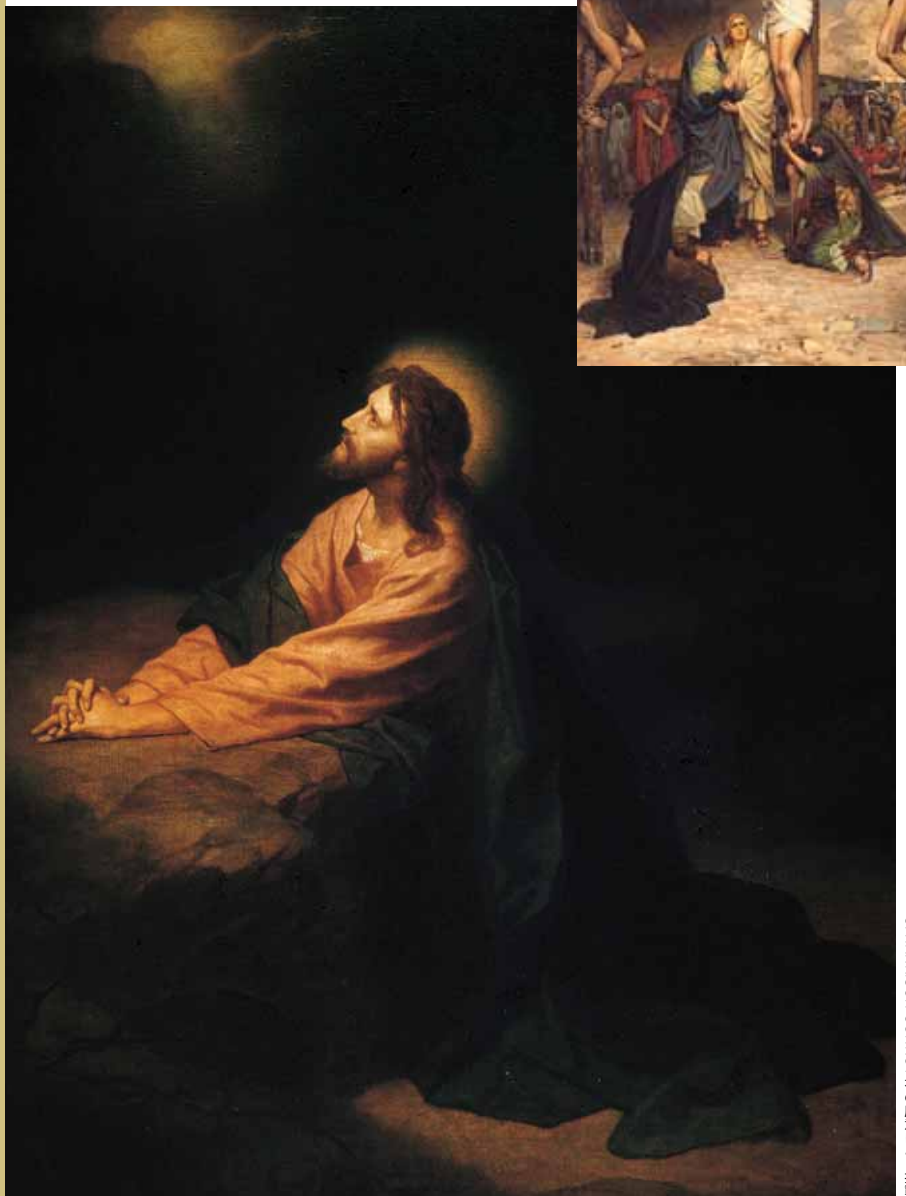
『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』(教義と聖約 110: 3 - 4)

イエス・キリストについて、預言者ジョセフはまた次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御



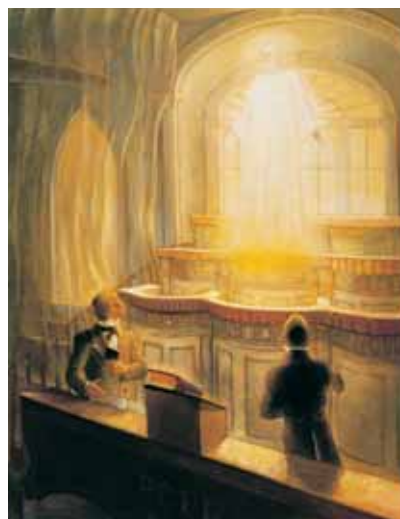
左 「山上の垂訓」  
カール・ヘンリック・ブロック画;  
左下 「ゲッセマネのキリスト」  
ハインリッヒ・ホフマン画;  
下 「キリストの十字架の刑」  
作者不明;  
右ページ 「なぜ、泣いているのか」  
サイモン・デューイ画







聖書の挿絵

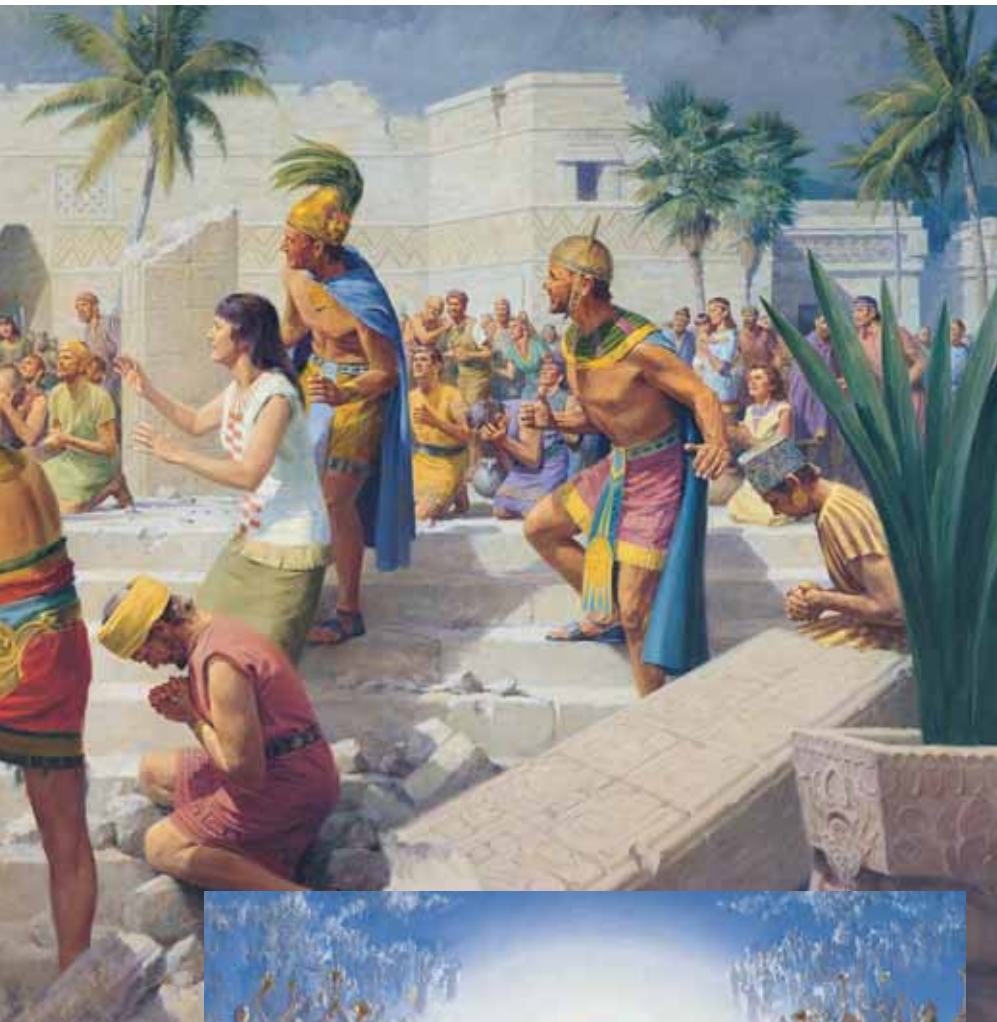


最上段 「アメリカを訪れられた  
イエス・キリスト」ジョン・スコット画；  
左端 「最初の示現」ゲーリー・  
カップ画；上 「カートランド神殿で  
ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに  
御姿を現されたイエス・キリスト」  
ゲーリー・スミス画

下 「メルキゼデク神権の回復」  
ケン・ライリー画；  
右ページ 「再臨」  
ハリー・アンダーソン画







父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」  
(教義と聖約76：22 - 24)

わたしたちは、イエス・キリストの神権とイエス・キリストの教会が地上に回復されたこと、そしてその教会は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられ……キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」ことを厳肅に宣言します(エペソ2：20)。

わたしたちは、イエス・キリストがいつの日か地上に戻って来られることを証します。「こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る」のです(イザヤ40：5)。イエス・キリストは王の王として治め、主の主として統治されます。イエス・キリストの前にすべてのひざがかがみ、すべての舌がイエス・キリストを賛美することでしょう。わたしたち一人一人は将来、自分の行いと心の望みについて裁きを受けるためにイエス・キリストの前に立つことになります。

わたしたちは正式に聖任を受けたイエス・キリストの使徒として証します。イエスは生けるキリスト、不死不滅の状態にある神の御子です。イエス・キリストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。イエス・キリストは世の光、命、そして希望です。イエス・キリストの道は、この世においては幸福に、後の世においては永遠の命に至る道です。わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。

「生けるキリスト 使徒たちの証」は、大管長会および十二使徒定員会により2000年1月1日付けで署名され、『リアホナ』2000年4月号に掲載されました。

## 主の戒めを守り、 従うことを聖約する

わたしは当時60歳で無一文で、不名誉な人生を送っていました。人生とは自分の楽しみのためにあると思込んでいました。わたしは道を見失い、何も見えていませんでした。しかしそんなとき、イエス・キリストがわたしの目を開いてくださったのです。

バプテスマ、確認、そしてイエス・キリストと交わした聖約こそ、わたしの人生を一変した奇跡です。自分が何を得られるか、そして自分にとって何が大切であるかに気づきました。イエス・キリストを知ったおかげで、わたしは今幸福な人間です。

わたしのような世俗的な者が教会員となり、神権者となり、そして支部会長になる日が来るとは、夢にも思いませんでした。わたしにとって、救い主であるイエス・キリストに仕えることは偉大な賜物たまものです。

アルメニア  
ピラブ・ミナスヤン



# キリストのもとに 来なさい

大管長会第二顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

「キリストのもとに来なさい」という言葉は招きの言葉です。あなたが人に伝えることのできる最も重要な招きの言葉です。また、だれもが受け入れることのできる最も重要な招きでもあります。これは、この神権時代における福音の回復の初期から、イエス・キリストが御自身を代表する人々に与えてこられた務めです。彼らが受けてきた務めは、「警告し、説き明かし、勧め、教え、またキリストのもとに来るようにすべての人を招く」<sup>1</sup> ことです。

バプテスマの聖約を受けると、すべての教会員はいつでも、自分がどのような所においても、イエス・キリストの証人として立つことを約束した弟子となります。<sup>2</sup> わたしたちが証人となる目的は、主のもとに来るように人々を招くことです。

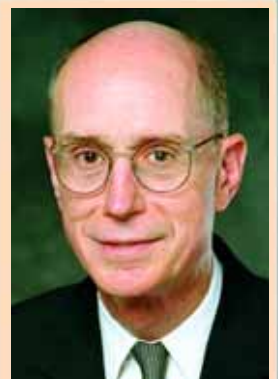
すべての教会員はその招きの言葉を効果的に伝える方法を学ぶことに強い関心を抱いているべきです。わたしたちは過去の経験から、その招きを受け入れない人々がいることを承知しています。救い主御自身が地上での務めに携わり、招いておられたときも、それにこたえたのはわずかな人々でした。しかし、主の声に聞き従った人々に対する主の喜びは大なるものでした。そして、わたしたちが招いた人々が主のもとに来たとき、わたしたちも大なる喜びを経験してきました。

## 主が道であられることを知る

わたしたちの人生の中で人々が招きにこたえてくれたときのことを深く考えるのは価値あることです。わたしの個人的な経験から、人々が招きを受け入れたときには一つのパターンがあるようです。どの場合でも、聖霊はその人に少なくとも3つの真理を明らかにされています。それらの経験は必ずしもわたしが挙げる順番に訪れるわけではありませんが、どれも心からキリストのもとへ来る人々の心に訪れるものです。

一つ目は、彼らが現世と来世でいちばん手に入れたと思う幸福を得る唯一の方法はイエス・キリストを通して表されると感じるようになることです。彼らはモルモン書の次の言葉を信じるようになります。「見よ、これらのことが真実であるように、また主なる神が生きておられるように確かに、わたしが語ってきたイエス・キリストのほかに、人に救いを与えることのできる名は天下に与えられていないということを、あなたがたに言うておく。」<sup>3</sup>

「神はいない、罪などない、享楽にこそ幸福がある」と多くの人々が唱える世にあって、この確信を得ることは容易ではありません。しかし、イエスがキリストであり、世の救い主であられるという確固とした証<sup>あかし</sup>を述べる賜物<sup>たまもの</sup>を得られれば、わたしたちの声はいっそう力強いものになります。その証は、自分の生活の中でイエス・キリストの贖罪<sup>しよくざい</sup>が深くかかわる経験を重ねていくうちに、いっそう力強く訪れるようになります。主の贖い<sup>あがな</sup>



人々が主のもとに来るのを  
助けることにより、  
あなた自身も  
主のもとに来たことを  
悟るでしょう。

が自分をどのように変えてくれたかについて度々思いをはせ、しばしば感謝するなら、主についての自分の証が人々の心の琴線に触れる力を得ることが分かるでしょう。あなたが自分の証によって招く人々がその証を感じると、主を自分たちの主なる救い主として受け入れるようになります。そして受け入れる気持ちが生じると、その気持ちは彼らとあなたの両方の心を温かくしてくれます。

### 聖約を交わして従う

二つ目に、わたしが知っている、心から主のもとへ来る人々は主の戒めを守り、主に従うために聖約を交わします。モルモン書を読むことや聖餐会せいさんかいに出席するなどといった簡単な決意から始まることもあるでしょう。この決意はイエスがキリストであり救い主であられると

いう信仰から生じなければなりません。その信仰のゆえに決意を守ると、その人は何かを感じます。その気持ちを言葉で言い表すことはできないかもしれませんが、すばらしい印象を受けるのです。ささいなことであっても、それを守って従うことで神からその祝福を受けます。そして次第に、その人は悔い改めの気持ちを抱くとともに、バプテスマの聖約を交わしたいという望み、すなわち救い主みまの御名を受け、罪から洗い清められたいという望みを抱くようになります。

人は多くの理由からこの重大な選択をします。わたしたちが教えたある男性は、初め、バプテスマを受ける必要性を理解できませんでした。何しろ、生まれたときからずっと善を行おうと努めていましたし、重大な罪など何一つ犯していませんでしたから。子供のころ、彼は別の教会でバプテスマを受けていました。しかし、二つのことを思うようになりました。一つは、罪を犯していなかったにもかかわらず、救い主が従順さゆえにバプテスマを受けられたことでした。もう一つは、救い主がヨハネのところへ行ってバプテスマを受けられたように、自分も真の神権の権能によって救い主に自分の決意を表したいということでした。

わたしたちが教えた別の若い男性は、自分の罪のために感じている悲しみによって打ち砕かれた心を抱いた結果、バプテスマを受けました。バプテスマの水から上がったとき、彼は

## 主に似た者となるように努める

わたしは全身全霊で主を愛しています。主はわたしの友です。主のおかげでわたしが救ゆるしを得られることを知っています。

福音とイエス・キリストについての証は、わたしがより善い母親、妻、姉妹、友となるのに役立ってきました。証があるからこそ、神がわたしに望んでおられるように生活しようと努めています。すなわち、高潔、正直、親切、愛、忍耐、そして哀れみをもって人々と接するときには、神の子供として接し、必要なときには助けようと努力しています。わたしがキリストのような生活をしようと努めることで、人々も主について学びたいと望んでくれればと願っています。

アメリカ合衆国インディアナ州  
ジョアンナ・M・アレン

涙を流しながら力強くわたしを抱き締め、わたしの耳もとでこのように言いました。「わたしは清いです。清められたんです。」

バプテスマの聖約を交わそうというこれらの人々の選択は、共通の信仰から生じました。「救い主の戒めに従うという聖約を守れば、主も永遠の命へ導くという御自身の聖約を守ってくださる」という確信が彼らにはありました。彼らには、主のもとに来る備えができていました。自分たちが変えられ、主に導かれ、いずれは主に似た者となるためです。

### 主に似た者となるために努力する

これに続いて、心から主のもとに来た人々の人生にわたしが見た三つ目のことが起こります。彼らは主に似た者となるように努力します。そして、主

であればなさるであろうと分かっていることを、自分も人々にしようとし始めるのです。わたしたちはバプテスマと聖霊の賜物を受けてすぐにそうしている忠実な人々を目にしてきました。あるとき、わたしは一緒に伝道していた同僚とともに、数週間前にレッスンを教えてバプテスマを施したばかりの家族を訪れました。その家族のご主人と奥さんは、わたしたちにある部屋を見せるために自宅の地下へ案内してくれました。その部屋は二人の娘のうち一人が使っていた寝室でした。しかしわたしたちが訪問したときには、彼女はもう一人の娘の部屋に引っ越していました。そしてその娘が空けた部屋には、家族が緊急時に必要な物資がすべてそろっていました。

わたしたちは緊急時の備えについてまだ彼らに教えていませんでした。とても大がかりなことをそんなに早くできたのはどうしてか尋ねると、次のような答えが返ってきました。「家族が自立したうえで人々を助けられるように備えることを主は望んでおられる」と教会機関誌で読んだからです。」そしてこう言いました。「末日聖徒はこういうことをするのでしょうか?」

その純粋な信仰は、救い主が彼らにしてほしいと望んでおられるすべてのことを行いたいという望みへと広がっていきましました。そして主に従いたいという彼らの望みはいつまでも尽きませんでした。その望みが彼らを変えました。それまでも親切な、人助けをしようと努める人々でしたが、慈愛を示す力が



も信頼できる友は、救い主と、主の御父であられることを覚えていなければなりません。御父は彼らの御父でもあられるのです。天の御父と救い主は、主のもとに来る人々が謙遜に従うなら、その人を慰めてその信仰を確固としたものとするために聖霊を遣わされます。ですから、新しい会員

増し加えられたのです。これこそ、わたしが会ってきた、生涯をかけて主のもとに来る努力を続けてきた人々全員がたどった変化のパターンです。

会員の定着について語るとき、その人をとどめたのは自分たちであるかのように語ってしまうことがあります。わたしたちは主のもとに来る選択をした人々の友になることができますし、またそうしなければなりません。試練が訪れるときはいつもそうですが、試練が訪れると新会員は落胆するかもしれません。しかし、彼らが持てる最良で最



と一緒に家庭訪問やホームティーチングに行くときにその新会員に祈ったり、教えたり、約束を作ったりする機会を提供するなら、その人に愛を示す以上の力をもたらすことができます。すなわち、天の力を引き寄せるのです。そしてその力は試練の中で彼らを高め、祝福を受け始めたときに彼らが高慢にならないように守ってくれます。祝福を受け続けることが高慢に結びついてしまうことがあるからです。

### 心の変化

もう一つのすばらしいことも起こります。最善を尽くして人々をキリストのもとに招くなら、自分の心も変わります。あなたは主の代わりに主の業を行うようになります。あなたが奉仕するときに主が御自身の約束を果たし、あなたと一つになってくださることが分かるでしょう。こうして、あなたは主を知るようになります。そして最終的には主に似た者となり、「キリストによって完全になり」<sup>4</sup>ます。人々が主のもとに来るのを助けることにより、あなた自身も主のもとに来たことを悟るでしょう。もし主を身近に感じ、主の平安を感じたいと思うなら、それを最もよく実現できるのは主の業に働くことなのです。

主はこのように語られました。

「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負って、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」<sup>5</sup>

主に代わってわたしたちが招く人々に対して、主が約束を守られることを証します。そしてその約束は、人々を招く働きをして

## イエス・キリストを通して幸福を見いだす

イエスはこのように言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ 14:6) 主のこの言葉ほど、わたしの証をよく表しているものはありません。

わたしはより高い学位を取得するために文学、哲学、歴史を研究しましたが、どのような偉大な思想、理論、事業にも限界があることを知りました。同じように、現世の父親は自分の子供にさえ平安や知恵、永遠を保証することはできません。

しかし天の御父は世に対し、キリストの道を進み、キリストの模範に倣い、明らかにされた主の真理に従うことにより、わたしたちはこの世の生活で真の幸福を得られると宣言されました。そして次の世において、天の御父のもとに戻ったとき、わたしたちは御父とともに、永続する幸福を得られるのです。

台湾、林 柏堅

主に仕える人々に対しても果たされるのです。

注

1. 教義と聖約 20:59
2. モーサヤ 18:8 - 10 参照
3. 2ニーファイ 25:20
4. モロナイ 10:32
5. マタイ 11:28 - 30



# わたしは 救われていたのでしょうか

シャルロット・グッドマン・マキューアン

友達のレーチェルから、彼女の教会と一緒に出席しないかと誘われました。彼女は自分の宗教に熱心で、わたしもレーチェルの教会が自分の教会とどう違うのか見てみたいと思いました。両親に彼女と一緒にいってもよいかと聞くと、その教会の礼拝がわたしたちの集会の時間と重ならないで行ってもよいとのことでした。

礼拝に参加しましたが、なじみのないことばかりでした。歌も祈りも違っていました。説教者の話し方もなじみがありません。献金皿が回って来たときはどうしてよいのか分かりませんでした。

最後に説教者が、この中でイエス・キリストを自分の救い主であると皆の前で受け入れていない人は前に来るようにと言いました。レーチェルはわたしに行くようにささやきましたが、わたしはためらいました。わたしたちのワードでは、ビショップがほかの人に向かって、前に出て皆の前でキリストを受け入れるように言ったことは一度もありませんでした。どうしてよいか分からなくなりました。自分は救いのために重要なことを怠っていたのでしょうか。困惑したまま、わたしはその集会を後にしました。

後になってこの経験を振り返ったとき、わたしは確かにほかの人の前でイエス・キリストを自分の救い主として受け入れていたことが理解できました。わたしはイエス・キリストからの神権の権能を持つ人によってバプテスマを受けていました。バプテスマを通して、イエス・キリストの名を受け、弟子となるということ  
を天の御父と聖約したのです。イエス・キリストの

戒めを守り、御子のように努力をすると約束しました。わたしのバプテスマには、家族、ワードの会員、そして証人となった神権者が立ち会ってくれました。

バプテスマと確認を受けてからは、毎週日曜日に<sup>せいさん</sup>聖餐を取り、天の御父にキリストの名を受けると改めて証する<sup>あかし</sup>機会があります。

これからも、言い回しが違うだけで、ほかのキリスト教の人からレーチェルの教会の説教者と同じ質問を受けることがあるかもしれませんが。自分が救われているかと尋ねられるかもしれないのです。十二使徒定員会会員のダリン・H・オークス長老の次の言葉は、この質問を理解し、答えるうえで役に立ちます。「クリスチャンは、福音の中で鍵となる『救われる』や『救い』などの言葉に異なった意味を付け加える場合があります。『救われていますか』と聞いた人の意図を察したうえで答えるとしたら、わたしたちは『はい』と答えなければなりません。』<sup>1</sup>

友達の教会に出席したとき、わたしはまだイエス・キリストについての証を築いている途中でした。あのとき以来、わたしは次のことが分かるようになってきました。つまり、聖文や生ける預言者の言葉を通して福音を研究すればするほど、常に神の証人として立つための準備を進め、また証人として立つ自信を深めることができるということです(モーサヤ18:9参照)。

注

1. 「あなたは救われていますか」『聖徒の道』

1998年7月号、  
62参照

絵 / サム・ロラ



# わたしたちは信じています

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がよく受ける幾つかの質問の答えを簡単にまとめました。

**末**日聖徒はイエス・キリストについて何を信じているのですか。イエスは文字どおり死者の中から復活されたのですか。イエスは栄光のうちに再び来られるのですか。人が救われるためにはイエスの恵みが必要なのですか。

これらは、教会を初めて知った人、教会員に初めて出会った人が尋ねる質問の一例です。そうした質問に答えるために、教会員は何よりもまず聖霊の導きに耳を傾ける用意をしておかなければなりません。しかし、これから紹介する簡単な質疑応答は、どのように答えたらよいかを考える際の参考になるかもしれません。

**聖書に記されているように、歴史上の事実としてイエス・キリストが聖地で生き、教えを説かれたと信じているのですか。**

はい。わたしたちはイエスがマリヤから生まれ、約3年にわたった地上での務めの間に聖地で教えを説き、十字架上で亡くなり、死者の中から復活されたことを信じています。このことは、イエスがこの世に来られる前から、何世紀にもわたって預言者たちが予見していました(例として創世49:10;詩篇2:6-7;22:16-18;118:22;イザヤ7:14;ミカ5:2参照)。イエスが苦しみ、全人類の罪を贖<sup>あがな</sup>ってくださったことを信じています。そのおかげで、悔い改めと赦<sup>ゆる</sup>しが可能となりました(イザヤ53:4-6参照)。イエスが死を克服されたこと、イエスの力によってすべての男女が肉体をまとして復活できるようになったことを信じています(ローマ6:5;8:11参照)。イエスが教える

福音の原則に従えば、地上に生まれた神の息子、娘たちは皆救いを得、天の王国におられる御父と御子のもとに帰ってともに住むことができるようになりますと信じています(1ペテロ3:18;信仰箇条1:3参照)。





### 主が文字どおり死者の中から復活されたと信じているのですか。

はい。聖書の中で使徒が証しているように、復活体をお持ちのイエス・キリストを見て、証人となった人は何百人もいます(ルカ24:39;ヨハネ20:20;1コリント15:3-8参照)。復活体となったイエスは、アメリカにいた何千人もの「他の羊」のもとで教え導かれました(ヨハネ10:16)。アメリカの人々にその両手と両足とわきの傷とを見せ、何日にもわたって彼らの間で教えを説かれたのです(3ニーファイ11-28章参照)。

1820年、イエスは御父とともにジョセフ・スミス・ジュニアに御姿を現されました。主はこの若い預言者に、主の教会と福音を回復するよう指示を与えられました。古代の使徒の死後、人の哲学が

入り込み、教会も福音も違ったものになっていたからです。ジョセフ・スミスとその同僚の一人は1832年にイエス・キリストについて次のように証しました。「『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。『彼は御父の独り子である。』(教義と聖約76:22-23)

### イエスは栄光のうちに再び来られると信じているのですか。

はい。聖典には、次のような証が記されています。「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう。(使徒1:11)わたしは知る。わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。(ヨブ19:25)キリストは、)地上でその民を治めるために天の雲の中を来られる……。(教義と聖約76:63)

さらに、イエスが復活されたおかげで、わたしたちも再び肉体を得ることができるようになったと信じています。「わたしの皮がこのように滅ぼされたのち、わたしは肉を離れて(訳注 英語では in my flesh「肉にあって」)神を見るであろう。(ヨブ19:26)アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。」(1コリント15:22)キリストの死は将来この肉体の死の縄目を解き、すべての人がこの肉体の死からよみがえる。霊と体は再び結合して完全な形になる。(アルマ11:42-43)

### わたしたちが救われるためには、イエスの恵みが必要だと信じているのですか。

まったくそのとおりです。イエス・キリストの恵みがなければ、救いを得る者も永遠の祝福を受ける者もいません(ローマ3:23-24参照)。イエスの恵みによってすべての人が復活し、イエスを信じて従うすべての人は永遠の命を得ることができます(ヨハネ3:15参照)。さらに、イエスの恵みによって、伴侶や家族との神聖な関係を永続させることができるのです(マタイ16:19;1コリント

わたしたちは  
イエスがマリヤ  
から生まれ、

約3年にわたった  
地上での務めの間に  
聖地で教えを説き、  
十字架上で亡くなり、  
死者の中から復活された  
ことを信じています。  
このことは、イエスが  
この世に来られる前から、  
何世紀にもわたって  
預言者たちが  
予見していました。





**復**活体となった  
イエスは、  
アメリカにいた  
何千人もの「他の羊」の  
もとで教え導かれました。  
アメリカの人々に  
その両手と両足と  
わきの傷とを見せ、  
何日にもわたって  
彼らの間で  
教えを説かれたのです。

11:11; 教義と聖約 132:19 参照) これらの永遠の祝福はイエスがわたしたちに与えてくださる賜物です。人は自分の力だけでは、幾ら努力してもこの祝福に値する存在となることはできませんし、この祝福を勝ち取ることもできません。

にもかかわらず、わたしたちは信仰をもってイエスの教えを信じ、従うことによってイエスの恵みという完全な祝福にあずかるということが聖文にはっきりと記されています。使徒パウロは、人は自分自身を救うことができず、主の恵みを必要とするということを教えました。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇るべきでないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えてくださったのである。(エペソ 2:8 - 10)

ヤコブは次のように説明しています。「信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。……これでわかるように、人が義とされるのは、行いによるのであって、信仰だけによるのではない。(ヤコブの手紙 2:17, 24) だからこそ主は、戒めを忠実に守りながら永遠の命を望んだ金持ちの

青年に対して、まだすべきことがあるとおっしゃることができたのです(マタイ 19:16 - 22; ルカ 18:18 - 23 参照)。キリストの恵みは、キリストを信じ、キリストが教えられたことを行う人に余すところなく降り注がれると末日聖徒は信じています。「わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っている……。(2ニーファイ 25:23, 強調付加)

善い行いによってわたしたちの罪が清められるわけではありませんが、善い行いによって、わたしたちはイエス・キリストに対する心からの信仰と、イエスの歩まれた道に従う忠実さを表しています。

**ジョセフ・スミスは、人の救いにとって何らかの形でイエス・キリストと同じくらい重要な役割を果たしたと信じているのですか。**

いいえ。ジョセフ・スミスは、人類の歴史に欠かすことのできない預言者でした。神の指示の下で彼が行った業はこの地上に祝福と知識をもたらしました。こうした祝福や知識は、旧約および新約の時代に神の預言者とそれに従う者たちに与えられてきたものの、その後失われていたのです。ジョセフ・スミスは、このよ<sup>うな</sup>古代の預言者と同様に主イエス・キリストの僕でした。そして、救いもすべての永遠の祝福も、救い主を通してしか得ることができないと教えています。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」<sup>1</sup> また、別の折に預言者はこう教えています。「わたしたちの大いなる主は、御自身を犠牲とすることによって、わたしたちが主のみもとに行く道を開いてくださいました。そのような主の<sup>きよ</sup>聖さと完全さについて深く考えるとき、主が御自身を低くされたことにわたしたちの心は和んでいきます。」<sup>2</sup>

注

1. 『歴代大管長の教え』 ジョセフ・スミス、49 - 50

2. 『歴代大管長の教え』 ジョセフ・スミス、54



## その他の資料

イエス・キリストに対するわたしたちの信仰について尋ねられたとき、その場で十分な答えができない場合は、次のことをするように勧めてもよいでしょう。

『モルモン書 イエス・キリストについてのもう一つの証』を研究する。この書物には、救い主が聖書に記されているとおりに復活し天に昇った後、アメリカ大陸の人々のもとで教え導かれた様子が記されています。救い主が古代アメリカで御自身を信じた人々に説かれた教えは、聖地において地上での務めを果たしておられたときに弟子たちに与えられた教えと同じものでした。モルモン書に登場する預言者たちはイエス・キリストの福音を繰り返し教え、その証を述べています。

末日聖徒の宣教師と話す。宣教師はイエス・キリストの福音を宣べ

伝えるよう召されていますが、その教えを受け入れることを選ばない人の判断も尊重しています。

インターネットの [www.mormon.org](http://www.mormon.org) にアクセスし、「日本語」を選択した後、「教会」から「基本的な信条」をクリックするか、最初のページの「質問をします」をクリックします。

インターネットの [www.lds.org](http://www.lds.org) (英語) にアクセスする。「About the Church」にカーソルを合わせ、「Answers to Questions」をクリックします。ここでは、興味のある事柄を調べることができます。または最初のページで「Gospel Library」にカーソルを合わせ、「Search Gospel Library」をクリックすると、教会機関誌やそのほかの教会出版物に載っている事柄について調べることができます。

# キリストの証人になる



七十人会長会

D・トッド・クリストファーソン長老

**使**徒は、与えられた神権の職の権能により、全世界におけるキリストの特別な証人になるという使命を受けています(教義と聖約 107:23参照)。使徒たちの証は、救いをもたらす主の業に欠かせません。しかし、使徒だけが証人であってはなりませんし、またそうではありません。バプテスマと確認を受けているわたしたちは皆、「いつでも、どのようなことについても、どのような所においても、……神の証人になる」という決意をもって(モーサヤ 18:9)、イエス・キリストの御名を引き受けたのです。わたしたち一人一人にはキリストの証人になる能力が備わっています。実際、主は、御自身の福音を宣べ伝えるに当たって「弱い者や純朴な者」を信頼しておられます(教義と聖約 1:19, 23参照)。「すべての人が主なる神、すなわち世の救い主の名によって語る」ことを主は望んでおられるのです(教義と聖約 1:20)。

どうすれば末日聖徒イエス・キリスト教会の会員がキリストの証人になれるのか、その方法を幾つか考えてみましょう。

**わたしたちは、キリストが生きておられるという確かな、自分自身の証を受けるとき、キリストの証人になります。**

最も基本的な意味で、イエス・キリストの証人になるというのは、キリストが神の聖なる御子であり、世の救い主、贖い主であられるという、確かな自分自身の証を持つことです。古代の使徒たちは、イエスが約束されたメシヤであられることを知っていました。そして、自分自身の経験から文字どおりのキリストの復活について語ったのです。しかし、キリストを実際に見たり、御前に立ったりしなければキリストの証人になれないということはありません。ペテロがイエスに「あなたこそ、生ける神の子キリストです」と証したとき、主は、ペテロがその知識を得たのは、主との物理的な近さや、主とともに体験した事柄の結果ではなく、天の御父がそれを明らかにされたからであるとお答えになりました

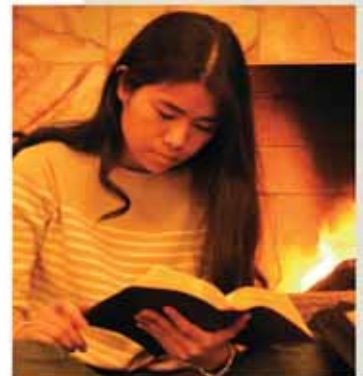
た(マタイ 16:15 - 17参照)。また、イエスはトマスに対し、人はイエスに触れたり、見たりしなくても、トマスが受けたのと同じ信仰と証を持つことができると分かりやすく教えられました。「イエスは彼に言われた、『あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである。』」(ヨハネ 20:29)

キリストについてのわたしたちの証は、通常、ほかの人の証から始まります。つまり、知人や、著名な人、また信頼する人の証から始まるのです。わたしたちには、「このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである」と証した使徒たちの記録があります(使徒 2:32)。わたしたちには、イエスの予任、務め、贖いについて書かれている旧約聖書と新約聖書があります。わたしたちには、もう一つの証であるモルモン書があります。モルモン書は「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させる」<sup>1</sup> ことをおもな目的としています。またわたしたちには、預言者ジョセフ・スミスの証があります。ジョセフは、御父がイエスを指して「これはわたしの愛する子である」と宣言される御姿を見、その御声を聞いたのです(ジョセフ・スミス 歴史1:17)。その後、預言者は「小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子である。』と。」と明言しています(教義と聖約 76:22 - 23)。またわたしたちには、この時代の特別な証人がいます。彼らはわたしたちと同じ時代に生きています。わたしたちは、自身の目と耳で、その人々から確かな証を受けています。さらに、多くの人が両親や祖父母、忠実に信仰を保つ友人から証を聞くという祝福を得ています。

バプテスマの聖約に入る人には、イエス・キリストを信じる信仰が特別に授けられます。また、聖霊の賜物を受けることにより、キリストについて自分が得た証が真



**わたしたち  
一人一人には  
キリストの証人になる  
能力が備わっています。**



## 救い主についての個人的な証

子供だった11歳のときに受けたバプテスマが、イエス・キリストについてのわたしの証の第一歩だったと思います。わたしはキリストの教会に加わったのです。そのとき以来、イエス・キリストの教えに従い、福音の原則に添った生活をしたいと願ってきました。

わたしは、少しずつイエス・キリストについての証を得て行きました。教会に熱心に通うことで、その証は強まっています。自然の美しさに触れるとき、主がいかに深くわたしたちを愛してくださっているかを度々感じ、主に対する感謝の念がより深くなります。イエス・キリストが天の御父とわたしたちの間の仲保者であられるという知識をもって断食し、祈り、その答えを受けるときに、御霊がわたしに証するのを感じます。また、頻りに神殿で礼拝することで、主を身近に感じられることをうれしく思っています。

これまでの人生を通してわたしの証は大きく育ち、強められてきました。今日まで、わたしの心には、イエス・キリストが神の御子であり、わたしの救い主、贖い主であられるということに対する一点の疑いもありません。このことを知っているのも、わたしには内に秘めた確信と平安があります。

イングランド、ジョイス・ボーラー

実であるという確証がもたらされます。ニーファイは次の聖句に書かれていることが実際に起こると明言しています。「そのとき、あなたがたは、永遠の命に至る細くて狭い道にいることになる。まことに、あなたがたはその門から入っている。あなたがたは御父と御子の戒めに従ってこのように行っている。またあなたがたは、御父と御子について証をされる聖霊を受けている。こうして、その方法によって入るならば受けて主が約束された、その約束が果たされたのである(2ニーファイ 31:18, 強調付加)

ほかの人の言葉を信じることは霊的な賜物です。さらに、「イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖霊によって許される」ことも賜物です(教義と聖約 46:13)。

この確証は、燃える思い、平安、確信を与える思い、ひらめきといった、心の思いを通して度々与えられます。主はオリバー・カウドリに、霊の思いを通してモルモン書の証をお授けになりました。この霊の思いが「あなたが記してきた言葉、すなわちその書は真実である」という確認を与えたのです(教義と聖約 6:17)。また、主はこのように付け加えておられます。「あなたはこれ以上の証を望むならば、これらのことが真実であることを知ろうとして心の中でわたしに叫び求めた夜のことを思い出しなさい。わたしはこの件についてあなたの心に平安を告げなかったであろうか。神からの証よりも大いなる証があるであろうか。(教義と聖約 6:22 - 23)人の心に平安を告げる御霊だけが証を得る形ではありませんが、それが神からのものであるかぎり、それよりも大きな証はないのです。わたしたちは、聖文にあるキリストの言葉をよく味わうことによって「(キリストの)声を聞いたこと、そして(キリストの)言葉を知っていることを証できる」と同じよう

に(教義と聖約 18:36)、神からの確信をもたらず霊の思いによって、御子を知っていることと御子が生きておられることを証できるのです。

**わたしたちは、キリストの教えを映し出すような生き方をするとき、キリストの証人になります。**

救い主は、西半球で教え導かれていたときに次のような戒めを与えられました。「あなたがたの光を掲げて、世の人々に輝き渡るようにしなさい。見よ、あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。(3ニーファイ 18:24)人々が、わたしたちを通して少しでもイエス・キリストを見ることができるようでなければなりません。わたしたちの行動、話し方、見方、そして考え方までもが、キリストを、そしてキリストの方法を映し出すものとなるのです。アルマはそのことを、心の中に大きな変化を経験し、その顔に神の面影を受けていると表現しました(アルマ 5:14参照)。同様に、主はわたしたちが御自身のようにでなければならぬとお命じになりました(3ニーファイ 27:27参照)。わたしたちは主が教え導かれていた場所にいたわけではありませんが、聖文を詳しく調べるときにイエスとイエスの話されたことや行われたことを見るのです。そして、イエスの模範に従うとき、わたしたちはイエスについて証しているのです。

テネシー州ナッシュビルで地域の奉仕活動に携わっていたとき知り合いになったチャールズ・ストロベル神父というカトリックの司祭の模範を思い出します。ストロベル神父は、ホームレスの人々を社会復帰させる事業を立ち上げたのです。1度に数人ずつ、日常生活に必要な能力を身に付けられるよう訓練し、就職の機会を与えました。ストロベル神父はばく大な時間をささげて、こうした人々が



二度と後戻りをせず、自立できるよう支援しました。わたしは、この神父の母親が数年前、あるホームレスの男性に殺害されていたと知って驚きました。ストロベル神父の持つキリストのような愛は、かけがえのない母親の命を暴力で奪ったホームレスの人と同じ境遇にある人々にまで及んでいたのです。

いつの時代でも、使徒と預言者が伝える事柄の中心を成すのは、イエス・キリストの贖いを通して罪の赦しを受けるには悔い改めが必要であるということです。わたしたちは、自身の罪を悔い改めることによってキリストを証し、赦しと清めをもたらすキリストの恵みの持つ力を証することになります。自分自身が完全になるまでは述べる証に効力がないということはありません。救い主の標準に見合った生活を送るよう努力していればいいのです。エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994年）は、この過程には忍耐と勤勉が必要であるという賢明な勧告を与えました。

「キリストに似た者になるための努力は生涯を通して続けるべきものです。また成長や変化といっても、ゆっくりとしていて、ほとんど自覚できないものなのです。……

……パウロや、エノス、ラモーナイ王と似たよう

な改宗をする人がいるのに対して、非常に多くの方が、悔い改めの過程をとても繊細で自覚しにくいものだと感じています。彼らは日々主に近づくための歩みを続けていますが、自分たちが神のような生活を築いているという自覚はほとんどありません。親切と奉仕と決意に満ちた穏やかな生活をしています。彼らは、『火と聖霊によるパプテスマを受けた。しかし、彼らはそれを知らなかった』と主が言われたレーマン人に似ています（3ニーファイ 9：20、強調付加）。<sup>2</sup>

**わたしたちは、ほかの人々がキリストのもとに来るよう助けるとき、キリストの証人になります。**

ニーファイは喜びのうちにこう言いました。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。（2ニーファイ 25：26）わたしたちも同じように、ほかの人々、とりわけ、自分の子供たちがキリストのもとに来るよう、積極的に手助けすることができるのです。

ニーファイの「わたしたちはキリストのことを話

人々が、  
わたしたちを  
通して少しでも  
イエス・キリストを  
見ることができるようで  
なければなりません。  
わたしたちの行動、  
話し方、見方、  
そして考え方も、  
キリストを、そして  
キリストの方法を  
映し出すものでなければ  
ならないのです。

## 主の教を映し出すよ うな生き方

大学で人文学を学び始めてから5年目に、わたしは模範の価値について大切なことを学びました。先生が教室に入る度に、黒板には先生の似顔絵がかかされていました。クラスメートのいたずらです。その度に、その教授はわたしたちに似顔絵を消すようにと言いました。ですが、それ以上は決して何も言いませんでした。

わたしはその賢さと謙虚さに強く心を打たれ、教授がどの教会に通っているのかが知りたくなりました。そして、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることが分かったのです。

わたしは宣教師から福音を学ぶことにしました。そして2000年9月10日にバプテスマを受けたのです。自分の生き方を通して模範を示してくれたその人は、わたしの支部の会長になりました。

イエスがわたしたちの究極の模範であることを証します。わたしたち末日聖徒が善良な生活を送れるとすれば、それはイエスの模範に従っているからです。そうするときに、わたしたちも模範を通して人を教えることができます。

コンゴ民主共和国、キンバ・カバング



し」という言葉は、わたしたちが日常の会話や普段の何げない状況でも、喜んで救い主についての気持ちを話すということを示しています。そうした状況では、1対1になっていることが多く、キリストとはどのような御方なのか、何をを行い、何を教えられたのかについて、打ち解けた親しい雰囲気の中で話し合うことができます。そして、彼らもキリストを愛し、キリストに従うように勧めることができます。

「キリストのことを喜び」という言葉には、わたしたちが、基本的に明るい展望をもって生きているという意味を含んでいます。明るい展望はキリストを信じる信仰の表れです。わたしたちは、「神の恵みは……十分である」とことを知っています(モロナイ10:32-33参照)。神の恵みは、わたしたちが死と罪から贖われ、キリストによって完全になるために必要です。失意、そして悲劇にさえ見舞われることがありますが、

キリストのおかげで永遠の幸福が保証されていることを知っています。イエス・キリストへの信仰は輝きを放つので、その信仰によってわたしたちは「重荷を負って苦勞している」ほかの人々に対し、どうすればキリストにあって休みを得ることができるのかを示すのです(マタイ11:28-30参照)。

「キリストのことを説教し」という言葉は、もちろん専任宣教師または教会員による伝道活動のことを指しますが、キリストのことを学び教える場である礼拝行事や日曜学校のクラスでの行動にも当てはまります。教師として、また生徒としてそれらの集会に参加することによっても、わたしたちはキリストについて証できます。さらに、そのような場を有意義なものとするために個人で研究することで、わたしたちは信仰を証するのです。

「キリストのことを預言し」という言葉は、わたしたちが御霊の力によってキリストの証を表すことを意味しています(1コリ





先祖のためにバプテスマやそのほかの神聖な儀式を執り行うことにより、キリストが再び来られることと、再臨に備えるためにわたしたちの心を先祖に向けなければならないことを証するのです(マラキ4:6;教義と聖約2:2 参照)

「また、……自分たちの預言したことを書き記す」という言葉は、キリストに関するわたしたちの証を永遠に記録するという知恵を示しています。わたしたちは、自分の述べる証が「天使たちが見るために天で記録されている……。そして、天使たちは〔わたしたちの〕ことを喜んで〔いる〕」ということを理解しています(教義と聖約62:3)。わたしたち自身の子孫やそのほかの人々の子孫は、自分たちのために書き記され、あるいは記録されたキリストについてのわたしたちの証を見て、この地上に生まれてくる前でさえも喜んでいてもかもしれません。

聖なる御霊がイエス・キリストを証されることを感じ、また多くの経験や様々な状況を通して自分の霊がその証を確認し、再確認するとき、また、日々、自分自身の生活の中で主の模範という光を掲げようと努力するとき、そして、人々に証を述べ、その人々がキリストを知り、従うための手助けをするとき、皆さんはイエス・キリストの証人なのです。願わくは、「イエスの証を受け入れ(教義と聖約76:51)この世の生涯を通じてその証に忠実であった人々(教義と聖約138:12 参照)の中に数えられたい」という心の願いを、神が皆さんに与えてくださいますように。

注

1. モルモン書タイトルページ
2. 「大いなる改心」『聖徒の道』1990年3月号, 7 参照

## 人々が主のもとに来る手助けをする

「ホプキンス姉妹、この10人が、今年のひかりクラスで受け持ってもらう子供たちですよ。」初等協会会長の顧問からそう告げられました。まだ改宗したばかりだったわたしは、正直に言ってこの召しに震え上がりました。自分がまだ十分に理解していないことをどうやって教えたらいいのでしょうか。元気の有り余る10人の子供たちをどう扱ったらいいのでしょうか。しかし、ビショップと初等協会の会長は、この大変な召しに熱心に取り組むなら祝福を受けると約束してくれました。

福音を教えるため、すべての精力を注いで福音を学ぶ必要があることは承知していました。そこで、わたしは毎週、教師用手引きを読みました。教師用手引きは福音の光を豊かに注いでくれます。わたしは祈り、そこに載っている原則が自分の生活や子供たちの生活にどう応用できるのかについて深く考えました。研究し、教えていると、わたしたちが神の子供として神聖な生得権を受け継いでいることについての証を得ました。そして、一人一人に価値と個性を見出すようになりました。初等協会で教えるレッスンの内容は簡単なものですが、それは神のかけがえのない子供たちの顔を輝かせただけでなく、自分がバプテスマの水をくぐったときに得ていた小さな証もはぐくんでくれました。

ひかりクラスの子供たちと一緒に過ごした1年間はかけがえのないものとなりました。人生を変えてくれた召しに永遠に感謝します。イエス・キリストの教えによって子供たちが変わったように、わたしもキリストの福音によって変わりました。

アメリカ合衆国メイン州、  
トリッシュ・イサベラ・ホプキンス



ント12:3参照)。「イエスのあかしは、すなわち預言の霊である。(黙示19:10)キリストの最初の降臨を預言した古代の人々と同じように、わたしたちも言葉や行いで、キリストの再臨についての預言が確かなものであることを示します。わたしたちが「主の大いなる恐るべき日」を見据え(マラキ4:5-6。教義と聖約2章;128:17-18も参照)、エリヤによって回復された神権の権能を通して

# 賛美歌によって 礼拝する

わたしたちは、  
賛美歌を通して  
救い主に  
近づくことができます。

「**佐**藤姉妹のように歌えたらいいのに。」鈴木兄弟のようにピアノを弾けたらいいのだけど。」わたしたちはこれまで何度、このようなことを耳にしたり、考えたりしたことがあるでしょうか。音楽の才能は、ほかの人だけが持つ特別な賜物であると考えてしまうときがあります。すばらしい才能を称賛する一方で、自分には無縁だと思ってしまうのです。末日聖徒イエス・キリスト教会においては、すべての人が音楽に親しみ、歌

うことができます。賛美歌を通して、わたしたちは感謝の気持ちを表し、賛美し、回復された救い主の福音を学び、主の贖い<sup>あがな</sup>を覚え、主に従う決意をすることができるのです。

## 感謝の気持ちを表し、賛美する

古代のイスラエルの民がエジプトから救い出されたとき、「そこでモーセとイスラエルの人々は、「一つの」歌を主にむかって歌いました。」〔出エジプト15:1〕ヤレド人が海を渡る間、「彼

らは主に賛美の歌を歌いました。」（エテル6:9また、初期の末日聖徒がカートランド神殿を奉献したとき、彼らはウィリアム・W・フェルプスが新たに書いた賛美歌「主のみたまは火のごと燃え」<sup>1</sup>を歌いました。すべての福音の神権時代において、神の子供たちは音楽によって神に賛美の声を上げてきたのです。今日わたしたちが歌う賛美歌の多くは、この喜びと賛美の精神を表しています。例えば、末日聖徒が愛唱する、ウィリアム・W・フェルプスによる次の賛美歌はこう宣言しています。

## イスラエルの救い主

われらの喜び  
昼は陰、夜は火となる  
救い主、わが王<sup>2</sup>

次の有名な歌詞にあるように、わたしたちは賛美歌を通して、具体的な祝福への感謝をささげることできます。

感謝を神に捧げん 預言者の導き  
末日に、福音を 光とたまいぬ  
豊かなみ恵みに われらは感謝せん  
喜び仕えつつ 戒め守らん<sup>3</sup>

これらの賛美歌を歌うとき、わたし

## イエスはわたしたちを愛しておられます

ある日、わたしはソファに座ってCDを聴いていました。賛美歌「光の中進もう（『賛美歌』194番）が流れてきたとき、わたしたち一人一人のために払われたイエス・キリストの犠牲について考えました。主の愛、謙遜さ、哀れみを思い起こし、感謝の気持ちでいっぱいになりました。救い主がわたしたちを愛しておられることを主の御霊<sup>みたま あかし</sup>が証してくれました。

隣に座っていた2歳になる息子はイエス・キリストの絵を見詰めていましたが、きっとわたしと同じように何かを感じたのでしょうか。わたしを見上げてこう言いました。「ママ、イエス様はママのことが大好きなんだね。」

わたしと家族にとってイエス・キリストは人生の一部です。わたしの思いと心の中におられます。イエス・キリストの福音はわたしの人生を変えてくれました。

ブラジル、タマラ・ミランダ・マカリオ・デ・オリベラ



私たちは次の戒めに従っているのです。「あなたは楽しければ」すなわち、喜びに満たされ、幸せならば、「歌と、音楽と、……賛美と感謝の祈りをもって主をほめたたえなさい。(教義と聖約136:28)

### 主の福音を学ぶ

感謝の気持ちを表し、賛美することに加えて、わたしたちは賛美歌を通してイエス・キリストの福音を学ぶこともできます。例えば、子供の賛美歌として親しまれている次の歌詞は、わたしたちと天の御父との関係をとても簡潔に、そして美しく説明しています。

神の子です、私やあなた  
あふれる恵みに感謝します<sup>4</sup>

そのほか、福音の原則に添って生きるにはどうしたらよいかを示す賛美歌もあります。開拓者の時代に書かれた次の有名な賛美歌もその

一つです。

恐れず来たれ、聖徒 進み行けよ  
その旅は辛くとも 恵みあらん  
無益な憂いは 払いて努めよ  
されば喜ばん すべては善し<sup>5</sup>

最も愛唱される賛美歌の幾つかは、キリストの僕、すなわちこの時代に主が選ばれた預言者に従うよう教えています。例えば「たたえよ、主の召したまいし」は、福音の回復において預言者ジョセフ・スミスの果たした重要な役割について思い起こさせてくれます。

たたえよ、主の召したまいし  
主と語りし予言者を  
末の時を始めたる 業を世、皆崇めよ<sup>6</sup>

これらの、またそのほかの賛美歌について深く思い巡らし、賛美歌に載っている参照聖句



を研究することは、日々の生活の中で福音を学び、救い主を覚えるうえで役に立ちます。

### 主の贖いを覚える

救い主を覚える最も大切な方法の一つは、毎週聖餐を取ることです。この神聖な儀式に備えるに当たって、わたしたちは賛美歌を歌います。聖餐の賛美歌は、キリストの犠牲とその意義を思い起こさせてくれます。

見よ、罪のためにいけにえとなりて、  
主は死にたまひぬ  
人が栄光を勝ち得て、生きんため<sup>7</sup>

尊き血流し 命捨てて  
罪なき犠牲にて  
罪の世救う<sup>8</sup>

## 祝福を数え上げる

教会員になって15年がたちます。これまで数々の試練や課題に直面してきました。しかし、ひざまずき、神の永遠の愛に感謝する理由は数え切れません。まさに次の賛美歌のとおりです。

いかなる苦と戦うとも たわむなかれ、神在ます  
み恵み数えよ天使は 汝が旅を守りたまわん  
('み恵み数えあげ'『賛美歌』153番)

わたしたちはこの世において喜びを、そして永遠においては完全な喜びを見いだすことができます。わたしはこのことを、機会がある度に声を大にして伝えていきます。神がそれを可能にくださったと証します。また救い主のおかげで、わたしたちは永遠に御父と御子とともに住むことができることを証します。

アルゼンチン、マリベル・ロアイサ・デ・アーランダ

突き刺されし主の 手を思い  
その愛と恵み 忘れ得ず  
み座の前に ひざまずいて  
主のみ恵みを たたえまつらん<sup>9</sup>

深く考え、祈るような気持ちで歌うなら、聖餐の賛美歌の歌詞はわたしたちの思いを救い主だけに向けさせてくれます。よく考えながら歌うことによって、有意義に聖餐を取り、キリストの御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守るという決意を新たにす準備ができるのです。

### イエス・キリストに従う決意をする

救い主に従う決意を歌った賛美歌は数多くあります。それらの賛美歌を歌うとき、わたしたちは御子に従いたいという望みを天の御父に証するのです。例えば、次の歌詞について考えてみてください。

感謝します、やさしい 主の恵みと導き  
感謝の歌 うたって  
光の道行こう<sup>10</sup>

賛美歌「み旨のまま行かん」は、同様の宣言を表しています。

主の愛を知りては すべてをゆだねて  
心の誠尽くさん みこころのままに<sup>11</sup>

賛美、感謝、学ぶこと、覚えること、決意。そのどれであっても、主はわたしたちの歌を喜んでくださいます。主は次のように述べておられます。「わたしは心の歌を喜ぶからである。まことに、義人の歌はわたしへの祈りである。それに対する答えとして、彼らの頭に祝福が注がれるであろう。(教義と聖約25:12)

幸いなことに、主は「美しい歌のみが、わたしへの祈りである」あるいは「わたしは音楽の才能のある者にのみ耳を傾ける」とは言われませんでした。人生においてもそうですが、音楽においても、主はわたしたちの能力よりも、心

## 導きを感じました

若いとき、宣教師としてノルウェーで奉仕していました。伝道部長からすべての宣教師に電話があり、イングランド・ロンドン神殿の奉献式の際に、二つのセッションで歌うように依頼されたという知らせを受けました。1958年のことです。わたしは伴奏をするように頼まれました。

神殿に着くと、驚いたことに、ピアノではなくオルガンを使って伴奏しなければならないことが分かりました。この型のオルガンを弾いた経験が一度もなかったので、ストップ(訳注 音色を選ぶための装置。音栓)を調整するために、どうしてもだれかの助けが必要でした。天の御父はわたしの必死の願いを聞き入れてくださり、ある姉妹がわたしの窮地を救いに来てくれました。そして静かな前奏曲と聖歌隊の伴奏用にオルガンを調整してくれました。

絶望的な状況にあって、わたしは穏やかな思いに包まれていました。触ったことも練習したこともないオルガンで演奏する間、わたしは救い主の愛に導かれるのを感じました。聖歌隊が1曲目を終えたとき、デビッド・O・マッケイ大管長は伝道部長の方を見て「とてもよかったです」と言いました。発表の間中、わたしたちがどれほど祝福されていたのかわかり、感動で胸がいっぱいになりました。一度も間違いのない完璧なものだったのです。

イエス・キリストは神の御子、御父の独り子であり、聖なるメシヤ、平和の君であられます。確かに生きておられ、再び地上においでになるのです。

アメリカ合衆国アイダホ州、リチャード・プロバーク

の望みや信念に、より大きな関心を寄せておられます。

技術の高さにかかわらず、わたしたちは皆、賛美歌を歌うことによって音楽に親しむことができます。そして心からの確信をもって歌うとき、わたしたちは賛美歌を通してキリストのもとに行くのです。

### 注

1. 『賛美歌』3番参照
2. 「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番
3. 「感謝を神に捧げん」『賛美歌』11番
4. 「神の子です」『賛美歌』189番
5. 「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番
6. 『賛美歌』16番
7. 「見よ、罪のために」『賛美歌』108番
8. 「高きに満ちたる」『賛美歌』112番
9. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
10. 「光の中進もう」『賛美歌』194番
11. 『賛美歌』172番



# 分かりやすくて貴い真理

**わ** たしたちには恵まれて、聖書とともに末日の聖文が与えられています。聖書と末日の聖文はイエス・キリストについて教え、証あかししています。救い主についての25の真理を、それぞれについて述べた聖句および末日の預言者の教えから紹介します。（下の表は、それぞれの教義に関する教えのすべてを載せているわけではありません。これらの教義についてさらに知りたい方は本誌42ページ「生けるキリスト 末日聖徒イエス・キリスト教会の使徒たちによる証」を参照してください。）

教義	聖書からの教え	末日の聖文と預言者からの教え
<p><b>1</b> 御父と御子と聖霊は、3人のそれぞれ独立した御方であられる。</p>	<p>「天においてあかし<small>ことば</small>をされる御三方がおられる。御父と言と聖霊である。そして、この御三方は一つであられる。」 （欽定訳1ヨハネ5：7から和訳。マタイ3：16 - 17；使徒7：55も参照）</p>	<p>「わたしは常にこう宣言してきました。神は一人の御方であられ、イエス・キリストは父なる神とは別の御方であられ、聖霊も別の御方であって霊の御方であられると。この御三方は3人の異なった方々であり、3人の神々であられます。（ジョセフ・スミス『歴代大管長の教え ジョセフ・スミス』41）</p>
<p><b>2</b> 御父と御子は骨肉の体をお持ちであり、聖霊は霊の御方であられる。</p>	<p>「さわって見なさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ。（ルカ24：39。創世5：1；ヨハネ14：9；ピリピ3：21も参照）</p>	<p>「御父は人間の体と同じように触れることのできる骨肉の体を持っておられる。御子も同様である。しかし、聖霊は骨肉の体を持たず、霊の御方であられる。もしそうでなければ、聖霊はわたしたちの内にとどまり得ない。」 （教義と聖約130：22。3ニーファイ11：13 - 15も参照）</p>
<p><b>3</b> 神会の御三方は目的において完全に一致しておられる。</p>	<p>「聖なる父よ、わたしに賜わった御名<small>みな</small>によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。（ヨハネ17：11）</p>	<p>「神会の方々は別個の御方です。しかし、目的と働きは一つです。神の子供たちが救いと昇栄を得るための壮大な神の計画を推し進めるに当たって、一つとなり、一致しておられるのです。（ゴードン・B・ヒンクレー「御父と御子と聖霊を信じる」『リアホナ』2006年7月号、8。3ニーファイ11：27も参照）</p>
<p><b>4</b> 神の業と栄光とは人の不死不滅と永遠の命をもたらすことである。</p>	<p>「そして今や、わたしたちの救主<small>すくいぬし</small>イエス・キリストの出現によって明らかにされた恵みによるのである。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不死とを明らかに示されたのである。（2テモテ1：10。ヨハネ3：16 - 17；1コリント15：22；ヘブル9：11 - 12、28も参照）</p>	<p>「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。（モーセ1：39。教義と聖約29：43も参照）</p>



2008年3月号 69

**9** イエスは肉における御父の独り子である。

「そして言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまことに満ちていた。(ヨハネ1:14。ヨハネ3:16も参照)

「わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。見よ、世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くために来られるのは、この御方である。(アルマ5:48。アルマ9:26;教義と聖約93:11も参照)

**10** イエスは人類にとっての完全な模範である。

「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように、わたしは手本を示したのだ。(ヨハネ13:15。1ペテロ2:21も参照)

「わたしたちが地上に存在するおもな目的の一つは、かつて汚れなく、清く、純粋で、染みのない肉体でこの地上に住まわれた御方に似た者となることです。キリストが降臨されたのは世の罪を贖うだけでなく、あらゆる人の前に模範を示し、神の完全さ、神の律法、御父への従順について基準を確立するためでもありました。(ジョセフ・F・スミス『歴代大管長の教え』ジョセフ・F・スミス』151。2ニーファイ31:16;3ニーファイ18:16も参照)

**11** 主はこの地上で教導の業を始めたとき、御自身の教会を設立された。

「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。

「わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師 などあることを信じる。(信仰箇条1:6。3ニーファイ12:1も参照)

それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ(るためである)。(エペソ4:11-12。マタイ16:18;ルカ6:13も参照)

**12** 救い主はすべての人類の罪を贖うために御自身の命をささげられた。

「これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。(マタイ26:28;イザヤ53:5-6;1ヨハネ2:1-2も参照)

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。……

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおのき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦しい杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。(教義と聖約19:16,18-19。1ニーファイ11:32-33も参照)





教義	聖書からの教え	末日の聖文と預言者からの教え
<p><b>13</b> イエスただ御一方だけが、わたしたちの罪の代価を支払うことがおできになった。</p>	<p>「この人による以外に救<sup>すくい</sup>はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。(使徒4:12)</p>	<p>「イエスは神の御子であり、神の力を持っておられたので、御自分の使命を果たすことができになりました。…… 道に迷い墮落した状態から人類を贖う力や能力を持つ人や、自ら進んで命を捨て、それによってすべての人に復活をもたらすことのできる人は、イエス以外にいませんでした。 イエス・キリストだけが、贖いという愛の業を進んで<sup>まこと</sup>全うすることがおできになりました。(エズラ・タフト・ベンソン「イエス・キリスト 救い主、贖い主」『聖徒の道』1990年12月号、5参照。アルマ34:8-10も参照)</p>
<p><b>14</b> イエスは死の縄目を断たれた。</p>	<p>「しかし事実、キリストは眠っている者の初穂として、死人の中からよみがえったのである。(1コリント15:20。ヨハネ14:19;1コリント15:54も参照)</p>	<p>「さて、肉体の死と呼ばれる死がある。そして、キリストの死は将来この肉体の死の縄目を解き、すべての人がこの肉体の死からよみがえる。(アルマ11:42。モーサヤ16:7-8;アルマ22:14も参照)</p>
<p><b>15</b> イエスは世の救い主であり贖い主であられる。</p>	<p>「わたしたちは、父が御子<sup>みこ</sup>を世の救主としておつかわしになったのを見て、そのあかしをするのである。(1ヨハネ4:14。ルカ2:11も参照)</p>	<p>「神は、神の声に聞き従うすべての人を救うために、この世に来られる。見よ、神はすべての人の苦痛、まことに男、女、子供の区別なく、……生けるものすべての苦痛を受けられる。(2ニーファイ9:21。教義と聖約66:1;モーセ1:6も参照)</p>
<p><b>16</b> イエスは新約聖書のメシアであられる。</p>	<p>「女はイエスに言った、『わたしは、キリストと呼ばれるメシアがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう。』 イエスは女に言われた、『あなたと話をしているこのわたしが、それである。』(ヨハネ4:25-26。ルカ4:16-21も参照)</p>	<p>「そして、まことに父がエルサレムを去ってから六百年後に、主なる神はユダヤ人の中に一人の預言者すなわちメシア、言い換えれば、世の救い主を立てられる。」(1ニーファイ10:4。2ニーファイ2:26;モーセ7:53も参照)</p>
<p><b>17</b> 主は古代アメリカ大陸の「他の羊」も教え導かれた。</p>	<p>「わたしにはまた、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼<sup>ひつしかい</sup>となるであろう。」(ヨハネ10:16)</p>	<p>「まことに、あなたがたに言う。『わたしには、この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らもわたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、一人の羊飼いとされるであろう』とわたしが言ったその羊とは、あなたがたのことである。(3ニーファイ15:21。3ニーファイ19:2-3;26:13,15も参照)</p>

教義	聖書からの教え	末日の聖文と預言者からの教え
<p><b>18</b> イエスは仲保者であり、御父に対する弁護者であられる。</p>	<p>「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。(1テモテ2:5。1ヨハネ2:1も参照)</p>	<p>「心を高めて喜びなさい。わたしはあなたがたの中におり、父に対するあなたがたの弁護者だからである。」(教義と聖約29:5。2ニーファイ2:27 - 28;教義と聖約45:3 - 5も参照)</p>
<p><b>19</b> 主は世の光であり命であられる。</p>	<p>「イエスは、また人々に語ってこう言われた、『わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。』」(ヨハネ8:12。詩篇27:1;ヨハネ1:9も参照)</p>	<p>「まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしはアルパでありオメガであり、初めてあり終わりであり、世の光であり命である。わたしは暗闇<small>くらやみ</small>の中に輝いている光である。そして、暗闇はそれを理解しない。(教義と聖約45:7。モーサヤ16:9;教義と聖約12:9も参照)</p>
<p><b>20</b> イエスは御自身の民をその弱さに応じて救うことができになる。</p>	<p>「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。(ヘブル2:18。イザヤ53:5も参照)</p>	<p>「また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、肉において御自分の心が憐れみで満たされるように、また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように、彼らの弱さを御自分に受けられる。(アルマ7:12。教義と聖約62:1も参照)</p>
<p><b>21</b> 救い主は人間の性質を変えることができになる。</p>	<p>「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。(2コリント5:17。1ヨハネ5:4も参照)</p>	<p>「全人類、すなわち男女を問わず、すべての国民、部族、国語の民、民族が再び生まれなければならないことを不思議に思ってはならない。まことに、人は神から生まれ、肉欲にふける墮落した状態から義の状態に変わって、神に贖われ、神の息子や娘にならなければならない。</p> <p>このようにして、彼らは新たな者となる。このようにならないかぎり、決して神の王国を受け継ぐことはできない。(モーサヤ27:25 - 26。モーサヤ5:2,7;アルマ5:14も参照)</p>
<p><b>22</b> 主は最初の教会を末日に回復された。</p>	<p>「あなたがたのためにあらかじめ定めであったキリストなるイエスを、神がつかわして下さるためである。</p> <p>このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった。(使徒3:20 - 21。マタイ17:11も参照)</p>	<p>「また、これらの戒めを与えられた人々もこの教会の基礎を据える力と、暗黒から、また暗闇から、全地の面に唯一まことの生ける教会をもたらず力を持つようになるためであった。教会について言えば、主なるわたしはこれを心から喜んでいる。」(教義と聖約1:30。教義と聖約20章も参照)</p>

**23** イエスは御自身が選ばれた預言者を通して教会を導かれる。

「またあなたがたは、使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。(エペソ2:20)

「この教会の頭は主イエス・キリストです。これは主の教会なのです。しかしこの地上での頭は預言者です。」(ゴードン・B・ヒンクレー「教会は正しい方向に進んでいます」『聖徒の道』1993年1月号,62。教義と聖約21:1 - 5も参照)

**24** イエスはいつの日か地上に戻られる。

「あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様<sup>ありさま</sup>で、またおいでになるであろう。(使徒1:11。1テサロニケ4:16;黙示1:7も参照)

「わたしは力と大いなる栄光とをもって、天のすべての衆群とともに天から姿を現し、千年の間地上で人々とともに義のうちに住む。そして、悪人は耐えられない。」(教義と聖約29:11。教義と聖約34:6;モーセ7:62 - 64も参照)

**25** 主は義をもってこの世界を裁かれる。

「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め(られた)。(使徒17:31。詩篇9:8;イザヤ11:3 - 4も参照)

「さて、悔い改めて、わたしの名によってバプテスマを受ける者はだれであろうと、満たされるであろう。そして、最後まで堪え忍ぶならば、見よ、わたしはその者を、わたしが立って世の人々を裁くその日に、わたしの父の御前<sup>みまえ</sup>で罪のない者としよう。」(3ニーファイ27:16。教義と聖約19:1 - 3も参照)





## 主の愛の腕に抱かれて

ロマ・リー・R・アンダーソン

**息**子のノランは、わずか1歳のときに、<sup>せきずいまくえん</sup>脊髄膜炎から生じる合併症の発作を経験しました。そして今、14歳となった息子は、<sup>ていあつたんらく</sup>低圧短絡、<sup>かた</sup>学習障害、片まひに苦しんでいます。

苦難の道でしたが、ノランの発育はわたしたちの予測を上回っています。発育の節目ごとに、わたしたちは大喜びしました。ノランの培ってきた忍耐力と決意には敬服させられます。

夫のライアンもわたしも、ほかの5人の息子たちも皆、ノランとの触れ合いを通して霊的に成長しました。時折、気落ちし、ノランの将来を案じることもありますが、そのようなときには、これまで受けてきた祝福を振り返り、天の御父と御子がわたしたち一人一人を愛し、気遣ってくださっていることを感

じ、ノランが6歳のときにこたえられた祈りを思い起こします。

ある夜のこと、ノランの苦しみにどう対処してよいか分からなかったとき、夫とわたしはひざまずき、ノランの幸福を願って祈りました。主への嘆願の中で、わたしたちは、ノランが、ありのままの自分を受け入れることの難しさゆえに取っている行動について特に心配していることを告げました。ノランが救い主の愛を感じられるように、また神の子供として自分には大きな価値があることを理解できるように、心から祈り求めました。

翌朝ノランは、台所で朝食を作っていたわたしのところへまっすぐやって来ました。通常、朝食前には兄弟たちと遊んだり、ソファにごろんと横になったりするノランでしたが、その日は、朝食用カウンターのいすによじ登り、わたしを見詰めて、熱心にこう言ったのです。「昨日の夜、夢を見たよ。」

わたしはノランの真剣さに気づき、

すぐに興味をそそられました。

「ほんとう?」とわたしは尋ねました。「どんな夢だったの?」

「イエス様がいらっしゃった。」ノランの返事は簡潔でした。「それから、助けてくださった。」

わたしは、愛にあふれる天の御父はわたしたちの祈りに耳を傾け、こたえてくださるという証があります。また、救い主は御父とわたしたちの仲保者であられるという証があります。御双方はわたしたちを個人的に御存じです。わたしたちの必要と可能性に気づいておられます。わたしたちをどのように助ければよいかを御存じです。

モロナイはこう語っています。「もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、……あなたがたに明らかにしてくださる。そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。(モロナイ10:4-5)わたしはこの聖句がモルモン書の証を得るためだけでなく、答えを得たいと心から願うどのような質問に対しても当てはまるということが分かりました。試練、心痛、困難に直面するとき、わたしたちは心底、誠心誠意になります。

救い主の教会の会員であることに、わたしはどれほど感謝していることでしょう。この教会で、わたしは研究と奉仕を通して、また聖霊を通して、主の福音の多くを学んでいます。救い主がわたしたち一人一人を助け、慰め、導いてくださるという事実を知っていることに、わたしはどれほど感謝していることでしょう。わたしは、主のもとに来るならば、だれもが皆、「(主の)愛の腕の中に」抱かれることを知っています(教義と聖約6:20)。



## 主は生けりと知る

クリスティー・ラッシュ・バンズ

教会機関誌

**ブ**リガム・ヤング大学アイダホ校（当時はリックス・カレッジ）の1年生のころ、家族から離れて寂しく暮らしていました。でも、授業を何か月か受けた後、大学生活にも慣れ、生活を楽しめるようになりました。その電話がかかってきたとき、わたしはアパートで勉強をしているところでした。

「クリスティー、悪い知らせがあるの」と母は泣きそうな声で言いました。「お父さんが、今晚、ひどい心臓発作で亡くなったの。」

突然、様々な感情がこみ上げてきました。たった今、耳にしたことを理解しようと努めました。父にはほんの数日前に会ったばかりでした。でも、それが最後になるなんて夢にも思いませんでした。父の死は家族全員に衝撃を与えました。地元のワードにも衝撃を与えました。父はまだ53歳で、ワードのビショップだったのです。

それから、家族、友人、ワードの会員、そして隣人の訪問が毎日のように続き、電話がひっきりなしに鳴りました。わたしたちは周囲の人々からあふれるほどの愛を感じました。父の葬儀では、家族一人一人が、父と過ごした日々の思い出を語り、救いの計画と死後の生活について証しました。

父は忠実な夫、献身的な末日聖徒、熱心なスカウト隊員、そしてすばらしい父親でした。父の人生は、大勢の人々を祝福しました。葬儀の後で、兄が墓を奉献しました。そして、「神の子です」

（『賛美歌』189番）の歌の間ずっと、わたしたち家族はたたずんで、むせび泣きました。

葬儀の翌日、学校へ戻りました。戻っても心は晴れませんでした。それまでどおりの生活を送り、自分の責任を果たさなければならないことは分かっていました。あまり落ち込まずに過ごせた日も、そうでない日もありました。何時間も父のことを考えて過ごしました。そして、試練や疑いの心に対処できるよう、救いの計画の知識とイエス・キリストに対する信仰にすがりました。

父が亡くなって2週間ほどたち、わたしは日記帳を携えて学内の礼拝堂に足を運びました。自分の気持ちと、父の死に関する出来事を記録するためでした。書いていくうちに、御霊を強く感じ、天の御父がわたしを愛しておられ、わたしのために特別な計画を備えておられ、自分が独りぼっちのま

書いていく  
**書**うちに、  
御霊を強く

感じ、天の御父が  
わたしを愛して  
おられるという  
圧倒されるほどの  
確信を得ました。

ま放置されることは決してないという  
圧倒されるほどの確信を得ました。書  
き終わるころに、近くの学生会館のス  
ピーカーから流れ出るチャイムが賛美  
歌の「主は生けりと知る(『賛美歌』75  
番)を鳴り響かせました。その賛美歌  
の歌詞がすぐに頭に浮かびました。

主は生けりと知る さち あた そは幸を与う  
死にし主は生きて  
永遠とわに生きたもう……

我が恐れをとめ 涙ぬぐいたまい  
心に喜びを与えて、生きたもう

わたしは確かにわたしの贖あがない主が生  
きておられることを知っています。主が  
わたしを愛しておられることを知って  
います。主が死からよみがえられたので、  
父も、すでに亡くなったすべての愛する  
人々も再び生きることを知っています。  
このような真理を知っていることは、何  
という慰めでしょう。

## 予期しなかった復活祭のごちそう

マリアンヌ・モンソン

**子** 供のころのわたしにとって、  
復活祭はいつも特別な祭日  
でした。教会から帰ると、両  
親は家族に贖いと復活について教え、  
夜になると、すばらしいごちそうが出  
たものです。夕食ときには友人たちも  
家に来て、一緒に楽しく、おいしく頂き  
ました。このような伝統があったため、  
復活祭はわたしの大好きな祭日になり  
ました。それは、救い主の復活を祝う  
神聖な家族の時間でした。

ある年、ロンドンに留学していたわ  
たしは、復活祭を独り寂しく過しま  
した。わたしの集っていたワードでは、  
午後遅くから集会が始まったので、朝  
の時間が長く感じられました。わたし  
ははるか遠く離れた所で、わたしのい  
ない復活祭を祝っている家族につい  
て考え、むなしく悲しい気持ちになり  
ました。

最初は自己憐憫れんびんに浸っていたいと  
思いましたが、次第にこの日を意義深  
いものとするために何ができるだろう

と考え始めました。そして、満員の地  
下鉄で毎日擦れ違う人々のことを考え  
ました。多くの大都市と同様、ロンドン  
でも地下鉄はしばしば、物乞  
いをするホームレスの男  
女の避難場となっ  
ていました。わたしは  
彼らに同情すること  
がよくありました。そ  
して、ここロン  
ドンで独り  
ぼっちで  
復活祭を

**彼** はその弁当を  
しっかりと  
つかむと、  
まるで高価な  
宝物でも  
もらったかのように、  
握り締めました。



過ごしているのはわたしだけではないことに気づきました。そう考えているうちに、知らない人々を助けることは、子供のころに経験したすばらしい復活祭に感謝する良い方法だと思えてきました。

わたしはサンドイッチ、果物、クラッカー、飲み物などの入った小さな弁当を幾つか作ると、以前は避けることもあった人々を探しに地下鉄へ行きました。弁当を差し出すと、ほとんどの人が心から感謝してくれました。わたしは一人一人に、「復活祭おめでとう!」と言いました。

弁当があと一つになったとき、わたしは特にみすばらしい身なりの一人の男性に出くわしました。服は汚れ、その顔に苦勞の跡が刻まれ、目には深い悲しみが漂っていました。最後の弁当を差し出すと、彼は驚いたようにわたしを見詰めました。

「これは何だい?」と彼は尋ねました。

「お弁当です」とわたしは答えました。

「ありがとう、ほんとうにありがとう」と彼は言いました。突然、彼の顔は喜びと感謝の顔に変わりました。彼はその弁当をしっかりとつかむと、まるで高価な宝物でももらったかのように、握り締めました。

「どういたしまして」とわたしは言いました。そして、彼の表情に感銘を受けながら言いました。「復活祭、おめでとうございます。」

「復活祭、おめでとう!」と彼は答えました。

歩いて帰宅する途中で、わたしはベニヤミン王の言葉を思い出しました。「見よ、わたしたちは皆、物乞いではないだろうか。(モーサヤ4:19)救い主がいらっしゃらなければ、わたしたちは皆、外に投げ出され、虐げられ、独りぼっちになるでしょう。しかし、救い

主は手を差し伸べ、わたしたちが切望するもの、すなわち、清くなり、再び生き、いつの日か主のもとに帰る希望を与えてくださるのです。

罪と死という現実の前では、わたしも救い主の前に立つ物もらいの一人です。主は手を差し伸べ、わたしを憐れんでくださいます。いつの日か、主の前に立ったとき、わたしの顔には、あの謙遜な男性のように深い感謝の念が刻み込まれていることでしょう。

歩いて帰宅する途中、涙がこぼれてきました。寂しさは喜びに変わり、ベニヤミン王の言葉と救い主の憐れみを深く理解することができました。あの男性からもらった予期せぬ贈り物に心の中で感謝しました。わたしが彼に差し出したのは簡単な弁当でしたが、彼がわたしに返してくれたのは真の復活祭のごちそうだったのです。

## 救い主の救いの手

スコット・マッコイ

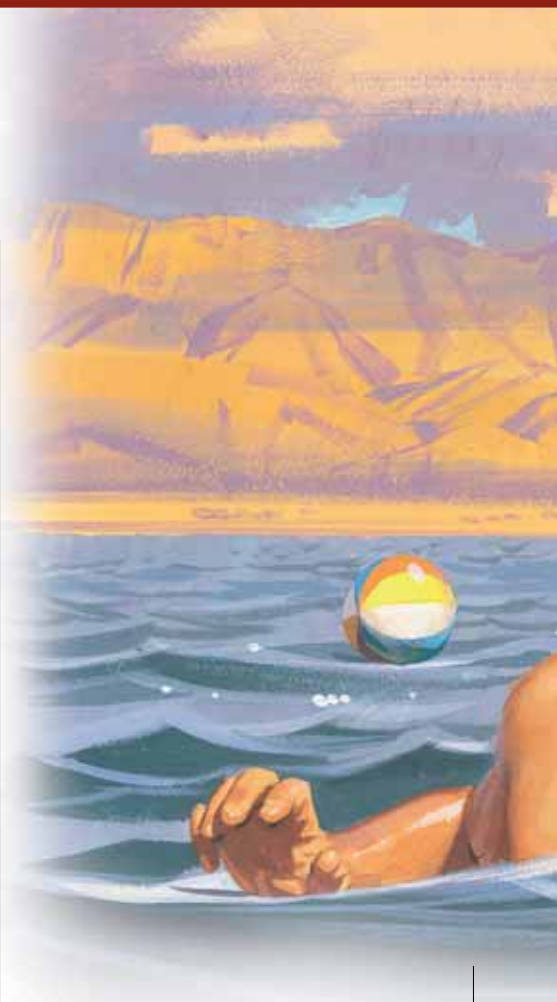
**わ**たしはアーカンソー州で育ちました。ある夏、隣人から誘われて、ミシシッピ州サーデイスの近くにある大きな貯水池で、2、3日間キャンプや釣り、水泳をして過ごしました。数日間、ありとあらゆる野外活動を楽しみました。

最終日、帰宅する前にもう一泳ぎしていました。友人とわたしがビーチボールを投げ合っていると、ボールがわたしの頭を越えて、少し離れた所に落ちました。するとすぐに風が吹き、ボールは水面を滑るようにして離れて行きました。わたしはボールを追い

かけました。でも、もう少しで手が届く所まで来る度に風が吹き、ボールが離れて行きました。しばらくすると、わたしは浅い遊泳区域の端まで来ていました。ボールは風に吹かれて、境界線の目印を越え、深い方に飛んで行きました。

わたしは自分が境界線の目印に近づいていたことに気づきませんでした。ボールはすぐ目の前にあり、必ず取れると思っていました。人命救助コースを終了していたわたしは、コース終了時にももらったバッジを誇らしげに水泳パンツに付けていたくらいで、泳ぎには自信がありましたし、ボールを取り戻すのに必要な体力は十分であると確信していました。

ところが、風が吹き続け、いつまでたってもボールに手が届きません。指の先が触るくらいまで近づいたりもしましたが、結局、ボールはわたしから







**あ**のボートの男性のように、救い主はわたしが救い主を最も必要としたときに助けに来てくださいました。

離れて行きました。そうこうするうちに、ポールは突風にあおられて、はるか遠くに飛んで行ってしまいました。

わたしは泳ぐのをやめて体を休めました。そのとき初めて、自分がどれほど遠くまで来たのかに気づきました。水は浅瀬の泳区域に比べると、はるかに青くひんやりとしていました。岸の方を振り返ったとき、自分が貯水池の真ん中辺りまで来ていることに気づきました。わたしはビーチポールをあきらめ、岸まで泳いで帰ることにしました。疲れてへとへとになっていましたが、不安ではありませんでした。自分はまだ若く、だいじょうぶだと思っていました。

しかし、岸に戻ろうとしたときに、ビーチポールをあおっていた風が、今度は逆風となって泳ぎを妨げました。どれほど一生懸命泳いでも、なかなか進めません。腕も足も痛くなってきま

した。犬のように頭を上げて泳ぐのをやめ、力を取り戻そうとしました。

そのとき、聞き覚えのある音が聞こえました。モーターボートの音でした。すぐに、小さなボートに乗った男性がそばに来て、海岸まで乗せて行きましょうと言ってくれました。うれしく、またほっとしました。わたしは腕も足も動かすことができませんでした。自力でボートに乗り込むことすらできませんでした。それで、片方の手をボートに掛け、もう一方の手はだらりとたれた状態でボートにしがみついたまま、その見知らぬ人に遊泳区域まで引っ張って行ってもらいました。わたしは遊泳区域を示すブイをつかみ、ボートから手を離すと、感謝を込めて彼に手を振り、泳いで岸に戻りました。

15年後、わたしは別の問題に遭遇していました。長い間、罪の貯水池で泳いでいたのです。この世的な道を選

び、ほとんどあるいはまったく価値のないことを追い求め、罪の深みでもがいていたのです。わたしは力を使い果たし、希望をなくしていました。求めていたことにはいつまでたっても手が届かず、そのまま進んでいたら暗闇に飲み込まれるところでした。

必死の思いで、わたしは天の御父に叫び求めました。あのボートの男性のように、救い主はわたしが救い主を最も必要としたときに助けに来てくださいました。神の末日の預言者を通して、救い主はわたしをモルモン書へと導いてくださいました。悔い改めの道を歩めるように、また、バプテスマの水で自分の罪を洗い流せるように、救い主はわたしを導いてくださいました。救い主はわたしを以前より高い場所に置いてくださったのです。以来、わたしはそこから離れないように努力しています。

## ぼくは 末日聖徒です

**む**すこのニコラスは、5才のとき、市内有数の学校に通っていました。その学校はほかの教会が運営しています。ニコラスはその教会の会員ではありませんでしたが、入学を許されました。

ある日、その学校と教会で指導的な立場にある男性が、ニコラスを礼拝堂の外に連れ出して、なぜ学校の宗派に加わらないのかとニコラスにたずねました。

ニコラスは言いました。「ぼくは末日聖徒です。」

その人はニコラスを説得して、ニコラスの考えを変えさせようとした。どの教会にも真理があり、イエス・キリストを信じているのだと言うのです。

ニコラスは答えました。「両親から、この教会に敬意をはらうように教えられています。でも、ぼくは末日聖徒でいることが好きなのです。」その人はニコラスの言葉を受け入れ、もう二度とニコラスをなやませることはありませんでした。

ニコラスは、イエス・キリストの模範に従う良い手本です。わたしたち両親にとってもニコラスは良い模範なのです。

コロンビア、ルス・ジェセニア・モレノ・リベラ

「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」  
(ヨハネ8:12)

## 大きな愛

**ち**よっとした事故にあったからというもの、わたしはつえを使い、ゆっくりでなければ歩けなくなりました。階段はとても大変です。教会では、階段をふみ外しはしないかといつもびくびくしていました。でも、ある日曜日に、やさしい声が聞こえ、小さな手がわたしの手をにぎってくれました。「頑張って。ぼくがついているから。」

見下ろすと、9才のガブリエルが「安心して」と言わんばかりの笑顔で立っていました。

「とても助かるわ!」わたしは言いました。「今日からあなたがわたしの付きそいね。さあ、行きましょう!」

ガブリエルはだれかにたのまれて来たわけではありません。ただ、困っているおばあさんを見かけたので、自分から来てくれたのです。今では、日曜日は毎週、ガブリエルと一緒に、安心して階段を降りています。

わたしはガブリエルの両親にこう言いました。「安心できるようになったのは、体を支えてもらえるからではなくて、毎週日曜日に大きな愛をもらっているからなのよ。ガブリエルはまだ小さいけれど、親切な心はまるで巨人のようだよ。」

ブラジル、ノルマ・ラモス・デ・オリベイラ



# 主は わたしたちの涙を ぬぐってくださいます

主イエス・キリストを思うとき、わたしは主の愛を感じ、主をほめたたえたい気持ちでいっぱいになります。主がわたしを理解し、優しく導いてくださっていることを知っています。主はわたしの救い主です。

主は喜んですべてを犠牲にして、細くて狭い道を開いてくださいました。そのおかげで、神のすべての息子娘たちは、再び神のもとに帰れるようになったのです。わたしたちは神の言葉にしっかりつかまっていさえすればよいのです。神の言葉は、道をそれずに最後まで進んで行けるように導いてくれます。

細くて狭い道から外れると、主とのつながりが失われます。でも、わたしたちが救しを求めらるなら、肉体的にも精神的にもすべての苦しみと悲しみを経験された主は、わたしたちの涙をぬぐってくださいます。主イエス・キリストの贖いを通して、わたしたちは生まれ変われるのです。

わたしたちは小さくて弱い者ですが、主と一緒にいてくださるので、恐れるものは何もありません。わたしは主が生きておられ、わたしたちを愛してくださっていることを知っています。わたしは心の底から主を愛しています。

生きて変わらぬ主

御名に栄えあれや

喜びの言葉 「主は生けりと知る」

(「主は生けりと知る」『賛美歌』75番)

日本、原田知子



「小 羊についてなされてきた  
多くの証の後、わたしたちが  
最後に小羊についてなす証はこれである。  
すなわち、『小羊は生きておられる。』  
(教義と聖約76:22)

